修正内容一覧

物質ID	物質名	CAS番号	項目					修正前						修正後		備考
17/J JEL [10]	190只 12	ONO THE	ペロ	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠·問題点	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠·問題点	JHI 75
21A3501	六フッ化硫黄	2551-62-4	特定標的臟器毒性 (単回暴露)	区分3(麻酔作 用)	感嘆符	警告	眠気又はめまいのおそ れ		当該物質は1000 ppmで本質的に無毒であるが、主な 能陸性はむこと空気とリョン・から空気に増生物も とによる窒息であると述べられている(ACGH (2001))。ラットに800000 ppmの変入以気濃した場合 にも毒性影響はなく、無毒性と結論されている (PATTY (5th, 2001))。また、とトの職業はく端では、 低酸素血、半毎帳、肺水腫、発度のアジ・ーンスなど の症状が報告されている(EHC 227 (2002))が、築島 に加え分解物の毒性(EHC 227 (2002))が、築島 に加え分解物の毒性(EHC 227 (2002))が、築島 に加え分解かの毒性(EHC 227 (2002))が、窓島 に加え分解かの毒性(EHC 227 (2002))が、窓島 によれて、吸入経路では区分外に相当すると 見られるが、一方では当該物質には床酔作用がある ことを示す記述(PATTY (6th, 2001))があり、複めて 高速度での弱い麻酔作用以外は不活性のガスである とのまでは、日本では、日本では、日本では、日本では、日本である とのまでは、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本	区分3(麻酔作用)	感嘆符	警告	眠気又はめまいのおそれ		当該物質は1000 pmで本質的に無毒であるが、主な 危険性はおしる空気・UPU・かの空気・UPU・かの空気・UPU・かの空気・UPU・かの空気・UPU・かの空気・UPU・UPU・UPU・UPU・UPU・UPU・UPU・UPU・UPU・UP	2014.10修正
21A3505	亜リン酸トリエチル	122-52-1	皮膚刺激	区分外	-	-	-		ウサギを用いた試験(OECD TG 404)で、弱い刺激性 (slightly irritating) (PDII: 1.4) (SIDS (2003))及び別 のウサギのDzaze 試験で程度の刺激性 (milddy irritating) (PDII: 1.1) (SIDS (2003))に基づき、JIS分 糖基準の区分が(国連分類基準の区分3(Ic該当)とした。	区分外	-	-	-		ウサギを用いた試験(OEOD TG 404)で、弱い刺激性 (slightly irritating) (PDII: 1.4) (SIDS (2003)) 及び別 のウサギのPraize 試験を経皮の刺激性(DM) irritating) (PDII: 1.7) (SIDS (2003))に基づき、JIS分 類基準の区分外(国連分類基準の区分3に該当)とした。	2014.10修正
21A3505	亜リン酸トリエチル	122-52-1	眼刺激	区分2B	-	警告	眼刺激		ウサギを用いた試験(OECD TG 405)で、適用1時間 後に3/3四に美添、2/3回に軸線運動が見られたが、 4時間後には完全に回復し、角膜と虹影には影響が なく軽度の刺激性に崩砕け、irritating)(SIDS (2003)) との評価であった。また、ウサギを用いたDraze 法に よる別の試験では、刺激性は適用1日目のみ認めら 、洗浄眼の対験では、刺激性は適用1日目のみ認めら 、洗浄眼の方が非洗浄眼と強かったが、48時間 後には完全に回復し、中等度の刺激性(moderately irritating)(SIDS (2003))との評価であった。以上の2 試験の結果から区分28とした。	区分2B	-	警告	眼刺激		ウサギを用いた試験(OECD TG 405)で、適用1時間 後に3/3匹に発売、2/3匹に結膜浮腫が見られたが、 48時間後には完全に回復し、角膜と虹影には影響が なな軽度の刺激性 (slighty) irritating) (SIDS (2003)) との評価であった。また、ウサキを用いた戸2020 柱 よる別の試験では、刺激性は適用1日目のみ認めら れ、洗浄眼の対験では、刺激性は適用1日目のみ認めら れ、洗浄眼の対験では、刺激性を 減少はかったが、4、49時間 後には完全に回復し、中等度の刺激性(moderately irritating) (SIDS (2003))との評価であった。以上の2 試験の結果から区分2Bとした。	2014.10修正
21A3512	4ー(1, 1, 3, 3ーテトラメチルプチル)フェ ノール	140-66-9	特定標的臟器毒性(反復暴露)	区分2(腎臓、肝臓)	健康有害性	警告	長期にわたる、又は反 復暴露による臓器(腎臓、肝臓)の障害のお それ		ラットを用いた混餌による90日間反復投与試験において、300 ppm (15mg/kg/day)の用量で軽度の体車 期制、3000 ppm (15mg/kg/day)の用量で軽度の体車 期制、3000 ppm (15mg/kg/day)の用量で軽度が大きたがよいない(環境もカットでは270にテロキシン濃度の低下が見られたが組織病理学的影響はみられていない(環境も30 pg/kg/day)の用量で腎臓の原細管上皮の再生性変化及び、血清アルブミンの環かと400円であり、他のラットの28日間反復接与15歳候)とほの低下が見られ(厚労信報告(accesson July 2009)、他のラットの28日間反復経口投与15歳候(OEDT GAGY)、GRY (301日間算78mg/kg/day)の用量で腎臓の原細管上皮の再生性変化及び、肝臓小薬中心性の軽度の肝細胞肥大かられている(SIDS (1995)、腎臓の尿細管上皮の再生性変化及び、肝臓小薬中心性の軽度の肝細胞肥大と血清アルブミンの減少とA(GBUの低下下)関いの増加が見られることから区分2(腎臓、肝臓)とした。	区分2(腎臓、肝臓)	健康有害性	警告	長期にわたる。又は 反復暴露による臓 器(腎臓、肝臓)の 障害のおそれ		ラットを用いた課類による90日間反復控与試験において、300 ppm(15mg/kg/day)の用量で軽度の体重 抑制、3000 ppm(150 mg/kg/day)の用量で軽2/20にテロキシン濃度の低下が見られたが組織病理学的影響はかられていないに環境 31/2 7月間へ2(2003))。一方、ラットの混削による28日間反復 投与試験において、ガイダンスの区分にに参当するの300 mg/kg/day(90日間算93 mg/kg/day)の用量で腎臓の尿細管上皮の再生性変化及び、血清アルブミンの減少とA/G比の低下、尿素窒素の増加が見られ(厚が省軽者にの医分/2に該当するの250mg/kg/day(90日間度を接口は多点が高くの形で、15mg/kg/day(90日間算 78mg/kg/day)の用量で腎臓の原熱管上皮の再間、15mg/kg/day(90日間算 78mg/kg/day)の用量で腎臓の原熱管上皮の再生性変化、肝臓小薬中心を必要を用機的原生の下側の原との下側の原とが表が出ている(SIDS(1995)。腎臓の尿細管上皮の再生性変化、肝臓小薬中心付近的低下、尿素窒素の増加が見られることから区分(16階)、肝臓)とした。	2014.10修正
21A3521	5-エチル-2-メチルビ リジン	104-90-5	特定標的臟器毒性 (単回暴露)	区分2(神経系)	健康有害性	警告	職器 (神経系) の障害の おそれ		ラットの急性経口毒性試験(OECD TG401)における LD50値は1737 mg/kg(単回ばく靄のガイダンス値区 分20施囲)であり、症状として嗜眠、流涙、運動失い 50 kg 50	区分2(神経系)	健康有害性	警告	臓器(神経系)の障害のおそれ		ラットの急性経口毒性試験(OECD TG401)における LD50値は1737 mg/kg(単回ばく露のガイダンス値区分2の範囲)であり、症状として嗜眠、流涙、運動失知、鶏呼吸などが観察されている(ISDS (1995))、一方、ピリジンおよびアルギル影導体の主な作用に神経系和制が記載されている(ISDB (2003))とと参うせ、区分2(神経系)とした。なお、ラットの吸入ばく露により肺の気腫、つ血、水腫が見出されているが、ガイダンス値範囲を超えた高濃度における所見である(PATTY (5th, 2001))。	2014.10修正
21A3526	p-ベンゾキノンジオキ シム	105-11-3	急性(経口)	区分4	感嘆符	警告	飲み込むと有害		ラットLD50値 464 mg/kg bw(<mark>IRAC</mark> 29 (1982))に基づ き、区分4とした。	区分4	感嘆符	警告	飲み込むと有害		ラットLD50値 464 mg/kg bw(<mark>IARC</mark> 29 (1982))に基づ き、区分4とした。	2014.10修正

物質ID	物質名	CAS番号	項目	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	修正前 注意書き	分類根拠·問題点	分類結果	絵表示	注音响扫描	危険有害性情報	修正後 注意書き	分類根拠・問題点	備考
21A3526	p-ベンゾキノンジオキ シム	105-11-3	特定標的臟器毒性 (反復暴露)	区分2(腎臓)		※	長期にわたる。又は反復義語による臓器(腎臓)の障害のおそれ		ラットの7週間混餌投与紅族の500 mg/kg bw (90日換算:)において死亡率の増加、34、340mg/kg bw (90日換算:)において死亡率の増加、34、340mg/kg bw (90日換算:)で、株理潜加の邦場がかられているが他に顕著な影響は見られていない(IARC 29 (1982))。また、ウサギの4ヵ月経口投与試験の200mg/kg bwlこおいてアルカリホスファター世等の血液生化学値の変化以外に顕著な影響は見られていない(IARC 29 (1982))。ラットおよびマウスの104週間混餌投与試験(ラット・375、750 pm、マウス・750、1500pm)の所として、ラット並において智楽の運瘍発生率の増加とともに区分2の用量に相当する375pm (18.75mg/kg)で上皮過形板の増加が認められ、ラット健においては区分2の用量に相当する375mg/kg)で上皮過形板の増加が認められ、ラット健においては区分2の用量に相当する375mg/kgで電路の炎症、750 pm(37.5mg/kg)で人皮過形板の増加が認められ、ラット健においては区分2の用量に相当する375mg/kgで管路の炎症増加(IARC 29 (1982))が認められている。これらの腎臓の所見は前がん病変との関連を否定できないが、ラットによいでは、100円では、	区分2(腎 臓)	健康有害性		長期にわたる。又は 反復暴露による臓 器(腎臓)の障害の おそれ	A.A.O. III C	フットの7週間混餌投与試験の500 mg/kg bw(換算値)において死亡率の増加、34、340mg/kg bw(換算値)にはいて死亡率の増加、34、340mg/kg bw(換算値)で、体車増加の利制がみられているが他に顕著な影響は見られていない(ARC 29 (1982)。ナルカリホスファーゼ等の血液生化学値の変化以外に顕著な影響は見られていない(IARC 29 (1982))。フットおよびマウスの10週間混餌投与試験(ラット、375、750 pm、マウス・750、1500pmm)の所見として、ラット値において智識の腫瘍発生率の増加とともに反子の用値に利当する375mg/kg)で上皮過影球の増加が扱変が、750 pm(37.5mg/kg)で上皮過影球の増加が必要がある。カット値においては反分2の用量に相当する375mg/kg)で上皮過影球の増加が人病変との関連を否定できないが、ラット値はにおいて認められている。これらの腎臓の所見は前が人病変との関連を否定できないが、ラット離において認められている。これらの腎臓の所見は前が人病変との関連を否定できないが、ラット離世において認められることから区分2(腎臓)とした。	2014.10修正
21A3532	α.4-ジクロロトルエン	104-83-6	眼に対する重篤な 損傷性/刺激性	区分外	-	-	-		眼刺激性試験(OECD TG405)において、試験物質滴 下後24、48および72時間における評価の平均スコア 計算値は、①角膜混濁で03、0、03、2日後には回 後、②結膜発赤で07、07、07、3日後には回復、③結 膜浮腫で0、07、07、3日後には回復、③結 波が起められないことから区分外とした。	区分外	-	-	-		限制激性試験(OECD TG405)において、試験物質適 下後24、48および72時間における評価の平均スコア 計算値は、①角膜混濁で03.0,03、2日後には回 復、②結膜発赤で07.07、07、3日後には回復、③結 膜浮距で0,07.07、3日後には回復、鉱料には損傷 が認められない(BUA Report 236(2002))ことから区 分外とした。	2014.10修正
21A3541	二酸化炭素	124-38-9	特定標的臟器毒性(反復暴露)	分類できない	-	-	-		運動中に1.5%二酸化炭素に42日間曝露し、軽度のストレス反応が現れたものの、基礎生理機能や精神運動機能に明らかな低下はな(ACGIH (2001))、また、潜水ボランティアに1%二酸化炭素の22日間曝露では代謝性ストレスを認めたのみであった(ACGIH (2001))、さらに、24二配化炭素の曝露では深呼吸が見られ、速度の上昇に伴い呼吸抵抗が増し、3%以上では有害影響を免れないと述べられている(ACGIH (2001))、第二次世界大戦中の潜水艦での3%の曝露では、症状が関係から後、で11期制に移り、反か血流増加、株温低下、血圧低下、呼吸量増加、精神機能増加、株温低下、血圧低下、呼吸量増加、精神機能増加、株温低下、血圧低下、呼吸量増加、精神機能が増加、水温低下、血圧低下、呼吸量均加、精神機能が増加、大温低下、血圧低下、で30計分がある。以上のように、反復曝露に関しては情報が限られ、その多くのデータが古く、得られた所見も軽微な影響を除き一貫性がないことから、データ不十分なため「分類できない」とは、15年間、15年間、15年間、15年間、15年間、15年間、15年間、15年間	分類できない	-	-	-		運動中に15×二酸化炭素に42日間陽震し、軽度のストレス反応が現れたものの、基礎生理機能や精神運動機能に明らかな低下はなく(ACGIH (2001))、また、清水ボランティアに15〜最後投票を22日間隔壁は代制性エトレスを認めたのかであった(ACGIH (2001))。さらに、25〜最後投票の職業では深呼吸が見られ、表別しては有害影響を免れないと述べられている(ACGIH (2001))。 こった、世界が大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大	2014.10修正
21A3545	1-ペンタノール	71-41-0	急性(吸入:粉塵、 ミスト)	区分外	-	-	-		ラットにエアロゾルで用量14 mg/L/6h [= 21 mg/L/4h] を投与して、10匹中2匹が暴露中に死亡したとの報告(PATTY (5th, 2001))によりLD50値は> 14 mg/L/6h [= 21 mg/L/4h] であるため区分外とした。	区分外	-	-	-		ラットにエアロゾルで用量14 mg/L/6h [= 21 mg/L/4h] を投与して、10匹中2匹が暴露中に死亡したとの報告 (PATTY (5th, 2001))によりLC50値は> 14 mg/L/6h [= 21 mg/L/4h] であるため区分外とした。	2014.10修正
21A3545	1-ペンタノール	71-41-0	特定標的臓器毒性 (反復暴露)	分類できない	-	-	-		ラットに最大用量1000 mg/kgを13週間、経口反復投与した試験で、摂餌量および摂水量。血液学的および 血液生化学検査、尿検査・肝機能、臓器重量、あるい は組織病理検査結果に投与の影響はなかったとの報 告 (PATTY (5th、2001)) により、経口投与では区分 外に相当するが、他経路のデータがないので「分類で きない」とした。	分類できない	-	-	-		ラットに最大用量1000 mg/kgを13週間、経口反復投与した試験で、摂留重急よび摂水量、血液学的および 血液生化学検査、尿検査、腎機能、臓器重量、あるい は組織無理接査結果に投与の影響はなかったとの報 各 (PATTY (5th, 2001)) により、経口投与では区分 外に相当するが、他経路のデータがないので「分類で きない」とした。	2014.10修正
21A3548	エチルビニルエーテ ル	109-92-2	眼刺激	区分外	-	-	-		ウサギを用いた試験(OECD TG404)で刺激性なしと 報告(IUCLID (2000))されていることにより区分外と した。	区分外	-	-	-		ウサギを用いた試験(OECD TG405)で刺激性なしと 報告(IUCLID (2000))されていることにより区分外と した。	2014.10修正
21A3555	クロロギ酸エチル	541-41-3	急性毒性(吸入:蒸気)	区分2	環境	危険	吸入すると生命に危険		ラットLD50 雄:145 ppm/1h(72.5 ppm/4h)、雌:170 ppm/1h(85 ppm/4h)(Toxicology and Applied Pharmacology, 42, 417, 1977)は区分2に該当する。な、飽和蒸存に選接の9096130.892 mg/L(29473.7 ppm)以下であり、気体の基準値を適用した。	区分1	どくろ	危険	吸入すると生命に 危険		ラットLD50 雄:145 ppm/1h(72.5 ppm/4h)、雌:170 ppm/1h(85 ppm/4h)(Toxicology and Applied Pharmacology, 42, 417, 1977)(は医グリに接当する。な、飽和表氏正濃皮の9043 03.982 mg/(29473.7 ppm)以下であり、気体の基準値を適用した。	2012.3修正
21A3558	クロロトリメチルシラン	75-77-4	皮膚刺激	区分1	腐食性	危険	重篤な皮膚の薬傷及び 眼の損傷		ウサギの皮膚に0.5 mLを4時間適用後、1時間以内に 重度の紅斑と中等度の浮腫およびを落屑を伴う壊死 が見られ、1週間の観察期間中には回復せず、皮膚 へ対刺激指数は2.2/8.0であった(HSDB(2007))が、 ウサギを用いた別の試験では強い腐食性(highly cossosive)と報合され(UICLID(2000))、また、本物 質は皮膚に腐食性があると記載されている(HSDB (2007))ので、区分1とした。	区分1	腐食性	危険	重篤な皮膚の薬傷 及び眼の損傷		ウサギの皮膚に0.5 mLを4時間適用後、1時間以内に 重度の紅斑と中等度の浮腫およびを落屑を伴う壊死 が見られ、週間の観察期間中には回復せず、皮膚 一次刺激特数は22/80であった(HSDB (2007))が、 ウサギを用いた別の試験では強い腐食性(highly corrosive)と報合され(IUCLID (2000))、また、本物 質は皮膚に腐食性があると配載されている(HSDB (2007))ので、区分1とした。	2014.10修正
21A3558	クロロトリメチルシラン	75-77-4	眼刺激	区分1	腐食性	危険	重篤な眼の損傷		ウサギの眼に試験物質原液を0.005 mLを適用した試験で、角膜傷害、虹彩炎、壊死を伴う中等度~重度 の結膜炎が認められ、平均ドレイズスコアの最大値あるた(HSDB (2007))が、ウサギを用いた別の試験では強い腐食性(highly cossosive)との報告(IUCLID (2000))があり、また、本物質は眼に腐食性があると記載されている(HSDB (2007))ので、区分1とした。	区分1	腐食性	危険	重篤な眼の損傷		ウサギの眼に試験物質原液を0.005 mLを適用した試験で、角膜傷害、虹彩炎、壊死を伴う中等度~重度はの結膜波が認められ、平均トレイズスコアの最大値のあるからに(HSDB(2007)が、ウサギを用いた別の試験では強い腐食性(highly corrosive)との報告(IUCLID(2000)があり、また、本物質は眼に腐食性があると記載されている(HSDB(2007))ので、区分1とした。	2014.10修正

物質ID	物質名	CAS番号	項目	A STALES	**	L 12 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10		修正前	A STAGAS BRIEF L	0 tr 6+ m		1 12 m - 0 425T		修正後	A 17 17 15 18 18 18 1	備考
21A3565	炭酸ジエチル	105-58-8	皮膚刺激	分類結果 分類できない	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報 -	注意書き	分類根拠・問題点 データ不足で分類できない。なお、ヒトで本物質は強 い刺激性である(HSDB (2003))、接触により皮膚を 刺激するとの記載がある(HSFS (2006))が詳細が不 明であり分類できない。から、区分2とした。	分類結果分類できない	絵表示 -	注意喚起語	危険有害性情報 -	注意書き	分類根拠・問題点 データ不足で分類できない。なお、トトで本物質は強 い刺激性である(HSDB (2003))、接触により皮膚を 刺激するとの記載がある(HSFS (2006))が詳細は不 明であるため分類できない。	2014.10修正
21A3565	炭酸ジエチル	105-58-8	特定標的臟器毒性 (単回暴露)	区分3(気道刺 激性)	感嘆符	警告	呼吸器への刺激のおそ れ		ラットにガイダンスの区分2の用量を超える8000ppm (38mg/L)の2時間ばく露により、あえぎ、強調運動障害、口鼻からの泡、肺炎を起こして死亡する(PATTY (5th, 2001)との記述、ならいこと下で本物質は強い刺激性である(HSDB (2003))とされていることより、区分3(気道刺激性)とした。	区分3(気道刺激性)	感嘆符	警告	呼吸器への刺激の おそれ		ラットにガイダンスの区分2の用量を超える8000ppm (38mg/L)の2時間ばく露により、あえぎ、協調運動障害、口、鼻からの泡、肺炎を起こして死亡する(PATTY)との記述、ならびに上下で本物質は強い刺激性である(HSDB (2003))とされていることより、区分3(気道刺激性)とした。	2014.10修正
21A3579	デカン	124-18-5	特定標的臓器毒性 (反復暴露)	分類できない	-	-	-		ラットに540 ppm(3.14 mg/L/18h)を57~123日間蒸 気によるばく露試験で総白血球数の変化などが認め られ(PATTY (5h, 2011)、フウスに0.1-0.15 g/匹の 用量を50週間経皮投与した試験では肺と腎臓への影 響が観察されたとの部態(PATTY (5h, 2011))があ るが、いずれたどの部態(PATTY (5h, 2011))があ のが、いずれたがイダンス値範囲を超えた高用量での 所見のため、データ不足で「分類できない」とした。	分類できない	-	-	-		ラットに540 ppm (3.14 mg/L/18h)を57~123日間蒸 気によるばく露試験で約白血球数の減少などが認め たれ(PATTY (5th. 2001))、アウスに0.1-0.15 g/匹の 用量を50週間経皮投与した試験では前と腎臓への影 響が観察されたとの記載 (PATTY (5th. 2001))があ るが、いずれもガイダンス値を囲を担えた高用量での 所見のため、データ不足で「分類できない」とした。	2014.10修正
21A3579	デカン	124-18-5	吸引性呼吸器有害 性	分類できない	ı	-	-		データ不足で分類できない。なお、本物質の動粘性率は1148 mm2/s(25°C)、819 mm2/s(50°C) である。また、ラットに吸引により肺水腫と出血を起こし、24時間以内に死亡したとの報告(PATTY (5th, 2001))がある。	分類できない	-	-	-		データ不足で分類できない。なお、本物質の動粘性率は1148 mm2/s(25°C)、819 mm2/s(50°C)である。また、デカンの2mをラットに吸引を動きませた。 護性のは、2m能力のでは、2m能力のでは、2mm2/scmm2/scm	2014.10修正
21A3580	クロロ酢酸メチル	96-34-4	特定標的臟器毒性 (単回暴露)	区分2(全身毒性) 区分3(気道刺激性)	健康有害性 感嘆符	警告	職器(全身毒性)の障害 のおそれ 呼吸器への刺激のおそ れ		ラットの急性経口毒性試験において、呼吸困難、不活動、鈍麻、うずくまり、体位異常、平衡障害、下痢、被毛の乱れなどの症状、死亡例の剖検では肝臓、腎臓の暗色化、砂臓のが穏と充血、出血性臓食性胃炎などが観察された(BUA 150 (1994))。ラットの急性吸入毒性試験では、呼吸、協調運動および反射の障害、身づくろい増加、鼻腔破皮形成、チアノゼなどの外に、腹臥位や平衡管害などの非外質が大き元し、死亡例の削検所見は肺と消化管の変化で投与試験では紅斑や浮腫の皮膚症状に加え、死亡例の前検で血管の充血を伴う小腸の発赤、肝臓の間的の消化を血管の充血を伴う小腸の発赤、肝臓の間的で、自然を力を行い、1994)。生物を引きない。1994)。生物の影像で血管の充血を伴う小腸の発赤、肝臓の間的所見では経口および経皮投与で異常はなかったが、(BUA 150 (1994))。以上の毒性影響は、LD50値(経 1107~140 mg/kg. 経皮、130~318 mg/kg. 吸入1、1945~141 mg/kg. 経皮、130~318 mg/kg. 吸入1、1945~141 mg/kg. 経力、130~318 mg/kg. 吸入1、1947~7~5~8 mg/kg. 以2、1945~141 mg/kg. 不成1945~14 mg/kg. 不成1945~141 mg/kg. 不成1945~14 mg/kg. 不成	区分2(全身 毒性) 区分3(気道 刺激性)	健康有害性 感嘆符	警告	臓器(全身毒性)の 障害のおそれ 呼吸器への刺激の おそれ		ラットの急性経口毒性試験において、呼吸困難、不活動、鈍麻、ラザくまり、体位異常、平衡障害、下痢、被 私の乱れなどの症状、死亡例の制練では肝臓、脾 減、腎臓の暗色化、心臓の拡張と充血、出血性腐症 性胃炎などが観察された(840 150 (1994)、ラット の急性吸入毒性抗薬では、呼吸、協調運動および反 材の障害、身づくろい増加、鼻腔筋皮形成、テフ・ なるどの外に、腹吸位や平衡障害などの非特異的症 状を売した(DFGOT Vol.9(1998))、死亡例の剖検所且 は肺に消化性の変化であった(BUA 150 (1994)。 ラットおよびウサギの経皮投与試験では基近投や厚塵 の皮膚症状ルス、死亡例の創検で血管の充血を伴 う小腸の発赤、肝臓の暗色化などが示された(BUA の皮膚症状ルス、死亡例の創検で血管の充血を伴 う小腸の発赤、肝臓の脂色化などが示された(BUA 皮投与で異常はなかったが、吸入は〈驚では新の肥 大と色調変化が認められた(BUA 150 (1994))。以上 を良ちで異常はなかったが、吸入は〈驚では新の肥 大と色調変化が認められた(BUA 150 (1994))。以上 を見含・318 mg/kg、吸入・1995~1418 mg/kg、経 皮に入れると、カイダンス値の分148でのが様 的臓器の特定が困難、かつリスト2のデータであること かに反外と全身毒性)とした。また、210pのまたはそれ れ以上のばく電で気道に重度の刺激性との記載 (DFGOT Vol.9 (1998))があることから区分3 (気道刺 激性)とした。	2014.10修正
21A3583	プロビオン酸エチル	105-37-3	特定標的職器毒性(単回暴露)	分類できない	-	-	-		ラットに経口投与により、11.3 mL/kg(10080 mg/kg) 以上では不活発、虚影の症状を呈し、15分~3時間に 死亡したが、8.0 mL/kg(7136 mg/kg)以下の用量では 患者比影性は観察されていない(HSDB (2002))。また、ウサギに16mL/kg bw = 14000 mg/kgを経皮投与 により、艦1例が偏速を呈して死亡したこを除き その他には全身毒性の症状は観察されなかった(HSDB (2002))。さらに、ラットに飽和蒸気(推定濃度19)。すり、ラットに飽和蒸気(推定濃度19)・デザ吸、低体温、呼吸緩徐、正向反射の低下または消失、圧刺激による反射消失などが観察され、45分ぱく 霊では9/10例が死亡し、LT50(半数数死時間)は3定。で3分と報告されている(HSDB (2002))。以上の結果から、経口投与では7136 mg/kg以下の用量で毒性影響が認められて以よいので区分外に相当するが、影響が認められて以よいので区分外に相当するが、表しまない。といたがつて、特定網囲を超えた用量では死亡を含む悪影響が認められており、カットオブ値付近のデータがなよい。たがつて、特定標的観器書書性として総合的な分類は「分類できない」とした。	分類できない	-	-	-		ラットに経口投与により、11.3 mL/kg(10080 mg/kg) 以上では不活発、虚脱の症状な量し、15分~3時間に 死亡したが、8.0 mL/kg(718mg/kg)以下の用量では毒性影響は観察されていない(HSDB (2002))。また、ウサギに16mL/kg bw = 14000 mg/kgを経皮投与により、護例が高渡を置して死亡したことを除き、その他には全身毒性の症状は観察されなかった(HSDB (2002))。を15、ラットに動和蒸気(推定議算197 mg/L)を11.2、225または45分間は(蓋により、努力性・呼吸、活動性、呼吸延振、正向反射の低下または消失、圧刺激による反射消失などが観察され、45分は(蓋では9/10例が死亡し、LTSO(半数数死時間)は3(蓋では9/10例が死亡し、LTSO(半数数死時間)は3(蓋では9/10例が死亡し、LTSO(半数数死時間)は3(蓋では9/10例が死亡し、LTSO(半数数死時間)は3(蓋では9/10例が死亡し、LTSO(半数数死時間)は3(蓋では9/10例が死亡し、LTSO(半数数死時間)は3(蓋では9/10例が死亡し、LTSO(半数数死時間)は3(蓋では9/10例が死亡し、LTSO(半数数死時間)は3(蓋を15分)を報告されている(HSDB (2002))。以上もか、経度および吸入の場合はガイダンス値範囲を超えた用量では死亡を含む影響が認められていないので区分外に相当するが、経度および吸入の場合はガイダンス値範囲を超えた用量では死亡を含むり振りが高い。したがって、特定標的議議審情として総合的な分類は「分類できない」と	2014.10修正
21A3585	酢酸ヘキシル	142-92-7	急性(吸入:粉塵、 ミスト)	区分外	=	-	-		ラットのLCLo値 4000 ppm (23.6 mg/L) (PATTY (5th, 2001))に基づき、区分外とした。なお、毒性値 (4000 ppm) は飽和蒸気圧濃度 (1736 ppm) より高いので、ミ ストによる試験と見なした。	区分外	-	-	-		ラットのLCLo値 4000 ppm/4h (23.6 mg/L/4h) (PATTY (5th, 2001))に基づき、区分外とした。なお、 毒性値(4000 ppm)は飽和蒸気圧濃度(1736 ppm) よ り高いので、ミストによる試験と見なした。	2014.10修正
21A3586	ブタン酸メチル	623-42-7	急性(吸入:蒸気)	分類できない	-	-	-		データ不足で分類できない。なお、マウスLC50値 18 $gm/m3/2h$ (12.7 $mg/L/4h$ = 3047 $ppmV/4h$ (RTECS (2006)) のデータがある。飽和蒸気圧濃度の90%より低いのでほとんどミストを含まない蒸気で試験されたと考えられる。	分類できない	-	-	-		データ不足で分類できない。なお、マウスLC50値 18 $m/m3/2h$ (127 $mg/L/4h$ = 3047 $ppmV/4h$ (RTECS (2006)) のデータがある。飽和蒸気圧濃度の90%より低いのでほとんどミストを含まない蒸気で試験されたと考えられる。	2014.10修正

物質ID	物質名	CAS番号	項目					修正前						修正後	_	備考
,,,,,,,,,	1,77.		~=	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠·問題点	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠・問題点	JII. 3
21A3601	2, 6, 6ートリメチルビ シクロ[3.1.1]ヘプター 2ーエン(α-ビネン)	80-56-8	生殖毒性	分類できない	-	-	-		妊娠動物を用い、マウスは妊娠6~15日、ラットは妊娠9~14日、バムスターは妊娠~10日にそれぞれ経 旧投与した試験で、ラットの場合に高用量群で母動物 の体重抑制、胎盤おむ胎肝生量の低下が報音とも いることを除き、その他にはいずれの動物と表 動物へ影響は見られず、また、FPの発生に関する 全ての指揮で対照群との間に青意な差はなべ倍奇形 性も認められなかった(HSDB (2007)。しかし、親動 物の交配前からのば、露による性機能及び生殖能に 対する影響に関してはデータがなく明らかでないので 「分類できない」とした。	分類できな い	-	-	-		妊娠動物を用い、マウスは妊娠6~15日、ラットは妊娠6~16日、アルスターは妊娠6~10日とイルぞれ 国投与した試験で、ラットの場合に高用量群で母動物 の体重抑制、胎盤および胎円星量の低下が報告され ていることを除き、その他にはいずれの動物程とも親 動物への影響は見られず、また、仔の発生に関する 全ての特徴で対照群との間に有意な差はな(権奇形 性も認められなかった(HSDB(2099))。かし、親助 物の交配削からのば、二まとも性機能及び生殖能に 対する影響に関してはデータがなく明らかでないので 「分類できない」とした。	2014.10修正
21A3610	3-クロロ-1,2-プロパ ンジオール	96-24-2	急性(経口)	区分3	どくろ	危険	飲み込むと有毒		ラットLD50値として得られた9件(150,125,152,195, 250,50,58,172,116,150 mg/kg bw)のデータ (JECFA (2001)、DFGOT Vol.5 (1993))のうち、1件 が区分2、8件が区分3、に該当するため区分3とした。	区分3	どくろ	危険	飲み込むと有毒		ラットLD50値として得られた10件 (150, 125, 152, 195, 250, 50, 58, 172, 116, 150 mg/kg bw)のデータ (JECFA (2001)、DFGOT Vol.5 (1993))のうち、1件が区分2、9件が区分3、に該当するため区分3とした。	2014.10修正
21A3611	シクロベンタノール	96-41-3	特定標的臟器毒性(単回暴露)	区分2(中枢神経系)	健康有害性	警告	臓器 (中枢神経系)の障 害のおそれ		ラットの経口投与試験で、区分2のガイダンス値内の 0.625 ml/kg (594 mg/kg)、1.25 ml/kg (1188 mg/kg) で、不活発、不安定歩行、運撃などが見られ、制検で 肝臓の赤色および黄褐色の斑状と腎臓の直白が認 められ、0.625~2.5 ml/kg (594~2376 mg/kg)で目話を 条例が死亡した。また、ウサギの経皮投与試験で区 分1のガイダンス値内の0.2 ml/kg (190 mg/kg)以上 の用量で流張、理撃を認め、制検では経り促与と同じ、 にいているからないであるが、 の着白が見られ、し550値は0.14 ml/kg (134 mg/kg) であった。終日および経皮投与でガイダンス値範囲の 用量で動物の死亡が認められたこと、経皮投与では ガイダンス値を分相当であるがいまなからの情報であ ること、かつ経口および経皮経路とも痙攣などの神経 症状が認められていることから区分2(中枢神経系)と した。	区分2(中枢神経系)	健康有害性	警告	臓器(中枢神経系) の障害のおそれ		ラットの経口投与試験で、区分2のガイダンス値内の 0.825 ml/kg (594 mg/kg)、1.25 ml/kg (1188 mg/kg) で、不活発、不安定歩行。運学などが見られ、創検で肝臓の赤色および黄褐色の斑状と臀端の声白が起められ、0.825~2.5 ml/kg (594~2376 mg/kg)でほぼ全側が近した。また、ウサギの経皮投与試験で区分の用量で流度、運撃を認め、創検では経口投与に関して肝臓の赤色およびわずかな黄褐色の斑状と臀端の赤色およびもがかな黄褐色の斑状と臀端の蒼白が見られ、LD50値は0.141 ml/kg (134 mg/kg)であった。経口および経皮投与でガイダンス値範囲の用量で動物の死亡が認められたこと、経皮投与ではオイダンスをロおよび経皮経路とも痙攣などの神経症状が認められている(HSDB (2003))ことから区分2(中枢神経系)とした。	2014.10修正
21A3614	1.4-ジヒドロキシアン トラキノン	81-64-1	皮膚感作性	分類できない	-	=	-		List 2の情報 (IUCLID (2000))として、モルモットを用いた試験で「感作性なし(not irritating) 上の結果が報告されているが、試験法の記載がなく、また、マウスを用いたこLIA(試験ではSi値が2.8をであり、「感作性なし(not irritating)」とあるが、本物質「%濃度の「用量しか実施されておらず、いずれもデータ不十分のため分類できないとした。	分類できない	=	-	-		List 2の情報(IUCLID (2000))として、モルモットを用いた試験で「感作性なし(not sensitizing)」との結果が報告されているが、試験法の記載がなく、また、マウスを用いたLLNA試験ではSi値が2.86であり、「感作性なし(not sensitizing)」とあるが、本物質1%濃度の1用電しか実施されておらず、いずれもデータ不十分のため分類できないとした。	2014.10修正
21A3620	アフラトキシン	1402–68–2	特定標的臟器毒性(単回暴露)	区分1(肝臓)	健康有害性	危険	臓器(肝臓)の障害		サルを用いた経口単回投与試験で、用量18 mg/kgでは3ヶ月間で5匹死亡し、小薬中心性壊死、肥管増品 および線性がありた。 中華中心性壊死、肥管増品 および線性がありられたデータ (EHG 11 (1979))、サルに経口単回投与して、用量135 mg/kg以上では149時間以内に全て死亡し、肝細胞小薬中心性壊死等の肝臓所見の他に神経変性を伴うに経度投与して、用量14 mg/kg以上で8 /10匹に肝細か小薬中心性壊死が見られたデータ (EHG 11(1979))、ウサギに経度投与して、用量14 mg/kg以上で8 /10匹に肝細い楽中心性壊死が見られたデータ (EMG 56 (1993))、あるいは、ラナルの急性経口毒性試験において、肝臓以外にも、副腎出血、うっ血肺、あいは、心筋、腎臓、脾臓の政状境死が見られたとのデータに任 11(1979))があり、医が1のガイダンの範囲内で影響が見られる。更にマレージアにおける子供の中毒事例で肝性脳症が見られた報告(IARG 82 (2002))、あるいは、ビーフンを食べて血波と臓器に入るいくのでは、医が15年間が表現した。これでは、医が15年間が表現した。これで15年間が表現と、15年間が表現とで2002)とあるいは、ビーフンを食べて血波と臓器に表の血清中温度上昇を行りまれたサルの試験では、日本で15年間に発展性不全が最近によれて15年間に表現を15年間に発展性であるいるいるに対していることから医分けとした。なお、ウザギで肝臓以外の所見が無く脳水性が見られたサルの試験では、「最も首尾一貫した病理所見は肝臓の形態では、「最も首尾一貫した病理所見は肝臓の散験変性である」との報告(JARC 56 (1993))があることから、標的臓器は肝臓のみとした。	区分1(肝臓)	健康有害性	危険	臓器(肝臓)の障害		サルを用いた経口単回投与試験で、用量18 mg/kgでは3ヶ月間で5匹死亡し、小栗中心性壊死、服害増進、および線維化が見られ、生き残った2匹中匹では3年後に結節性肝硬変が見られたデータ (EHC 11 (1979))、サルに経口単回投与して、発生13.55 mg/kg以上では149時間以内に全て死亡し、肝細胞が乗中間帯破予の肝臓所見の他に神経変性を伴う脳水腫が見られたデータ (EHC 11 (1979))、ウサイに経及皮色して、用量14 mg/kg以上で8.0万匹に肝細胞が乗中心性壊死が見られたデータ (IARC 56 (1993))、あるいは、ラットの急性経口毒性試験におして、肝臓、卵臓の放せ検系が見られたたのデータ (IARC 56 (1993))、あるいは、ラットの急性経口毒性試験におした、肝臓以外にも、副腎出血、ラっ血肺、あるいは、した、腎臓、呼風の放せ検系が見られたたのデータに同じ、11 (1979)があるいは、ビーフンを食べて血液に勝部にアラトキでが検出されていることから区分に上げ、また、ウサモで肝臓以外の所見が無く(IARC 58 (1993)、脳水増が見られたがしたが良区分に大きなお、ウサモで肝臓以外の所見が無く(IARC 58 (1993))、脳水増所見は肝臓の脂肪変性である」との報告(EHC 11 (1979)があることから、標的臓器は肝臓ののおとといた。	2014.10修正
21A3620	アフラトキシン	1402-68-2	特定標的職器毒性 (反復暴露)	区分1(肝臓)	健康有害性	危険	長期にわたる、又は反 復奏簿による服器(肝 臓)の障害		サルを用いた反復投与試験において、用量1m/kg/d では22日以内に35匹全数死亡し、広範囲の出血性壊 死が見られ、025 mg/kg bw×週2回25ヶ月投与群で は、25匹全数に肝臓の変化(旧管増増や多核細胞 巨大細胞が見られたデータ(EHC II (1979))があ が現れがイゲンスの範囲ので影響が見られる。 彦学情報でもインドにおけるアフラトキンシ中毒症例 (患者397人中106人死亡)で、貴塩、発熱、腹水、足 浮腫、嘔吐の症状が見られ、ケニアにおける死亡を 伴った貴塩の大量発生事例では、肝細胞小薬中心性 の境死が見られた報告(にずれも14RC 56 (1993)) があることから、区分(肝臓) とした。	区分1 (肝臓)	健康有害性	危険	長期にわたる、又は 反復暴露による臓 器 (肝臓) の障害		サルを用いた反復投与試験において、用量 Im/kg/d では22日以内に35匹全数死亡し、広範囲の出血性壊 死が見られ、025 mg/kg bw x 週2回×5ヶ月投与群で は、24匹全数に肝臓の変化、旧管増殖や多核細胞、 巨大細胞)が見られたデータ (EHC II (1979))があ り、区分1のガイジスの範囲内で影響が見られる。 疾学情報でもインドにおけるアフラトキシン中毒症例 (患者397人中106人死亡)で、黄疸、発熱、腹水、足 浮腫・嘔吐の症状が見られ、ケニアにおける死亡を 件った責组の大量発生事例では、肝細胞小葉中心性 の壊死が見られた報告(いすれもJARC 56 (1993)) があることから、区分1 (肝臓)とした。	2014.10修正

物質ID	物質名	CAS番号	項目	A STALES	_ ^^ + =	L 10 mag 40.87		修正前	A STATISTICS BEAT L	() 9T4+ FR	T	L 12 mar 42 42 87		修正後	A STIPLE BOOK	備考
				分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠・問題点 1,2-ジエチルベンゼンをラットに75または100	分類結果	絵表示	汪恵喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠・問題点 1,2-ジエチルベンゼンをラットに75または100	
21A3625	1.2-ジェチルベンゼン	135-01-3	特定標的臟器毒性 (反復暴露)	区分2(中枢神 経系)	健康有害性	警告	長期にわたる。又は反 復暴露による臓器(中 枢神経系)の障害のお それ		mg/kg/dayと8週間経口投与(90日補正:約40~60 mg/kg/day)して脳幹線性誘発電位(BAEP)への影響 が調べられている(HSDB (2003))。重度の後肢脱力 と歩行障害を起こし、頂点潜時みま化BAEPの5成分 その振幅増加、頂点間帯の延長が見られたこと により、本物質は中枢神経系に毒性を有し、観察され 下島AEPへの影響は本物質が聴覚経路の機能的変化 を起こすことを示していると結論されている(HSDB (2003))。この結果に基づき、経口用量してガイダン ス億区分2の範囲に相当しているので、区分2(中枢神 軽系)とした。なお、14~ジエチルベンゼン(CAS105- 05-3)の情報も参照のこと。	区分2(中枢神経系)	[【] 健康有害性	警告	長期にわたる。又は 反復暴露による職器(中枢神経系)の 障害のおそれ		12/1/2 大力が多を週間経口投与(90日補正:約40~60 mg/kg/day)とで脳幹聴性誘発電(18AEP)への影響が関へられて、5(HSDB 2003))。重度の後肢脱力と歩行障害を起こし、頂点潜時およじBAEPの5成分と少行障害を起こし、頂点潜時が退長が見られたことにより、本物質は中枢神経系に毒性を有し、観察されたBAEPへの影響は本物質が聴覚経路の機能的変化を起こすことを示していると結論されている(HSDB (2003))。この発展に基づき、経口用量としてガイダンス値区分2の範囲に相当しているので、区分2(中枢神経系)とした。なお、14~ジェチルベンゼン(CAS105-00-5)の情報も参照のこと。	2014.10修正
21A3628	ジクロロシラン (二塩 化シラン)	4109-96-0	特定標的職器毒性 (単回暴露)	区分2(呼吸器 系)	健康有害性	警告	臓器(呼吸器系)の障害 のおそれ		List 3の情報であるが、呼吸により鼻、咽喉および肺 を刺激し、急性症状として、咽喉の痛み、咳、喘鳴、灼 熱感、息切れ、努力性呼吸の配載(IGSC (1997))が あることから区分2(呼吸器系)とした。	区分2(呼吸 器系)	健康有害性	警告	臓器(呼吸器系)の 障害のおそれ		List 3の情報であるが、呼吸により鼻、咽喉および肺 を刺激し(HSFS(2004))、急性症状として、咽喉の痛 み、咳、喘鳴、灼熱感、息切れ、努力性呼吸の記載 (IOSC (1997))があることから区分2(呼吸器系)とし た。	2014.10修正
21A3629	硫酸水素カリウム	7646-93-7	特定標的臓器毒性 (単回暴露)	区分3(気道刺 激性)	感嘆符	警告	呼吸器への刺激のおそ れ		吸入による症状として咳および咽喉の痛みが記載され、かつ、EU分類ではR37に分類されている(EU- Annex I (access on Sep. 2009))ことから、区分3(気 道刺激性)とした。	区分3(気道 刺激性)	感嘆符	警告	呼吸器への刺激の おそれ		吸入による症状として咳および咽喉の痛みが記載され(ICSC(2005))、かつ、EU分類ではR37に分類されている(EU-Annex I (access on Sep. 2009))ことから、区分3(気道刺激性)とした。	2014.10修正
21A3631	1,2-プロパンジアミン	78-90-0	急性(吸入:粉塵、 ミスト)	区分外	-	-	-		飽和蒸気圧濃度(42.3mg/L:25°C)の8時間ばく露で 死亡なし(PATTY(5th,2001))とのデータがあり、4時間検算で84.6mg/L/4hであることから区分外とした。	区分外	-	-	-		飽和蒸気圧濃度(42.3mg/L:25°C)の8時間ばく露で 死亡なし(PATTY (5th, 2001))とのデータがあり、4時 間換算で84.6mg/L/4hであることから区分外とした。	2014.10修正
21A3638	プロピレン三量体	13987-01-4	急性(経口)	分類できない	-	-	-		データがなく分類できない。 なお、類縁物質のラッドLD50値について、CAS No. 68526-55-6 (Alkenes, C8-10, C9 Rich) は、> 2332 mg/kg (SIDS (2004))、CAS No. 97593-01-6 (Alkenes, C8-10, C9 Rich) は、> 2350 mg/kg (IUCLID (2000))、CAS No. 27215-95-8 (nonene) は、2100 mg/kg (IUCLID (2000))であり、いずれも JIS分類基準の区分外(国連分類基準の区分5)に該 当する。	分類できない	-	-	-		データがなく分類できない。 なお、類縁物質のデットLD50値について、CAS No. 68526-55-6 (Alkenes, C8-10, C9-rich) は、2 232 mg/kg (SIDS (2004))、CAS No. 97593-01-6 (Alkens, C8-10, C9-rich) は、2 2350 mg/kg (IUCLID (2000))、CAS No. 27215-95-8 (Nonene) は、2100 mg/kg (IUCLID (2000))であり、いずれも、JIS分類基準の区分外(国連分類基準の区分5)に該当する。	2014.10修正
21A3638	プロピレン三量体	13987-01-4	急性(経皮)	分類できない	-	-	-		データがなく分類できない。 なお、類縁物質のウサギし50値について、CAS No. 68526-55-6 (Alkenes, C8-10, C9 Rich) は、> 2332 mg/kg(SIDS(2004))、CAS No. 97593-01-6 (Alkenes, C8-10, C9 Rich) は、> 2350 mg/kg(UCLID(2000))、CAS No. 27215-95-8 (nonene) は、5000 mg/kg(UCLID(2000))であり、いずれも US分類基準の区分外(国連分類基準の区分5)に該 当ずる。	分類できない		-	-		データがなく分類できない。 なお、頻線物質のウサギしD50値について、CAS No. 68526-55-6 (Alkenes, C8-10, C9-rich) は、2332 mg/kg(SIDS(2004))、CAS No. 97593-01-6 (Alkenes, C8-10, C9-rich) は、2330 mg/kg(IUCLID(2000))、CAS No. 27215-95-8 (Nonene) は、5000 mg/kg(IUCLID(2000))であり、いずれも JIS分類基準の区分外(国連分類基準の区分5)に該当する。	2014.10修正
21A3638	プロピレン三量体	13987-01-4	急性(吸入:蒸気)	分類できない	-	-	-		データがなく分類できない。 なお、類縁物質のラットLC50値について、CAS No. 68526-55-6 (Alkenes, C8-10, C9 Rich) は、> 13.6 mg/L (vapor) (4時間換算値) (SIDS (2004))、CAS No. 97593-01-6 (Alkenes, C8-10, C9 Rich) は、22.7 mg/L (IUCLID (2000)) であり、区分4または区分外 に設当する。	分類できない	-	_	-		データがなく分類できない。 なお、類縁物質のラットLC5の値について、CAS No. 68526-55-6 (Alkenes、C8-10、C9-rich) は、> 13.6 mg/L (vapor) (4時間換算値) (SIDS (2004))、CAS No. 97593-01-6 (Alkenes、C8-10、C9-rich)は、22.7 mg/L (IUCLID (2000)) であり、区分4または区分外 に該当する。	2014.10修正
21A3638	プロピレン三量体	13987-01-4	生殖細胞変異原性	分類できない	-	-	-		データがなく分類できない。 なお、類縁物質の CAS No. 68526-55-6 (Alkenes, C8-10.0 Pkin) 及びCAS No. 97593-01-6 (Alkenes, C8-10-branched, C9-rich) は、マウス骨髄を用いた小核試験(体細胞in vivo変異原性試験(日)で酸性の結果(SIDS (2004)、IUCLID (200)) より、区分外に該当する。両物質の微生物を用いた突然変異試験(m viro 変異原性試験(日)の結果も陰性(SIDS (2004)、IUCLID (200))であった。	分類できない	-	-	-		データがなく分類できない。 なお、頻線物質の CAS No. 68526-55-6 (Alkenes, C8-10, O9-rich) 及びCAS No. 97593-01-6 (Alkenes, C8-10, O9-rich) は、マウス骨髄を用いた小核試験(体細胞の wvog 発原性試験、GLP) で陰性の結果、GISS (2004)、IUCLID (2000) より、区分外 Li該当する。雨物質の微生物を用いた突然変異試験 (in vitro 変異原性試験、GLP) 郊絵果も陰性(SIDS (2004)、IUCLID (200)) であった。	2014.10修正
21A3638	プロピレン三量体	13987-01-4	特定標的職器毒性 (単回暴露)	分類できない	-	-	-		データなし。 なお、類縁物質のCAS No. 68526-55-6 (Alkenes, C8-10, 09 Rich) に関しては、ラットを用いた経口投与試験(SIDS (2004))において鼻淵。副腎のうっ血が高用量様(38 mg/kgの用量でアトニーがみられ、ウリギを用した経皮投与試験(SIDS (2004))において73.8 mg/kgの用量でアトニーがみられ、マウス、ラット及びモルモットの吸入試験(SIDS (2004))において11.1mg/Lの用量でマウスに呼吸困難、ラットに四肢の重動失調及び暗眼状態、エーモットに軽度の影像がみられた。従って標的職器は、呼吸器、中枢神経、副腎と考えられ、分類は区分1(鼻、腔副腎)、区分2(呼吸器、中枢神経)と考えられる。	分類できない	_	-	-		データなし。 なお、類縁物質のCAS No. 68526-55-6 (Alkenes, C8-10, O9-rich) に関しては、ラットを用いた経口投与試験(SIDS、(2004))において鼻淵。副腎のうっ血が高用豊康で738 mg/kg以上)でみられ、ウサギを用いた経皮投与試験(SIDS、(2004))において738 mg/kgの用量でアトニーがかられ、マウス、ラット及びモルモットの吸入試験(SIDS、(2004))において11.1mg/Lの用量でアトニの呼吸因類能ラットに四肢の重動を調及が重要が表し、一般では一般である。 11.1mg/Lの用量でフスに呼吸困難、ラットに四肢の重動を調及が重している。 11.1mg/Lの用量でフスに呼吸困難、ラットに四肢の動か、みられた。従って種的臓器は、呼吸器、中枢神経、副腎と考えられ、分類に区分1(条6、副腎)、区分2(呼吸器・中枢神経と表)と考えられ、分類に区分1(条6、副腎)、区分2(呼吸器・中枢神経と考えられ、分類に分割を14条6、副腎)、区分2(呼吸器・中枢神経と考えられる)を	2014.10修正
21A3646	オクタフルオロプロパ ン	76-19-7	特定標的臓器毒性 (反復暴露)	分類できない	-	-	-		唯一反復ばく霧のデータとして、ラットおよびモルモットに約10%遺度の空気を10日間吸入はく霧した試験にあいて、感染が原因とされた間質性肺炎と肝臓の壊死の発生頻度の増加が認められている(NICMAS (2001)が、ガイダンス値を大きく超えた高速度のばく策であり、現での基準を充足しない試験法によることから、データ不足で「分類できないとし」た。	分類できない	_	-	-		唯一反復は〈霧のデータとして、ラットおよびモルモットに約10%濃度の空気を10日間吸入ばく霧した試験に おいて、感染が原因とされた間質性肺炎と肝臓の壊 死の発生頻度の増加が認められている(NICNAS (2001))が、ガイダンス値を大きく超えた高濃度のはく 葉であり、現行の基準を充足しない試験法によること から、データ不足で「分類できない」とした。	2014.10修正

物質ID	物質名	CAS番号	項目					修正前						修正後	_	備考
,,,,,,,,,,,	100 PE 100	pa · y	XII	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠・問題点	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠·問題点	and 'S
21A3654	過酢酸tert-ブチル	107-71-1	特定標的臓器毒性 (単回暴露)	区分3(気道刺 激性、麻酔作 用)	感嘆符	警告	呼吸器への刺激のおそれ れ 眠気又はめまいのおそれ		ラットに思時間吸入は(電力・水・水・水・水・水・水・水・水・水・水・水・水・水・水・水・水・水・水・水	区分3(気道 刺激性、麻 酔作用)	感嘆符	警告	呼吸器への刺激の おそれ 眠気又はめまいの おそれ		ラッドに時間吸入ば、驚した試験の症状経過として、 呼吸困難が現れ、高濃度群では一時的不穏の様子 に次いでうず、まり、流張、鼻分泌物、さらに軽度の麻 酔状態となり、また、努力性呼吸も見られた。呼吸困 強、流寒、鼻分泌物の記載に基づき区分3(気違刺激 性)、軽度の麻酔の記載に基づき区分3(無酔作用)と した。	2014.10修正
21A3655	ジフルオロメタン	75-10-5	標的臟器/全身毒性(反復暴露)	区分外	-	-	-		ラットに4週間および90日間吸入ばく露した試験において、ばく露による影響は認められず、両試験の NOELはいずれも50000 ppm(4週間ばく露の場合の90 日補正用量は15400 ppm)と報告されている(PATTY (5th, 2001))。その結果、NOELがガイダンス値範囲 の上限(250 ppm)を超えていることから吸入では区分 外に該当するが、他の経路(経口、経皮)ではデータ がなく不明のため「分類できない」とした。	分類できな い	-	-	-		ラットに4週間および90日間吸入ばく驚した試験において、ばく驚による影響は認められず、両試験のNOELはいずれも50000 ppm (4週間ばく露の場合の90日補正用量は15400 ppm)と報告されている(PATTY (5th、2001))、その結果、NOELがガイダンス値範囲の上限(250 ppm)を超えていることから吸入では医グバに該当するが、他の経路(経口、経及)ではデータがなく不明のため「分類できない」とした。	2011.6修正
21A3655	ジフルオロメタン	75-10-5	特定標的臓器毒性 (単回暴露)	区分3(麻酔作用)	感嘆符	警告	眠気又はめまいのおそれ		PATTYでラットの82000 ppm以上の暴露で音に対する 反応が減少しばく靄がなくなると急速に回復するとの 記載。また、心臓への影響を調べた試験で、前麻酔 症状(head and limb tremors, unsteady gait) の記載が あることから区分3(麻酔作用)とした。	区分3(麻酔作用)	感嘆符	警告	眠気又はめまいのおそれ		PATTY(5th. 2001)でラットの82000 ppm以上の暴露で音に対する反応が減少しばく露がなくなると急速に回復するとの記載、また、心臓への影響を調べた試験で、前麻酔症状(head and limb tremors, unsteady part)の記載があることから区分3(麻酔作用)とした。	2014.10修正
21A3659	二酸化チオ尿素	1758-73-2	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2	_	_	_		ウサギを用いた試験において、適用24時間後に軽度 の角膜混濁および虹影炎、中等度の結膜発赤、軽度 から重度の結膜浮腫があたれ、7日目にこれらの影響 のいくつかは部分的または完全に回復したが、軽度 から重度の角膜混濁および側膜の血管新生が4/6匹 に、角膜の潰瘍が2/6匹に、軽度の虹影炎が3/6匹 に、軽度の能譲損傷が全での動物にかられ、本物質 は重度 (severe)の眼刺激性を示したと記載されてい る(SIDS (access on Oct 2009))ことから、区分2とした。	区分2	感嘆符	警告	強い眼刺激		ウサギを用いた試験において、適用24時間後に軽度 の角線流滴および虹影炎、中等度の結膜発赤 整め いち重度の結膜浮離がみられ、7日目にこれらの影響 のいくつかは部分的または完全に回復したが、軽度 から重度の角膜湿滑および利膜の血管軟をが4/6匹 に、角膜の潰瘍が2/6匹に、軽度の虹影炎が3/6匹 に、軽度の影響にあるいで配生、軽度の虹影炎が3/6匹 は、軽度の経費損傷が全ての動物にみられ、本物質 は重度 (severe) の眼刺激性を示したと記載されてい る(SIDS (access on Oct. 2009))ことから、医分2とし た。	2011.6修正
21A3663	4-ニトロ- o -フェニレ ンジアミン・塩酸塩	53209-19-1	生殖毒性	区分2	健康有害性	警告	生殖能又は胎児への悪 影響のおそれの疑い		本物質そのものの情報はないが、フリー体の 4- nitro-o-Phenylenediamine (CAS No. 99-56-9) は、 マウスへの妊娠6-15日の歴史投与試験で現動制に 影響のある用量で口蓋製と血管異常の増加がみられた(Teratogenie (12th, 2007) HSDB (2008) ことから 区分2とした。なお、妊娠中ラットへの投与後皮、混 調)、妊娠中ウサギへの強制経口投与で催奇形性を 示さなかった (LARC vol.16 (1978)、NTP TR-180 (1979)) との報告もある。	区分2	健康有害性	警告	生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い		本物質そのものの情報はないが、フリー体の 4- nitroPhenylenediamine (CAS No. 99-56-9) は、 マウスへの妊娠-15日の皮下投与試験で観動物に 影響のある用量で口蓋裂と血管異常の増加がみられた(Teratogenie (12th, 2007),HSDB (2008))ことから 区分とした。なお、妊娠中ラットへの投与後反、混 餌、妊娠中ウサギへの強制経口投与で催奇形性を 示さなかった (JARC vol.16 (1978)、NTP TR-180 (1979)) との報告もある。	2014.10修正
21A3672	5-クロロ-2-ニトロア ニリン	1635-61-6	生殖細胞変異原性	分類できない	-	-	-		In vivo試験のデータがないので、分類できない。な お、in vivo試験においては、エームス試験およびの出 棚腔を用いた染色体異常試験のいずれも陽性結果 (変異原性試験データ集 補遺4版 (1996))がある。ま た、当該物質が制安全値注策等50条の31と通うき 変異原性が認められた既存化学物質である。	分類できな い	-	-	-		In vivo試験のデータがないので、分類できない。な 点、in vitro試験においては、エームス試験はおいては、 細胞を用いた染色体異常試験のいずれも順性結果 (変異原性試験データ集(1996)がある。また、当該 物質に労働な全衛生法第5条の3に基づき変異原性 が認められた既存化学物質である。	2014.10修正
21A3673	2-クロロ-4,6-ジニトロ アニリン	3531-19-9	生殖細胞変異原性	分類できない	-	-	-		In vivo試験のデータがないので、分類できない。な お、in vivo試験においては、エームス試験およびOHL 棚腔を用いた染色体異常試験の間性結果(共に変異 原性試験データ集 補遺4版(1997)が報告されてい る。また、当該物質は労働な全衛生法第7条の3に 基づき変異原性が認められた既存化学物質である。	分類できな い	-	-	-		In vivo試験のデータがないので、分類できない。な お、in vitro試験においては、エームス試験およびOHL 細胞を用いた染色体果常試験の陽性結果(よご業 原性試験データ集 補遺1版(1997)が報告されてい る。また、当後物質1分衡数全衛生法第57条の3に 基づき変異原性が認められた既存化学物質である。	2014.10修正
21A3679	2-(4,α-ジクロロベン ジル)ピリジン	142404-69-1	生殖細胞変異原性	分類できない	-	-	-		in vivoの試験データがなく分類できない。なお、in vivo変異原性試験として CHL細胞を用いる染色体異 家試験で陽性、安異原性試験として CHL細胞を用いる染色体 家試験で陽性、安異原性試験デーク集・補過・板 (2000))の報告がある。また、当該物質は労働安全 衛生法第57条の31こ基づき変異原性が認められた既 存化学物質である。	分類できない	-	-	-		in vivoの試験データがなく分類できない。なお、in vivoの試験データがなく分類できない。なお、in vivo変異原性試験として OHL細胞を用いる染色体異常試験で開催(変異原性試験データ集 補遺版 (2000) の報告がある。また、当該物質は労働安全衛生強弱である。する要異原性が認められた既存化学物質である。	2014.10修正
21A3691	イソチオシアン酸アリ ル	57-06-7	特定標的臟器毒性 (単回暴露)	区分2(全身毒 性)	健康有害性	警告	臓器(全身毒性)の障害 のおそれ		ラットに200~400 mg/kgを経口投与により不活発、流 渡、被毛の乱れが観察された。マウスに終口投与後 400 mg/kg以上で書・ 地位成状として不活発、被毛の乱れなどがあり、用量に 性症状として不活発、被毛の乱れなどがあり、用量に 相関した胃粘膜表面の肥厚に嫌死が見られた。ラット 経口投与による別の試験では、衰弱状態となり4時間 ~15日に死亡し、LD50は339 mg/kgと報告されてし 。以上の結果から、ガイダン。位範囲区分21-相当 しているほぼ300~4400 mg/kg乃至それ以上の用量に むける死亡の発生、さらに不完発、被毛の出、衰弱 などの症状、胃粘膜の肥厚と壊死の剖検所見に基づ き、標的臓器の特定困難なことを考慮し、区分2(全身 毒性)とした。	区分2(全身 毒性)	健康有害性	警	臓器(全身毒性)の 障害のおそれ		ラットに200~400 mg/kgを経口投与により不活象、流 裏、植毛の乱れが観察された。マウスに経口培を 400 mg/kg以上で死亡が発生し、100 mg/kg以上で毒 性症徒として不活発、被毛の乱れなどがあり、用電イ 相関した胃粘膜表面の肥厚と場死が見られた(NIP TR(1982))、ラット経口投与による別の試験 (HSDB(203))、では、衰弱状態となり特情同~15日に 死亡し、LD50は339 mg/kgと報告されている。以上の 結果から、ガイタンス値範囲区分に14世上いるほ ぼぶ00~400 mg/kg/至それ以上の用量における死 亡の発生、さらに不活条、被毛の乱れ、衰弱などの症 状、胃粘膜の肥厚と腹形の前検所見に基づき、標的 臓器の肥厚と腹形の前検所見に基づき、標的 臓器の肥厚と腹形の前検所見に基づき、標的 した。	2014.10修正
21A3694	N,N-ジエチルアニリン	91-66-7	急性(吸入:粉塵、 ミスト)	区分4	感嘆符	警告	吸入すると有害		ラットのLC50値、1.92 mg/L(IUCLID(2000))に基づき 区分4とした。なお、毒性値は飽和蒸気圧濃度(4.3E- 05 mg/L)より高いのでミストの基準値で分類した。	区分4	感嘆符	警告	吸入すると有害		ラットのLC50値、1.92 mg/L(4時間)(IUCLID(2000)) に基づき区分4とした。なお、毒性値は飽和蒸気圧濃 度(43E-05 mg/L)より高いのでミストの基準値で分 類した。	2014.10修正

物質ID	物質名	CAS番号	項目	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	修正前 注意書き	分類根拠·問題点	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	修正後 注意書き	分類根拠・問題点	備考
21A3717	1,3-ジクロロ-1,3,5-ト リアジン-2,4,6(1H, 3H, 5H)-トリオン=ナ トリウム塩	2893-78-9	眼に対する重篤な 損傷性/眼刺激性	区分2A	感嘆符	警告	心候有舌圧情報 強い眼刺激	江思吉口	万域代売・回題施 ウサギの結膜嚢に10 mg適用した試験において、1時 間以内に虹彩と角膜の簡色化、血管を識別できない ほどの発赤を示し、虹彩のうつ血は7日まで特勢し、中 等度、重度の刺激性(moderately severe initiat.)と の評価、およびEUでは対: R36/37に分類されている (access on Sep. 2009))ことから区分2Aとした。	区分2A	感嘆符	禁告	強い眼刺激	江思省也	ウサギの結構を110mg網PL-た試験において、1時間以内に虹彩と角膜の暗色化、血管を識別できないほどの発赤を示し、以彩のうつ血は7日まで特殊に呼吸が動物性(moderately severe inriant.)との評価、およびEUでは次; R86/37に分類されている(EU-Annex I (access on Sep. 2009))ことから区分2Aとした。	2014.10修正
21A3727	N.N-ビス(2-クロロエ チル)-2-ナフチルアミ ン	494-03-1	発がん性	区分1A	健康有害性	危険	発がんのおそれ		IARC Suppl.7(1987)、100A(2009)でグループトとしていることから区分1AeLた。なお、ラットの皮下投与で皮下に肉腫の発生が、マウスの腹腔内投与による3週間試験で1匹当りの診腫場数の増加が報告されている(IARC Vol.4(1914))。 ヒトでは多血症患者に投与後浸潤性の膀胱がんが61人中10人に発生と報告されている(IARC Vol.7(1974))。	区分1A	健康有害性	危険	発がんのおそれ		IARC、Suppl.7(1987)、100A(2009)でグループ・ヒて いることから区分1Aとした。なお、ラットの皮下投与で 皮下に肉腫の発生が、マウスの酸腔内投与による39 週間試験で「匹当りの肺腫瘍数の増加が報告されて いる(IARC Vol.4(1974))。 トでは多血症患者に投与後浸潤性の膀胱がんが61 人中8人に発生と報告されている(IARC Suppl 7 (1987))。	2014.10修正
21A3729	クロラムブシル	305-03-3	生殖毒性	区分1A	健康有害性	危険	生殖能又は胎児への悪 影響のおそれ		本剤で治療された男性患者に精子減少、無精子症、 精巣の胚細胞消失が用量依存的に観察されているこ (LARC 26 (1981))、本剤投与期間中に妊娠した 性がさらに25ヵ月段を無線熱、35ヵ月目に人口流産 し、胎児の左腎と尿管の欠損が見られたこと(LARC 26 (1981))、大脈の一切の一切の一切の一切の一切の一切の一切の一切の一切の一切の一切の一切の一切の	区分1A	健康有害性	危険	生殖能又は胎児へ の悪影響のおそれ		本剤で治療された男性患者に精子減少、無精子症、 精巣の胚細胞消失が肝量依存的に観察されているこ (LIARC 26 (1981))、本剤性を期間中に妊娠した女 性がさらに25カ月投与経験、3.5カ月目に人口流産 し、胎児の左腎と尿管の欠強が見られたこと(LARC 26 (1981))、妊娠3~4カ月に本剤の治療を受けた女 性の胎児・網旋入機が見られたこと(LARC (374 (2000))、正常分娩したシ児の30日に重度の心 血管奇形のため死亡したが、母親が妊娠10週目に変 反症の治療のため本剤およびステロイドを処力されて いたこと(Birth Defects (3rd 2000))など、ヒトに対す シ生職者性を表示すいくつか配機がある。さらに、動 物試験では、マウスに互復健膣内投与により精巣萎 縮と精子形成能の低下が見られたこと(LARC vol2 (1981))、ラットで腎臓と原管の欠損を生じ強い催毒 形性あると記述されていること(HSDB (2003))、マウ スに終口投与により/新腹を管の欠損を生じ強い催毒 形性あると記述されていること(HSDB (2003))、マウ スに終口投与により/新腹に労を生し、顕整実たは 脳へルニアとみなされた頭部奇形がしばしば観察され 行いること(HSDB (2003) がと、本物質が生傷毒性 特に僅奇形性を有することを示り明確な証拠が実験 動物で4時のもれている、以上り、本物質は比トに対 する生殖毒性が原知である物質に相当すると考えら れ、区分14とした。なお、本物質のヒト乳汁中への排 出については不明と記述されている(PHYSICIANS) DESK REFERENCE (2010))。	2014.10修正
21A3733	シクロスポリン	79217-60-0	発がん性	区分1A	健康有害性	危険	発がんのおそれ		IARCでGroup 11:分類(IARC vol.100A (2008)、IARC vol.50 (1990)、遊入MTPでは仁分類(MTP ROC 11th (2004))されていることから、区分1Aとした。 なお、当該薬剤(シクロスポリン)のみを投与された臓器移植受容者に発生した腫瘍に関する症例報告は数多く公表され、その大部分はリンパ腫であり、部位は、適常消化管であるが、他の部位にも悪性腫瘍も見られている(IARC 50 (1990))。一方、実験動物ではマウス及びラットモイルぞれの異なり多いの問題に選輯投与した試験において、高用量群で死亡率は増加したものの、腫瘍発生頻度の明らかな増加は見出されていない(IARC 50 (1990))。	区分1A	健康有害性	危険	発がんのおそれ		IARCでGroup 1に分類(IARC vol.100A (2008)、IARC vol.50 (1990)、及びMTPではC分類(NTP ROC 11世 (2004))されていることから、区分1Aとした。 なお、当該業剤(シウロスポリン)のみを投与された臓器移植受き用き、発生した腫瘍に関する症例報告は数多公及表され、その大部分はリン(誕生るり、部位は温常消化管であるが、他の新位に毛悪性腫瘍も見られている(IARC 50 (1990))、一方、実験動物ではマウス及びラッド(こそれぞん)高型及び59-105週間混餌投与に試験において、高用量群で死亡率は増加したものの、腫瘍発生頻度の明らかな増加は見出されている(IARC 50 (1990)	2014.10修正
21A3734	ジエチルスチルベスト ロール	56-53-1	水生環境有害性 (長期間)	区分1	環境	警告	長期継続的影響により 水生生物に非常に強い 毒性		急性毒性区分2であり、logKowが4以上(logKow= 5.07、PHYSPROP Database, 2009)であることから、 区分とした。	区分1	環境	警告	長期継続的影響に より水生生物に非 常に強い毒性		急性毒性区分1であり、logKowが4以上(logKow= 5.07、PHYSPROP Database, 2009)であることから、 区分1とした。	2011.6修正
21A3734	ジエチルスチルベスト ロール	56-53-1	水生環境有害性 (急性)	区分1	環境	警告	水生生物に非常に強い 毒性		甲殻類(Nitocra spinipes)の96時間LC50=1.55mg/L (AQUIRE,2010)から区分1とした。	区分2	-	-	水生生物に毒性		甲殻類(Nitocra spinipes)の96時間LC50=1.55mg/L (AQUIRE,2010)から区分2とした。	2012.3修正
21A3734	ジエチルスチルベスト ロール	56-53-1	水生環境有害性 (長期間)	区分1	環境	警告	長期継続的影響により 水生生物に非常に強い 毒性		急性毒性区分1であり、logKowが4以上(logKow= 5.07、PHYSPROP Database, 2009)であることから、 区分1とした。	区分2	環境	-	長期継続的影響に より水生生物に毒 性		急性毒性区分2であり、logKowが4以上 (logKow= 5.07、PHYSPROP Database, 2009) であることから、 区分2とした。	2012.3修正
21A3736	メルファラン	148-82-3	発がん性	区分1A	健康有害性	危険	発がんのおそれ		IARCでGroup 11二分類 (IARC vol.100A (2008)、IARC suppl.7 (1987))、及びNTPでKIこ分類 (NTP ROC 11th (2004)) されていることから、区分14.1分類した。なお、当該薬物による卵巣がん、多発性骨髄腫又は見がん治療により、骨髄性白血病及び気管支がんの発症報告 (IARC suppl.7 (1987)、IARC vol.9 (1975))がある。動物試験では、ラットを用いた皮膚で本部談で成項乳卵腫の多生、マウスを用いた腹腔内投与試験では肺腫瘍、リンパ肉腫、乳腺繊維腺腫及び腹膜肉腫の発生の報告(以上 IARC vol.9 (1975))がある。	区分1A	健康有害性	危険	発がんのおそれ		IARCでGroup 11こ分類 (IARC vol.100A (2008)、IARC suppl.7 (1837))、及びNTPでKIこ分類 (NTP ROC IITh (2004)) されていることから、区分141と分類した。 なお、当該薬物による卵巣がん、多発性骨髄腫又は 乳がん治療により、骨酸性白血病及び気管支がんの発症報告 (IARC suppl.7 (1897)、IARC vol.9 (1915))がある。動物試験では、マウスを用いた皮膚を布試験で成項乳即職の発生、マウスはどラットを用いた腹腔の投与試験では、球体はアンスを開いた内臓をの投与試験では、球体は発展、リンパ肉腫、乳腺線維健腫及び腹膜内腫の発生の報告 (以上 IARC vol.9 (1915))がある。	2014.10修正
21A3738	1,3-ビス(2-クロロエ チル) -1-ニトロソ尿 素、(別名カルムスチ ン)	154-93-8	生殖毒性	区分18	健康有害性	危険	生殖能又は胎児への悪 影響のおそれ		ラットの雄に投与し、無処置の雌と交配した試験で著 床数、妊娠20日での生存胎件が激少したこと、妊娠 6-9日のラットへの投与で肝・眼や中枢神経の欠損 がみられ、これらの異常が母獣に影響を与えない用 壁で見られた(IARC vol.26(1981))ことから区分18と した。	区分18	健康有害性	危険	生殖能又は胎児への悪影響のおそれ		ラットの雄に投与し、無処置の雌と交配した試験で著 床数、妊娠20日での生存胎仔が減少したこと、妊娠 6-8日のラットへの投与で行に限や中枢神経の欠損 がみられ、これらの異常が母獣に影響を与えない用 星(FTEG/2009)で見られた(IARC vol.26(1981)) ことから区分18とした。	2014.10修正

物質ID	物質名	CAS番号	項目					修正前						修正後		備考
物貝ID	初見石	UNS指写	項目	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠·問題点	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠•問題点	1佣/与
21A3739	1-(2-クロロエチル)- 3-シクロヘキシル-1- ニトロソ尿素 (CCNU)	13010-47-4	生殖毒性	区分1B	健康有害性	危険	生殖能又は胎児への悪 影響のおそれ		海外の医薬品副作用情報(PDR 64edition(2010))として、その他の副作用として不妊、胎児への影響と記載され、また、ラットの腹腔内投与試験により催奇形性がみられ、ウサギの試験では配吸収が生じた(IARC vol.26(1981))とあることから区分18とした。	区分1B	健康有害性	危険	生殖能又は胎児へ の悪影響のおそれ		海外の医薬品副作用情報(PDR 64edition(2010))として、その他の副作用として不妊、胎児への影響と記載され、また、ラットの腹腔内投与試験により催奇形性がみられ、ウサギの試験では流症が生じた(IARC vol.26(1981))とあることから区分18とした。	2014.10修正
21A3740	1-(2-クロロエチル) - 1-ニトロソ-3- [(2R,3R,4S,5) - 3.4,5.6-テトラヒドロキ シ-1-オキソヘキサン -2-イル] 尿素、(別名 クロロゾトシン)	54749-90-5	特定標的臓器毒性 (単回暴露)	区分1(造血系)	健康有害性	危険	臓器(造血系)の障害		本物質は癌の治療に使用され、患者に静注後の副作用として、血小板減少、白血球減少、アミ/トランスフェー・一ゼ活性の上界、哺気、極近の記載(ARC 50 (1990))、週4回投与で3週間にわたる第相間路に試験において念性投与に限った事性として血小板減少が記載され(HSDB (2009))、一方、マウスに腹腔内投与した場合にも末梢白血球数減少や脾臟重量減少が見られている(IARC 50 (1990))こともあり、区分1(造血系)とした。	区分1(造血 系)	健康有害性	危険	臓器(造血系)の障 害		本物質は癌の治療に使用され、患者に静注後の副作用として、血小板減少、白血球減少、アミトランスフェラーゼ活性の上昇、電気、嘔吐の記載(IARC 50 (1990))、週4回投与で必週間にわたる第相臨底試験において急性用量制限毒性として血小板減少が記載され(HSDB (2009))、一方、マウスに酸酸内投与した場合にも末梢白血球数減少や脾臓重量減少が見られている(IARC 50 (1990))こともあり、区分1(造血系)とした。	2014.10修正
21A3742	4-メトキシフロ[3,2-g] クロメンー7-オン、 (別名ベルガプテン)	484-20-8	生殖毒性	区分2	健康有害性	警告	生殖能又は胎児への悪 影響のおそれの疑い		ウサギの器官形成期に経口投与した試験で母動物に 体重増加抑制、出生行数の減少が見られた用量で、 助児の青形が用量依存的に駆められた(HARC vol.40 (1986))ことから区分とした。なお、ラナの器管形成 別に経口投与した試験では、母動物に本理物抑制 や出生行数の減少が見られた用量で、生存胎児には 青形は見られなかったとの報告もる(IARC vol.40 (1986))。	区分2	健康有害性	警告	生殖能又は胎児へ の悪影響のおそれ の疑い		ウサギの器官形成期に経口投与した試験で毋動物に 体重増加削制、出産の減少が見られた用量で、胎児 の奇形が用量体存的に認められた(IARC Vol.40 (1986)ことから区分2とした。なお、ラットの器官が出 期に経口投与した試験では、母動物に体車増加抑制 や出産の減少が見られた用量で、生存胎児には奇形 は見られなかったとの報告もある(IARC vol.40 (1986))。	2014.10修正
21A3742	4-メトキシフロ[3,2-g] クロメンー7-オン、 (別名ベルガプテン)	484-20-8	特定標的臓器毒性 (反復暴露)	区分2(肝臓)	健康有害性	警告	長期にわたる、又は反 復暴露による臓器(肝臓)の障害のおそれ		イヌを用いた経口塔与試験において投与量 19 mg/kg (28日間投与)(90日補正)で肝腫大、壊死、肝炎の 記述 (IARC vol.40(1986))があり、これはガイゲンス 値の区分2に該当する。従って種的服器は肝臓と考え られ、分類は、区分2(肝臓)とした。なお、ラッと用い た経口試験(1年間投与)で用量体存的(70、280、 560 mg/kg) に岐の副腎髓質部の結合組織増殖の記述(NTP TR No.339(1989))がある。	区分2(肝臓)	健康有害性	警告	長期にわたる、又は 反復暴露による臓器(肝臓)の障害の おそれ		「ヌを用いた経口投与試験において投与量 19 mg/kg (28日間投与)(90日補正)で肝腫大・壊死、肝炎の 記述 (1ARC vol.40 (1986))があり、これはガイダンス 値の区分2に該当する。従って振り臓器は肝臓と考え られ、分類は、反外2(肝臓)とした。なお、ラットを用い た経口試験(4年間投与)で用量依存的(70, 280, 560 mg/kg)に嫌の副腎髄質部の結合組織増殖の記 述 (1ARC vol.40 (1986))がある。	2014.10修正
21A3745	1.8-ジヒドロキシアン トラキノン(別名ダント ロン)	117–10–2	発がん性	区分2	健康有害性	警告	発がんのおそれの疑い		IARCでGroup 28に分類(IARC vol50 (1990))及び NTPでRIC分類(NTP ROC 11th (2004))されていることから、区分2に分類した。 なお、マウスを用いた経口投与試験(200mg/kg、540 日)で肝細胞腹腫がみられ、ラットを用いた終口投与試験(10000mg/kg/16箇月)で大腸がんがみられている(以上IARC vol50(1990))。ただし、マウスを用いた皮膚適用試験では、皮膚がんは認められず、ラットを用いた経口投与試験(最大総投与量2400 mg/kg) で腸のがんの発生率は、対照群と有意差がないとの報告もある(以上 IARC vol50(1990))。	区分2	健康有害性	警告	発がんのおそれの 疑い		IARCでGroup 28Iニケ類 (IARC vol.50 (1990)) 及び NTPでRIこケ類 (NTP ROC 11th (2004)) されていることから、区分2に分類した。 なお、マウスを用いた経口投与試験(200mg/kg、540 日) で肝細胞線腫があられ、ラットを用いた経口投与試験(10000mg/kg/16箇月)で大腸がんがみられている(以上 IARC vol.50(1990)) ただし、マウスを用いた皮膚適用試験では、皮膚がんは認められず、ラットを用いた経口投与試験(量大飼料で出来)で、1990 とので、1990 で、1990 で	2014.10修正
21A3750	1-メチル-1-ニトロソ- 3-[(28,3R.4R,58,6R) -2,4,5-トリヒドロキシ- 6-(ヒドロキシメエチ ル)オキサン-3-イル] 尿素、(別名ストレプト ゾシン)	18883-66-4	生殖毒性	区分2	健康有害性	警告	生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い		ラットに腹腔内投与した試験において本物質は胎仔の成長遅滞と奇形をもたらしたとの報告(Birth Defetts (2000))、ラットでは受胎能への悪影響と催 奇形性を示し、ウサギでは流産をまねいたとの報告 (HSDB (2003)に基づき、現動物への影響が不明のため区分2とした。なお、本物質がヒトの乳汁中に排出されるかどうかは明らかではない(Package Insert ZONOSAR (2007))。	区分2	健康有害性	警告	生殖能又は胎児へ の悪影響のおそれ の疑い		ラットに腹腔内投与した試験において本物質は胎仔 の成長運搬と奇形をもたらしたとの報告(Birth Defects (2000))、ラットでは受胎能への原影響と他 奇形性を示し、ウサギでは流産をまねいたとの報告 (HSDB (2003))に基づき、契動物への影響が不明の ため区分とした。なお、本物質がヒトの乳汁中に排出 されるかどうかは明らかではない(Package Insert ZANOSAR (2007))。	2014.10修正
21A3750	1-メチル-1-ニトロソ- 3-[(2S,8R.4R,SS,8R) -2.45-トリヒロキシ・ 6-(ヒドロキシメエチ ル)オキサン-3-イルブ ゾシン)	18883-66-4	特定標的臟器毒性 (反復暴露)	区分1(膵臓、 腎臓、肝臓)	健康有害性	危険	長期にわたる.又は反 復暴雲による臓器(辞 臓、腎臓、肝臓)の障害		本物質は転移性膵島細胞癌の治療剤である (Package Insert ZONOSAR (2007))一方、膵臓 β- 細胞に対し特異的衛性作用を持ち、高血糖症を誘発 する(IARC (1978))と如見に基づき、区分(I袋臓) とした。本剤の治療を受けた多の患者が割作用と て高窒素血、無尿、糖尿、尿細管性アンドーシスなど の胃毒性を示し、腎性尿肺症と例報告されている (Package Insert ZONOSAR (2007))こと。さらに本剤 の治療を受けた大学の患者で時には治療の中止を 必要とするような重度の嘔気、嘔吐を認め、多くの患 者が肝酵素の上昇および低アルジニ血症として肝 毒性を示したこと(Package Insert ZONOSAR (2007))から、それぞれ区分(「腎臓、肝臓)とした。以 上より、分類に左分(溶解、腎臓、肝臓)とした。以 上より、分類に反分(溶解、腎臓、肝臓)とした。以 より、分類に反分(溶解、毒性は稀である。な お、貧血、白血球減少、血小板減少等も報告されてい る(IARC I7 (1978))が、血液毒性は稀であり、大抵 はヘマトリット値の軽度の減少に関するものである との記述(Package Insert ZONOSAR (2007))により、 分類の根拠としなかつた。	区分1(膵臓、腎臓、 肝臓)	健康有害性	危険	長期にわたる、又は 反復暴露による臓 器(膵臓 野藤 肝 臓)の障害		本物質は転移性膵島細胞癌の治療剤である (Package Insert ZANOSAR (2007))一方、膵臓 8 - 細胞に対し特異的毒性作用を持ち、高血糖症を誘発する(IARC (1978))と勿知見に基づき、医分1(膵臓)とした。本剤の治療を受けた多くの患者が制作用として高窒素血、無尿、糖尿、尿細管性アンドーシスなどの腎毒性を示し、腎性尿肺症と抑制管合れている (Package Insert ZANOSAR (2007))こと、さらに本剤の治療を受けた大半の患者で時には治治物の中止を必要とするような重度の嘔気、嘔吐を認め、多くの患者が肝酵素の上昇および低アルフまン血症として肝薬性を示したこと(Package Insert ZANOSAR (2007))から、それぞれ区分(1智臓、肝臓)とした。以上より、分類(1978)が、血水板液少等も報告されている(IARC 17 (1978))が、血水液液性は有なものであるとの記述(Package Insert ZANOSAR (2007))により、大抵はヘイドリント値の軽度の減少に関するものであるとの記述(Package Insert ZANOSAR (2007))により、分類の根拠としなかった。	2014.10修正

物質ID	物質名	CAS番号	項目	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	修正前	分類根拠·問題点	A STALES	絵表示	1 12 m - 0 4-15-	危険有害性情報	修正後	分類根拠・問題点	備考
21A3752	1-[(2R.4S.5S)-4-ア ジド-5-(ヒドロキシメ チル)オキソラン-2-イ リー3メチルビリミジ ン-24-ジオン、(別名 ジドブジン)	30516-87-1	生殖毒性	区分2 授乳に対する または授乳を 介した影響	健康有害性	注息 唤 起語	上映有音は指標 生殖能又は胎児への悪 影響のおそれの疑い 接乳中の子に書を及ぼ すおそれ		フ弥林(他・河田県) フサギの妊娠期間中経口投与試験(妊娠6-18日に 375.75.0 で 250 mg/kg/day)で最高用量において母動物に体重減少、ヘマトクリット値低下および赤血球数減少が見られ、胎仔体軍減少および吸収胚増加の影響が見られたが奇形は 認められなかったと報告されている(IARC vol.76 (2000))。また、ラットの妊娠前からを配と妊娠、分娩、授乳期間に亘って投与した試験で胚胎仔死亡、同能仔教薬の・胎仔体軍域かが見られたと報告されている(IARC vol.76 (2000))ことから区分2とした。またヒトへの影響として、経口摂取した本物質は(2000歳、単回投与は、ヒトリナーに排泄され、血清中の選度と同じであることが報告されているため「投・別に対するまたは授乳を介した・影響」を追加区分とした。なお、本物質は胎盤を通過するとの報告もある((医療用医薬品集(2010))。	区分2 授乳に対す	健康有害性		上映有音 注音報 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ の疑い 授乳中のテトに書を 及ぼすおそれ	注意書き	ウサギの対無期間中経口投与試験(妊娠6-18日に37.5,75,00 250 mg/kg/day)で最高用量において母動物に体重減少、ペキグロピン温度減少、ペライリン・値板に本まが表。本数減少が見られ、胎仔体重減少および吸収胚増加の影響が見られたが奇形は翌められなかかとと観告されている(IARC 00.176 (2000))、また、ラットの妊娠前から交配、妊娠、分後、授乳期間に亘って投与した試験で胚胎仔死亡、同腹仔数減少、胎仔体重減少が見られたと報告されている(IARC vol.76(2000))ことから区分とした。またとトへの影響として、経口振した本物質は(200mg、単回投与)は、とト乳汁中に排泄され、血清中の温度と同じであることが報告(整備用医薬品集(2010)されているため「授乳に対するまたは授乳を介した影響」を追加区分とした。なお、本物質は胎盤を通過するとの報告もある(医療用医薬品集(2010))。	2014.10修正
21A3753	ポリ臭化ビフェニル (FireMaster BP-6(臭 素数5-7のポリ臭化ビ	59536-65-1、 67774-32-7	急性毒性(経皮)	区分外	-	-	-		ラットのLD50 = 21500 mg/kg (FireMaster BP-6) (IARC 41 (1986)) に基づいて区分外とした。	区分外	-	-	-		ラットのLD50 = 5000 mg/kg (FireMaster BP-6) (EHC 152(1994)) に基づいて区分外とした。	2014.10修正
21A3753	ポリ臭化ビフェニル (FireMaster BP-6(臭 素数5-7のポリ臭化ビ	59536-65-1、 67774-32-7	発がん性	区分2	健康有害性	警告	発がんのおそれの疑い		IARCによりポリ臭化ビフェニルがグループ2Bに分類されている(IARC suppl. 7 (1987))ことから、区分2とした。 動物実験では雌雄のラットにFireMaster FF-1を25週間反復経り投与後23ヶ月間観察して、戦雄に肝細胞感、あるいは即管船が見られており、同じく、マウスでは雌雄に肝細胞癌発生率の有意な増加が報告されている(IARC 41(1986))。更に、ラットの雌にFireMaster FF-1を単回経口投与後23ヶ月間観察で、肝細胞癌と肝動生物結節の発生率増加が、あるいは、3週間毎に1つ回経口投与後20ヶ月間観察で、肝細胞癌と肝新生物結節の発生率増加が報告されている(IARC 41(1986))。	区分2	健康有害性	警告	発がんのおそれの 疑い		IARCによりポリ臭化ピフェニルがグループ28に分類されている(IARC suph.7 (1987))ことから、区分2とした。 動物実験では雄雄のラットにFireMaster FF-1を25週間及復移口投与後239月間観察して、雌雄に肝細胞癌。 患あるいは盟管癌が見られており、同じく、マウスでは雄雄に肝細胞癌患を半率の有意な増加が報告されていている(IARC 41(1988))。更に、ラットの雌に FireMaster FF-1を単回経口投与後239月間観察で、 肝細胞癌化肝新生物結節の発生率増加がるといるした。 週2回冬3週間毎で針12回観察で、肝細胞癌と肝 新生物結節の発生率増加が報告されている(IARC 41(1988))。	2014.10修正
21A3753	ポリ臭化ピフェール (FireMaster BP-6(臭 素数5-7のポリ臭化ピ フェニルの混合物)及 び FireMaster FF-1 (FireMaster BP-61c 2%のCalcium polysilicateを添加 (anti-caking))	59536-65-1、 67774-32-7	特定標的臟器毒性 (反復暴露)	区分1(肝臓、神経系)	健康有害性	危険	長期にわたる.又は反 復暴露による臓器(肝 臓、神経系)の障害		いづれもFireMaster FF-1を用いた試験において、ラットに104週間反復経口投与した試験で、用量0.5 mg/kg/day以上で肝細胞型大・細胞質空胞化、不定 形病集および卵円形細胞増殖が見られ、マウスの4-6週間反復接口投与した試験では、用量3 mg/kg/day 以上で肝細胞の壊死あるいは空胞化が見られた。またラットとマウスの6ヶ月間反復経口投与(3回/週)試験で、用量3-10 mg/kg/dayで前進電節押刷、前款程力および後該伸筋反応の低下を含む筋肉機能の減速が見られた。すべるTSDR (2004))。上記の試験結果はずべて区分1のガイダンス範囲内であることから、区分1 (肝臓、神経系)とした。	区分1(肝臓、神経系)	健康有害性	危険	長期にわたる、又は 反復暴露による臓 器(肝臓、神経系) の障害		いづれもFireMaster FF-1を用いた試験において、ラットに104週間反復経口投与した試験で、用量0.5 mg/kg/day以上で軒棚憩配生、細胞質空態化、不定 形病巣および卵円形細胞増殖が見られ、マウスの4-6週間反復経口投上に試験では、用量3 mg/kg/day は上気料細胞の壊死あるいは空胞化が見られた。またラットとマウスの6-月間反復経口投与(3回/週)試験で、用量3-10 mg/kg/dayで、自発運動量、提力、および驚愕反応性の低下が見られた(すべてATSDR (2004))。上記の試験結果はすべて区分1のガイダンス範囲内であることから、区分1 (肝臓、神経系)とした。	2014.10修正
21A3763	デカヒドロナフタレン	91–17–8	生殖細胞変異原性	区分外	-	-	-		マウスに13週間吸入ばく雲による末梢血を用いた小枝試験(体細胞n vivo変異原性試験)の陰性結果があり、チャイニ・ズハムスター肺由来の線維芽細胞体を用いたin vitro染色体異常試験は砂度性が異常が得られていることから、区分外とした。なお、in vitro試験では、サルモネラを用いた突然変異試験で健性(原労者報告 (access on Dec. 2009)、NTP DB (access on Dec. 2009)、文マクメン、建設・展生所と、遺伝子突然変異試験で陰性の結果(BUA Report No.218(1998))が得られている。[上述のマウス・材表は際で雄のみ弱陽性の結果は、専門家により統計学的に有意ながらコントロールの2倍程度の増加であり、戯での陰性結果を考え合わせると生物学的意義はないものと判断された。]	区分外	-	-	-		マウスに13週間吸入ばく驚による末梢血を用いた小核試験(体細胞in vivo変異原性試験)の陰性熱果が ありNTP BG faccess on Nov. 2009)。チャイーーズ ハムスター肺由来の総維芽細胞株を用いたin viro像 を体異常は財き陰性の結果が得られている(厚学者 報告 (access on Dec. 2009))にから、区分外とした。なお、in vivo 記載では、サルモネラを用いた突然 変異試験で陰性(厚労省報告 (access on Dec. 2009))、マウン、 ンへ随を用いた遺伝子突然変異試験で陰性の結果 (BUA Report No.218 (1998))が得られている。 に近のマウス小核試験ではのみ弱陽性の結果は、 専門家により統計学的に有意ながらコントロールの2 倍程度の増加であり、鍵での陰性結果を考え合わせ ると生物学的意義はないものと判断された。]	2014.10修正
21B3001	グルタルアルデヒド	111-30-8	水生環境有害性 (急性)	区分2	-	-	水生生物に毒性		藻類(Pseudokirchneriella subcapitata)での72時間 ErC50 = 1.6mg/L(環境省生態影響試験, 2006)である ことから、区分2とした。	区分1	環境	警告	水生生物に非常に強い毒性		甲殻類(オオミジンコ)での48時間EC50 = 0.75mg/L (U.S. EPA: RED, 2007)であることから、区分1とした。	2012.3修正
21B3003	アンモニア	7664-41-7	特定標的臓器毒性 (単回暴露)	区分1(呼吸器系)	健康有害性	危険	臓器(呼吸器系)の障害		と下で呼吸困嫌、肺水腫、気管支肺炎などが報告され (DFGOTvol.6(1992)、ATSDR (2004)、IRIS (1991)、 BSDB (2005))、動物試験でも呼吸困難、チアノゼー せ、肺の出血や浮腫、間質性肺炎など、肺を含む呼吸器系に重大な毒性影響が認められている(EHC 54(1986))ので区分1(呼吸器系)とした。なお、動物 データ(EHC 54(1986))かき推定した毒性発現濃度も ガイダンス値区分1に相当している。	区分1(呼吸 器系)	健康有害性	危険	臓器(呼吸器系)の 障害		ヒトで呼吸困難、肺水腫、気管支肺炎などが報告され (DFGOTvol6(1992)、ATSDR (2004)、IRIS (1991)、 BSDB (2005)、動物試験で手呼吸困難、チアノーゼ、 派の出血や浮腫、 <mark>限局性肺炎など、肺を含む呼吸器</mark> 系に重大な喜性影響が認められている(EHC 54(1986))ので医分1(呼吸器系)とした。なお、動物 データ(EHC 64(1986))か、後定した毒性発現濃度も ガイダンス値区分1に相当している。	2014.10修正
21B3003	アンモニア	7664-41-7	特定標的臟器毒性 (反復暴露)	区分2(肺)	健康有害性	警告	長期にわたる。又は反 復暴露による臓器(肺) の障害のおそれ		大量にアンモニアの職業職需を受けた後、管性呼吸 困難に加え、収縮性許機能障害、閉塞性肺疾患など と同様の臨床像を呈した患者3人の起向朝音が必需に (IUCLID (2000))。また、ラットに2ヶ月間吸入ば、第に より、143 ppm(3ヶ月補正:94 ppm)で 組織学的変化 して、肺に受管支周囲炎と影管周囲炎の微変を 伴った・小領域の間質性肺炎所見が記述されている (EHC 54(1986))。前者の上トの症例報告はよは2の情 報であり、後者のラット肺所見の用量はガイダンス値 区分2の範囲に含まれるとみられ、区分2(肺)とした。	区分2(肺)	健康有害性	警告	長期にわたる、又は 反復暴露による臓 器(肺)の障害のお それ		大量にアンモニアの職業編業を受けた後、慢性呼吸 困難に加え、収縮性跡機能障害、閉塞性肺疾患など と同様の随床像を呈した患者3人の症例報告がある。 はUCLID (2000)。また、ラットに2ヶ月間吸入は50第に より、143 ppm(3ヶ月補正:94 ppm)で 組織学的変化 として、肺に変を支周囲炎と血管周型炎の無 (EHC 54(1986))。前者の上の症例報告はは52 20情 報であり、後者のラット肺所見の用量はガイダンス値 区分20範囲に含まれるとみられ、区分2(肺)とした。	2014.10修正

物質ID	物質名	CAS番号	項目					修正前						修正後		備者
1,350-	1,7,7,1		^=	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠・問題点	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠·問題点	Jii - 3
21B3004	塩化水素	7647-01-0	皮膚感作性	区分外	-	-	-		モルモットのMaximization TestおよびマウスのEar Swelling Testでの陰性結果(SIDS (2009))に加え、15人のヒトに感作誘導後10~14日に適用した試験において誰も陽性反応を示さなかった報告(SIDS (2009))があり、区分外とした。	区分外	-	-	-		モルモットのMaximization TestおよびマウスのEar Swelling Testでの陰性結果(SIDS (2009))に加え、50 人のヒトに感性誘導後10-14日に適用した試験にお いて誰も陽性反応を示さなかった報告(SIDS (2009)) があり、区分外とした。	2014.10修正
21B3005	1.2.45.6.7.8.8-オクタ クロロ-2.3.38.4.77a- ヘキサヒドロ-4.7-メタ ノ-IH-インデン、(別 名クロルデン)	57 -74-9	生殖毒性	区分2、授乳 に対する又は 授乳を介した 影響	健康有害性	警告	生殖能又は胎児への悪 影響のおそれの疑い 授乳中の子に害を及ぼ すおそれ		ラットの経口暴露による世代試験において、一般毒性 が示された用量で、何少生存率低下、分娩まで至っ た交配機数の減少、高用量では離乳までに生存仔 しとの結果が得られている(EHG 34(1984)、ATSDR (1994)。また、妊娠期間中、特に出生前すを経りばく 置した試験では同腹作損失率の増加が認められてお り(IRIS (2002)、ATSDR (1994))、その理由として、母 乳を介し仔に対した試験物質の直接的ばく露、あるい は母動物の侵乳まだは補育不能が挙げられている ららに高用量群で授乳期間中に仔の55%が死亡したこ とについては、その原因として母乳中に高濃度含まれ る試験物質または代謝物が思えされ(ATSDR (1994)、また、ラット(25 mg/kg経口投与で児に神 経行動学的影響(回避反応取得の低下、探索行動方 進など)を与えたことについては、胎児脳に影響し、哺 育期間中も暴露されていたと結論されている(ATSDR 1994)したが動物数の減少については出産前の暴露の影 響も否定できないので「及り2)及び「授乳に対する又 は授乳を介した影響」とした。	区分2、授 乳に対する なに授乳を 介した影響	健康有害性	警告	生殖能又は胎児へ の悪影響のおそれ の疑い 接乳中の子に害を 及ぼすおそれ		ラットの経口暴露による世代試験において、一般毒性 が示された用量で、作の生存率低下、分娩まで至っ た交配機数の減少、高用量では離乳までに生存仔な したの結果が得られている(EHG 34(1984)、ATSDR (1994)。また、妊娠期間中、特に出生前すを経口ばく 識した試験では同腹仔損失率の増加が認められてお 端した試験では同腹仔損失率の増加が認められてお は店動物の授乳または哺育不能が挙げられている。 らに高用量料で授乳期間中に伊の55のがたしたこ とについては、その原因として母乳中に高濃度含まれ る試験物質または代謝物が数定され(ATSDR (1994))。また、マウスに25 mg/kg&口投与で児に神 後行動学的影響(回避反応取得の低下、探索行動方 進など)を与えたことについては、胎児脳に影響し、哺 育期間中も暴露されていたと結論されている(ATSDR (1994)。しかしながら、保の生存率の低下、分娩成立 した機動物数の減少については出産前の暴露の影 響も否定できないので「及グ2」及び「授乳に対する又 は授乳を介した影響とした。	2014.10修正
21B3005	1.2.4.5.6.7.8.8-オクタ クロロ-2.3.3a.4.7.7a- ヘキサヒドロ-4.7-メタ ノ-1H-インデン、(別 名クロルデン)	57-74-9	特定標的臓器毒性 (単回暴露)	区分1(神経系)	健康有害性	危険	臓器(神経系)の障害		ヒトに曝露後、痙攣、嘔吐、運動失調、錆乱など神経 症状の報告が数多ぐあり(IARC 79(2001)、EHC 34(1984)、PIMs (2000))。以上のヒトおよび動物での 知見に基づき区分((神経系)とした。なお、一適性の 肝酵素上昇も報告されている(IARC 79(2001))。	区分1(神経 系)	健康有害性	危険	臓器(神経系)の障 害		ヒトに曝露後、痙攣、嘔吐、運動失調、錯乱など神経 症状の報告が数多くあり(IARC 79(2001)、EHC 34(1984)、PIMs (2000))。以上のヒトでの知見に基づ き区分1(神経系)とした。なお、一過性の肝酵素上昇 も報告されている(IARC 79(2001))。	2014.10修正
21B3006	ぎ酸	64-18-6	眼に対する重篤な損傷性/刺激性	区分1	腐食性	危険	重篤な眼の損傷		ウサギを用いた試験で眼に刺激性あるいは腐食性が 見出され(DFGOT (2003))、また、角膜に熱傷が生し たと観告されている(PATTY (5th, 2001))。さらに別の 試験における所見として、前房番篦、水晶体泥濁、角 漫上度の一部欠損、浸濁、血管新生の記述(HSDB (2006))もある。とトでもば、鑑による硬傷害の症例報 告(BUA Report No.81(1991)、IUCLID(2000))があり、 結膜炎、角膜の、発的の瘢痕化も報告されて いる(PATTY (5th, 2001))。これらの事実とに加え、申 = 22 (at 10g/1, 20°C)(IUCLID(2000))であり、皮膚に 腐食性を示していることから区分1とした。	区分1	腐食性	危険	重篤な眼の損傷		ウサギを用いた試験で眼に刺激性あるいは腐食性が 見出され(DFGOT (2003))、また、角膜に熱傷が生し たと報告されている(PATTY (5th, 2011))、さらに別の 試験における所見として、前房番龍、水晶体泥潭、角 週内皮の一部欠損、浸潤、血管新生の記述(HSDB (2006)もある。といでもはく端による眼傷をの症例報 告(BUA Report No.81(1991)、IUCLID(2000))があり、 結膜炎、角膜炎、角膜の大熱的瘢痕化も粉告されて いる(PATTY (5th, 2001))。これらの事実とに加え、向 = 22 (at 102/L 20°C/UICID(2000))であり、皮膚に 腐食性を示していることから区分1とした。	2014.10修正
21B3006	ぎ酸	64-18-6	特定標的臟器毒性 (単回暴露)	区分1 (呼吸 器、血管、腎 臓)	健康有害性	危険	臓器 (呼吸器、血管、腎 臓) の障害		とトで当該物質の誤飲により、消化管において重度の 酸熱傷を起こし、さらにアシドーシス、溶血、肝機能異 係、急性腎不会、肺炎などが観察されている(DFGOT (2003))。また、ヒトの経日摂取による53件の症例では 消化管の壊死、肺炎、腎機能障害、低血圧、高鏡消 失が観察され(BUA Report No.81(1991))、他に、比較 的大量を摂取して死こに至った症例報告も数多、 (DFGOT (2003)、PATTY (5は、2001)、ACGHI (2001)、 NTP TR19 (1992)、BUA Report No.81(1991))、症状と してアンドーシス、溶血、資血、チアノーゼが見られ、 死因あるいは重篤例の所見に胃穿孔の他に急性腎 不会(1991))。上下での吸入ばく驚では、鼻炎、咳、気 管支炎、呼吸困難の報告がある(NTP TR19 (1992)。以上の情報に基づき位分1で吸器、血管、 腎臓)とした。なお、消化管に関しては当該物質は腐 食性物質であるため局所影響と判断し、採用しなかっ た。	区分1(呼吸 器、 <mark>血液</mark> 、 腎臓)	健康有害性	危険	臓器(呼吸器、血 管、腎臓)の障害		ヒトで当該物質の誤飲により、消化管において重度の 酸熱傷を起こし、さらにアンドーシス、海血、肝機能 第、急性腎不全、肺炎などが観察されている(DFGOT (2003))。また、ヒトの経口摂取による53件の症例では 消化管の速死、肺炎、腎機能障害、低血圧、意識消失が観察され(BUA Report No.81(1991))、他に、比較 的大量を摂取して死亡に至った症例報告も数多く (DFGOT (2003)、PATTY (512, 2001)、ACGH (2001)、 NTP TR19 (1992)、BUA Report No.81(1991))、症状と レてアシドーンス、溶血、黄血、チアノーゼが見られ、 死因あるいは重篤例の所見に胃穿れの他に急性腎 不全の記載が多い(DFGOT (2003)、BUA Report (1992)、以上、トナの吸入はく驚では、鼻炎、咳、気 管支炎、呼吸困難の報告がある(NTP TR19 (1992)、以上の情報に基づき区外1呼吸器、血液、 腎器)とした。なお、消化管に関しては当該物質は腐 食性物質であるため局所影響と判断し、採用しなかっ た。	2014.10修正
21B3008	酢酸エチル	141-78-6	急性毒性(吸入:蒸気)	区分外	_	-	_		ラットのLC50植16000 ppm (4時間換算: 19600 ppm/) (ACGIH (2001)), 14640 ml/m3(比重から, 13176 g/m3:3658ppm/)[DFGGTVol12 (1999)], 18000 ppm(4時間換算: 13856 ppm/)[ACGIH (2001)]に基づき、区分外とした。なお、飽和蒸気圧濃度123289 ppm/より、気体之判断した。	区分4	感嘆符	警告	吸入すると有害		ラットのLC50値16000 ppm (4時間接算: 19600 ppmV) [AGGIH (2001)]、14640 ml/m3(比重から、13176 g:/m3: 3658pmV)[DFGG7Vo12 (1999)]、16000 ppm(4時間換算: 13856 ppmV)[ACGIH (2001)]に基づ より、気体と中断した。	2012.3修正
21B3008	酢酸エチル	141-78-6	水性環境有害性 (急性)	区分外	-	_	-		魚類 (ファットヘッドミノー) での96時間LC50 = 230mg/L (IUCLID, 2000, 他)、甲殻類 (オオミジンコ) での48時間LC50 = 164mg/L (IUCLID, 2000) であることから、区分外とした。	区分外	_	-	-		魚類 (ファットヘッドミノー) での96時間 LC50 = 230mg/L(SIDS, 2008. 他)、甲酸類 (オオミジンコ) での24時間 LC50 = 2,500mg/L(SIDS, 2008) であることから、区分外とした。	2014.2修正
21B3011	トリクロロ酢酸	76-03-9	生殖毒性	区分2	健康有害性	警告	生殖能又は胎児への悪 影響のおそれの疑い		ラットの器官形成期に経口投与した試験において、親動物の体重増加抑制などの一般毒性の発現と合わせ、用量依存的な胚吸収率の増加と生存船児数の減少、および高用量で心血管系と骨格の奇形が見出されたとの記述(ACGIH (2001))から区分2とした。	区分2	健康有害性	警告	生殖能又は胎児へ の悪影響のおそれ の疑い		ラットの器官形成期に経口投与した試験において、親 動物の体重増加抑制などの一般毒性の発現と合か セ、用量依存的な胚吸収率の増加と生存胎児の体重 及びり長の減少、およじ高用量で心血管系と骨格の 奇形が見出されたとの記述(ACGIH (2001))から区分 2とした。	2014.10修正

物質ID	物質名	CAS番号	項目	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	修正前	A STAG No. 1882 F	八年仕田	絵表示	V-25-64-18T	危険有害性情報	修正後	分類根拠·問題点	備考
21B3011	トリクロロ酢酸	76-03-9	特定標的職器毒性(単回暴露)		感嘆符	注息喚起語 警告	ル映有音任情報 服気又はめまいのおそ れ		分類根拠・問題点 経口ばく露により動物は急速に麻酔あるいは半麻酔 が聴になり、36時間以内に完全に回復するか死亡 するかのいずれかであったとの記述(1998)、ACGH (2001)に基づき区分3(麻酔作用)とした。また、こト が本物質を吸入することにより、肺を刺激し咳、息切 れを起こし、大量にばく驚されると肺が悪を起こし得る いの記述(HSS (2004)、SITIG (5th, 2008)、ICSC (以)(1998))があるが、この所見に関してはList 3の情 報であり、具体的なデータが示されていないので分類 できない。	区分3(麻酔作用)	感嘆符	注息喚起諳 警告	ル映有音性情報 眠気又はめまいの おそれ	注意書き	万強依拠・同趣温 経口ばく露により動物は急速に麻酔あるいは半麻酔 の状態になり、30時間以内に完全に回復するか死亡 するかのいずれかであったとの記述(ACGIH (2001)) に基づき区分3(麻酔作用)とした。また、ヒトが本色を を吸入することにより、肺を刺激し咳、息切れを起こ し、大量にばく露されると肺水腫を起こ(神るとの記述 (HSFS (2004)、SITTIG (5th, 2008)、ICSC (J) (1998)) があるが、この所見に関しては止は3の情報であり、 具体的なデータが示されていないので分類できない。	2014.10修正
21B3012	メタノール	67–56–1	標的臟器/全身毒性(単回暴露)	区分1(中枢神 経系、視覚 器・全身毒性)区分3(麻 醉作用)	感嘆符	警告	臓器(中枢神経系、視 覚器、全身毒性)の障 害 眠気又はめまいのおそ れ			区分1(中枢 神経系、視身 憲性)区分3 (麻酔作用)	健康有害性 感嘆符	危険警告	臓器(中枢神経系、 視覚器、全身毒性) の障害 気又はめまいの おそれ		ヒトの急性中毒症状として中枢神経系抑制が見られ、血中での千酸の蓄積により代謝性アシドーシスに至る。そして視覚障害、失明、頭痛、めまい、電気、嘔吐、頻呼吸、腎硬などの症状があり、時に死に至ると比透されている(DFGOT vol.16 (2001)、EHC 198 (1997)、また、中枢神経系の障害、そびに振せら麻痺特難体が路系症状の記載(DFGOT vol.16 (2007)、これらの上の情報に基づき区分(16 (2007)、これらの上の情報に基づき区分(16 (2007)、これらの上の情報に基づき区分(16 (2007)、これらの上の情報に基づき区分(16 (2007)、これらの上の情報に基づき区分(16 (2007)、これらの上の情報に基づき区を分(16 (2007)、2018を表した。標的調整としてきらに、眼に対する障害が特徴的であるので視覚取る。というなどの記載もあるので発動性アシドーンスを裏付ける症状としてきらに、眼に対する呼吸、管理などの記載もあるので少な異など、無いと、類呼吸、管理などの記載もあるので少な異など、は、またいの最大に、は、19 (1997)、2017)、日の急性中素に関する所見にも、中枢神経系の抑制から麻酔作用が生していると記述されている(PATTY (5th. 2001))ので、医分3 (保藤作用)とした。	2011.6修正
21B3012	メタノール	67–56–1	生殖毒性	区分1B	健康有害性	危険	生殖能又は胎児への悪 影響のおそれ		妊娠マウスの器官形成期に吸入暴露した試験において、胎児吸収、脳脱出などが見られ(PATTY (5th, 2001))、さらに別の吸入または軽口暴露による試験でも口蓋裂を含め、同様の結果が得られている[EHC 196 (1997)、DFGの「vo.116 (2001)]。メタノールの生殖への影響に関して、証拠の重みに基づく健康障害としての科学的判断がなされ、上トのデータは欠如しているが動物による影響は明確な証拠があるこから、暴露量が十分であればメタノールがヒトの発生に悪影響を及ぼす可能性があると結婚されている[TTP (2007)、以上によりヒトに対して発生	区分18	健康有害性	危険	生殖能又は胎児へ の悪影響のおそれ		妊娠マウスの器官形成期に吸入暴露した試験において、胎児吸収、脳沿出などが見られ(PATTY (5th, 2001))、さらに別の吸入または経口暴露による試験でも口蓋架を含め、同様の結果が得られている[EHC 196 (1997), DFGOT vol.16 (2001))。メタノールの生殖への影響に関して、証拠の重みに基づく健康博書としての科学的判断がなされ、ヒルのデータは欠如しているが動物による影響は時間な証拠があることから、暴露量が十分であればメタノールがヒトの発生に悪影響を及ぼす可能性があると結婚されている[TMP Monograph (2003)]、以上によりヒトに対して生場書性があると特別を	2014.10修正
21B3012	メタノール	67–56–1	特定標的臟器毒性(単回暴露)	区分1(中枢神経系、視覚器・全身高(株性)区分3(麻酔作用)	健康有害性感嘆符	危険警告	臓器(中枢神経系、視 覚器、全身書性)の障 書 眠気又はめまいのおそ れ		ヒトの急性中毒症状として中枢神経系抑制が見られ、血中での千酸の蓄積により代謝性アシドーンスに至る。そして視覚障害、失明、頭痛、めまい、嘔気、嘔吐、頭呼吸、昏睡などの症状があり、時に死に至ると記述されている(DFGOT vol.16 (2001)、EHC 196 (1997)。また、中枢神経系の時害、とくに基化が麻痺があり、時に死に至ると記述されている(DFGOT vol.16 (2001))。これらの上の情様維体外路系症状の記載(DFGOT vol.16 (2001))。これらの上への情報に基づき区分(中枢神経系)とした、維持翻縁ととさらに、眼に対する障害が特徴的であるので視覚をさまた、代謝性アシドーシスを裏付ける症状としてのことを、また、代謝性アシドーシスを裏付ける症状としての全身事性をそれぞれ採用した。一方、マウスおよびつよりが収入はく露による所見に「麻酔」が記載され(EHC 196 (1997)、PATTY(5th、2001))、上トの急性中毒に関する所見にも、中枢神経系の抑制から麻酔作用が生じていると記述されている。	区分1(中枢 神経系、現 覚器、定身 毒性)区分3 (麻酔作用)	健康有害性 感嘆符	危険警告	臓器(中枢神経系、 視覚器、全身毒性) の障害 眠気又はめまいの おそれ		ヒトの急性中毒症状として中枢神経系抑制が見られ、血中での千酸の蓄積により代謝性アシドーンスに気、嘔気、嘔吐、ウスマウル呼吸、クスマウル管種などの症状があり、時に死に至をを起述されている(DFGOT vol.16 (2001)、EHC 196 (1997)、また、中枢神経系の障害、と(に振せん麻痺様離体外路系症状の記載(DFGOT vol.16 (2001))もあり、さらに形態学的変化として脳白質の境死も報告されている(DFGOT vol.16 (2001))とた。標的機器としてさらに、眼に対する障害が特徴的であるので視覚器をまた、代謝性アシドーンスを裏付ける症状として頭痛、嘔気、嘔吐、頻呼吸、昏睡などの記載もあるので全身毒性をそれぞれ採用した一方、マウスおよびラットの別、ばく驚による所見に「麻酔」が記載され(EHC 196 (1997)、PATTY (5th、2001))、ヒトの急性中毒に関する所見にも、中枢神経系の抑制から麻酔作用が生じていると記述されている(DTTY (5th、2001))、ヒトの急性中毒に関する所見にも、中枢神経系の抑制から麻酔作用が生じていると記述されている(ATTY (5th、2001))、ヒトの急性中毒に関する所見にも、中枢神経系の抑制から麻酔作用が生じていると記述されている(ATTY (5th、2001))、ヒトの急性中毒に関する所見にも、中枢神経系の抑制から麻酔作用が生じていると記述されている(ATTY (5th、2001))、ロで、区分3(麻酔作用)とした。	2014.10修正
21B3016	エタノール	64-17-5	標的職器/全身毒性(反復暴露)	区分1(肝臓)、区分2(中枢神経系)	健康有害性	警告	長期にわたる、又は反 復暴露による臓器(肝 臓の障害 長期にわたる。又は反 復義論による臓器(の 枢神経系)の障害のお それ		ヒトでアルコールの長期大量摂取はほとんど全ての 器官に悪影響を及ぼすが、最も強い影響を与える標 的器官は肝臓であり、脾音は脂肪変性に対しり、 死と線維化の段階を経て肝硬変に進行する(DFGOT (1998))との記載に基づき及り(汗陽)とした。また、 アルコール摂取により重度の身体的依存症となった 患者は、振戦、痙攣、譫妄の禁断症状に加え、しばし ば幅気、脱力、不安、発汗を件い、アルコールと傳る ための意図的行動、および反射方道が顕著となると 述べられている(HSDB、(2003)ことから、区分(2中枢 神経系)とした。なお、動物試験では有害影響の発現 はさほど顕著ではなく、ラットあるいはマウスの時間 反復経口ばく露試験の場合、ガイダンス値範囲をか なり上回なる(SBDS(2009))。	区分1(肝 臓)、区分2 (中枢神経 系)	健康有害性	危険警告	長期にわたる。又は 反復暴露による職 器(肝臓)の障害 長期にわたる。又は 反復暴露による職 第一枚神経系)の 障害のおそれ		ヒトでアルコールの長期大量摂取はほとんど全ての 器官に悪影響を及ぼすが、最も強い影響を与える概 形を線性化の段階を軽に肝硬度に進行する(DFGOT (1996))との記載に基づきなり、任野職とした。また、 アルコール摂取により重度の身体的依存症となった。 足者は、振戦、痙攣、識妄の禁節症状に加え、しばしば噴気、脱力、不安、発汗を伴い、アルコールを得る ための意図的行動、および反射亢進が顕著となると 述べられている(HSDB、(2003))ことから、反分(中枢 神経系)とした。なお、動物試験では有害影響の発現 はさほど顕著ではなく、ラットあるいはマウスの見印間 反復経口ばく露試験の場合、ガイダンス値範囲をか なり上のなる。	2011.6修正
21B3017	エチルーセカンダリーペ ンチルケトン(「Ethyl amyl ketone, CAS No.541-85-5」の慣用 名として分類した。)	541-85-5	水性環境有害性 (急性)	区分外	_	-	-		甲殻類(オオミジンコ)での24時間LC50 = 514 mg/L (HSDB, 2008) であることから、区分外とした。	分類できな い	-	-	_		データ不足のため分類できない。	2014.2修正

物質ID	物質名	CAS番号	項目					修正前						修正後		備考
1,73€10	1234 1	0,10 m .)	-741	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠・問題点	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠・問題点	UN 13
21B3017	エチル-セカンダリ-ペ ンチルケトン	541-85-5	眼に対する重篤な 損傷性/眼刺激性	区分2B	-	警告	眼刺激		ヒトで液体状態で目に接触すると一時的に角膜損傷を起すとの報告(ACGIH(2007))に基づき区分2Bに分類した。	区分2B	-	警告	眼刺激		ヒトで液体状態で目に接触すると一時的に角膜損傷を起すとの報告(ACGIH(2001))に基づき区分2BIC分類した。	2014.10修正
21B3019	エチレングリコールモ ノイソプロピルエーテ ル	109–59–1	標的臓器/全身毒性(反復暴露)	区分2(血液)	健康有害性	警告	長期にわたる、又は反 復暴露による臓器の障 害のおそれ		ラットを用いた26週間の蒸気による吸入暴露試験(6 時間/日)において、200pm/day(0.87mg/L/day)で ヘモグロピンの低下、膵臓のペモジデリンが煮、貧血 の症状が認められた(ECETOC TR No95 (2005))こ と、またラットの28日間の経口投与試験において、10 場で減少(90日換算: 375 mg/kg/day)以上の投与 罪で貧血が認められた(厚労省報告(2009))ことに基 づき、何れも低分々のガイダンス値内であることから区 分2(血液)とした。	区分2(血液)	健康有害性	警告	長期にわたる、又は 反復暴露による臓 器(血液)の障害の おそれ		ラットを用いた26週間の蒸気による吸入暴露試験(6 時間/日)において、200ppm/day(0.87mg/L/day)で ヘモグロビンの低下、腱膜のヘモジデリン洗き、貧血 の症状が認められた[ECETOO TR No.95 (2005)]こ と、またラットの28日間の経口投与試験において、125 mg/kg/day(90日接集: 37.5 mg/kg/day)以上の投与 群で貧血が認められたに厚労省報告(2009)]ことに基 づき、何れも区分2のガイダンス値内であることから区 分2(血液)とした。	2011.6修正
21B3019	エチレングリコールモ ノイソブロピルエーテ ル	109–59–1	特定標的職器毒性(単回暴露)	区分1(血液)	健康有害性	危険	臓器(血液)の障害		ラットの蒸気による吸入暴露試験(4時間)において、160pm(0.68mg/L)で血尿、及び腎臓に重度の障害が認めた人にクロイTY (5th. 2001)、また別のラットの蒸気による吸入暴露試験(4時間)で、80ppm(0.34mg/L)では溶血作用が見られ、その結果出現したペモジロビン円柱により腎臓障害を引き起こすと記述されている(DFGOT vi5 (1993)、後で 7種的職器として血液を採用し区分1 (血液)とした。なおラットの経口投与による症状にもヘモグロビン尿の記載がある(ECETOC TR4 (1982))。	区分1(血液)	健康有害性	危険	臓器(血液)の障害		ラットの蒸気による吸入暴露試験(4時間)において、160pm(0.88mg/L)で血尿、及び腎臓に <mark>軽度から中程度</mark> の障害が認められ[PATTY (5th. 2001)]、また別のラットの蒸気による吸入暴露試験 (4時間)で、80pm(0.34mg/)でほぶ声に形が見られ、その結果出現したヘモグロビン円柱により腎臓障害を引き起こすと記述されている[DFG07 vol5 (1993)]、従って標的臓器として血液を採用し区分1(血液)とした。なおラットの経口数与による症状にもヘモグロビン尿の記載がある[ECETOC TR4 (1982)]。	2014.10修正
21B3020	エチレングリコールモ ノ-ノルマル-ブチル エーテル(別名ブチル セロソルブ)	111-76-2	急性毒性(経口)	区分3	どくろ	危険	飲み込むと有毒		ラットLD50値10件(1746(雄)、1950(雌)、2410mg/kg (雄) (SIDS(1997))、1480、1590(雄)、1480(雄)、 2417、2400mg/kg(ATSDR(1989)、917、470mg/kg(環 境省リスク評価(砂巻(2008))のうち区分4が7件、区分5 が3件であることから区分3とした。	区分4	感嘆符	警告	飲み込むと有害		ラットLD50値10件 (1746 (雄)、1950(雌)、2410mg/kg (雄) (SIDS (1997)、1480、1590(雄)、1480(雄)、 2417、2400mg/kg (ATSDR(1998)、917、470mg/kg 境省)スク評価(6巻(2008))のうち区分4が7件、区分5 が3件であることから区分4とした。	2012.3修正
21B3020	エチレングリコールモ ノ-ノルマル-ブチル エーテル(別名ブチル セロソルブ)	111-76-2	標的職器/全身毒性(単回暴露)	区分1(中枢 神経系、血 液、腎臓、肝 臓、区分3 (気道刺激性)	感嘆符	警告	臓器(中枢神経系、血 液、腎臓、肝臓)の障害 呼吸器への刺激のおそ れ		動物では赤血球への影響が特徴的である(SIDS (1997))が、上下ではヘモグロビンや赤血球数の減少、ヘモグロビン反変と加強への影響のみなって、昏睡、眩暈、呼吸困難、代謝性アシドーシス、血尿、肝機能異常などの症状(SIDS (1997))と、時にはかなり重度て入院に至ったケース(SIDS (1997))と所にはかなり重度と2011)の報告もある。これらの上の情報を総合して2011)の報告もある。これらの上の情報を総合して2011(中枢神経系、血波、腎臓、肝臓)と止た。一方、上下吸入試験(SIDS (1997))では「鼻および喉の刺流に大阪の刺流とが発性疾	区分1(中枢神経系、血液、下臓、肝臓等系) 以分3(支) 刺激性)	健康有害性 感嘆符	危険警告	臓器(中枢神経系、 血液、腎臓、肝臓) の障害 呼吸器への刺激の おそれ		動物では赤血球への影響が特徴的である(SIDS (1997))が、ヒトではヘモグロビンや赤血球数の減少、ヘモグロビン駅など血液への影響の水らず、昏睡、眩暈、呼吸困難、代謝性アンドーシス、血尿、肝機能異常などの症状(SIDS (1997))と、時にはかなり重度で入院に至ったケース(SIDS (1997)と、時にはかなり重度で入院に至ったケース(SIDS (1997))では「銀たした。一方、ヒの分(1 中枢神経系、血液、腎臓、肝臓とした。一方、ヒ・吸入試験(SIDS (1997))では「鼻および喉の刺激」、また別の症例報告(HSDB (2004))では「反復性の呼吸器への刺激および特性咳」などの記述もあるので、区分3(気道刺激性)とした。	2012.3修正
21B3020	エチレングリコールモ ノ-ノルマル-ブチル エーテル、(別名ブチ ルセロソルブ)	111-76-2	水性環境有害性 (急性)	区分2	-	-	水生生物に毒性		甲殻類 (グラスシュリンプ) での96時間LC50 = 5.4mg/L (CaPSAR, 2000) であることから、区分2とした。	区分外	-	-	_		魚類(シーブスヘッドミ/ー)での96時間LC50 = 116mg/L(環境省リスク評価第6巻、2008、他)、甲殻類(ウンエビ属)での96時間LC50 = 130mg/L(環境省リスク評価第6巻、2008、他)であることから、区分外とした。	2014.2修正
21B3020	エチレングリコールモ ノ-ノルマル・ブチル エーテル、(別名ブチ ルセロソルブ)	111-76-2	特定標的臓器毒性 (反復暴露)	区分2(血液)	健康有害性	警告	長期にわたる、又は反 復暴露による臓器(血 液)の障害のおそれ		ラットの雌雄を用いた90日間の吸入暴露試験において、用量77 ppmで表血球数やヘモグロビンとヘマトクリ外値の減少。また、平均赤血球へモグロビンとの増加などの血液学的諸症状が観察された[SIDS] (1997)、また、別のラット雌雄を用いた14週間の吸入暴露試験において、125 ppmまた124 不以上の用量で雌ラットに再生(不良性)かつ正色素性貧血が認められた[PATTY Gbt. 2001)、以上の貧血を示す証拠に基づき、区分2(血液)とした。	区分2(血液)	健康有害性	警告	長期にわたる、又は 反復暴露による臓器(血液)の障害の おそれ		ラットの雌雄を用いた90日間の吸入暴露試験において、用量77 ppmで赤血球数やヘモグロピンとヘマトクリット値の減少。また、平均赤血球を大でロピンの増加などの血液学的諸症状が観察された(SIDS (1997)、また、別のラット雌雄を用いた14週間の吸入暴露試験において、125 ppmまたはそれ以上の用量で減ラット、全群で雌ラットに再生(不良性)かつ正色素性質血が影響のよりな形でいるい。以上の貧血を示す証拠に基づき、区分2(血液)とした。	2014.10修正
21B3021	塩化アンモニウム	12125-02-9	水生環境有害性 (急性)	区分1	環境	警告	水生生物に非常に強い 毒性		魚類(ニジマス)での96時間LC50 = 0.696mg/L (ECETOC TR91, 2003)であることから、区分1とした。	区分3	-	_	水生生物に有害		魚類(ブルーギル)の96時間LC50=74.2mg/L (ECETOC TR91, 2003)から、区分3とした。	2012.3修正
21B3021	塩化アンモニウム	12125-02-9	水生環境有害性 (長期間)	区分2	環境	_	長期継続的影響により 水生生物に毒性		急性毒性が区分2、水中での挙動および生物蓄積性が不明であるため、区分2とした。	区分1	環境	警告	長期継続的影響に より水生生物に非 常に強い毒性		急性毒性が区分1、水中での挙動および生物蓄積性が不明であるため、区分1とした。	2012.3修正
21B3021	塩化アンモニウム	12125-02-9	生殖毒性	分類できない	-	-	-		ラットに経口ばく驚による二世代試験において、外見上の奇形はなく、高用量で生存仔が得られず中用量でも同腹仔の学分が死亡した「UIGLID (2000)が、試験物質として混合物、体物質420%)が使用されたために動き向から放水投与により催奇形性は認められず、胎児の成長阻害が認められたが、投与量から明らかに母歌の代謝性アンドーシスによるものと結論付けられている(SIDS (2009)。一方、ラットの妊娠のから12日に選班投与(696)により代謝性アンドーシスを認め、60例が懐胎、20例が吸収されたとの記述があるがイン以上の情報はなく、対照群も設けられていないので分類できない(IUCLID (2000))。また、マウスの妊娠10日目に600 mg/kgを1日4回経口投与により、胎仔の7%が大き日本回経口投与により、胎仔の7%が大き日本回経口投与により、胎仔の7%が大き日本の記述(Teratogenic (12th、2007)があるが、詳しいデータがないよ1日合計2400 mg/kgの7%が表しているが1500 mg/kgであることから極めて高い用量と言えるので分類の根拠とはしなかった。以上、分類者拠とする「にはいずれもデータ不十分であり「分類できない」とした。	分類できない	-	-	-		マウスに経口ばく驚による二世代試験において、外見上の奇形はなく、高用星で生存仔が得られず中用量でも同様で中分が死亡した(UCLD) (2000))が、試験物質として混合物、体物質429%)が使用されたため、野価が困難であり分類根拠としなかった。ラットに妊娠7日から散水投与により催奇形性は認められず、胎児の成長胆害が認められたが、投与量から明らかに母数の代制性アシドーシスによるものと維険付けられている(SIDS (2009))、一方、ラットの妊娠から12日に混貨投与(6%)により代謝性アシドーシスと認め、60例が懐熱、20例が吸収されたとの記述があるがそれ以上の情報はなく、対照群も設けられていないので分類できない(UUCLD (2000))。また、マウスの妊娠10日目に500 mg/kgだ1日の程度1投与により、胎仔の7%が大性との記述(Teratogenic (12th、2017)があるが、詳しいデータがないよ」日合計2400 mg/kgの7%が大性との記述(Teratogenic (12th、2017)があるが、詳しいデータがないよ」日合計2400 mg/kgの 大りにないがありまりの「Mgであることかを接めて急いまり、分類できるないで分類の根拠とはしなかった。以上より、分類根拠とするこにはいずれもデータ不十分であり「分類できない」とにはいまれた。	2014.10修正

物質ID	物質名	CAS番号	項目					修正前						修正後		備考
1,550.	1,000		^-	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠・問題点	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠・問題点	111111111111111111111111111111111111111
21B3024	カーボンブラック	1333-86-4	水性環境有害性 (急性)	区分外	-	_	-		甲穀類(オオミジンコ)での24時間LC50 > 5600mg/L (IUCLID, 2000)であることから、本物質の水溶解度 (不溶(HSDB, 2009))において当該毒性を示さないことが示唆されるため、区分外とした。	区分外	-	-	-		藻類(セネデスムス)での72時間に755> 10000mg/L (SIDS, 2006)、甲殻類(オオミンコ)での24時間 LC50 > 5600mg/L (SIDS, 2006)、魚類(ウグイ)での96時間 LC50 > 1000mg/L (SIDS, 2006)であることから、本物質の水溶解度(不溶(HSDB, 2009))において当該毒性を示さないことが示唆されるため、区分外とした。	2014.2修正
21B3031	酢酸ブチル	123-86-4	特定標的臟器毒性 (単回暴露)	区分2(呼吸器、中枢神経系)	健康有害性	警告	臓器(呼吸器、中枢神 経系)の障害のおそれ		ラットのエアゾールによる吸入環露試験において、540pm/4h(251mg/L/4h)で肺のうっ血、肺胞の出血、気管支払膜の脱落・肺胎と 反細胞の境死、肺水腫などが観察されている(ACGIH(2001))ため区分2(28%)、エチレング1コールアセテート(28%)から成る溶媒のばく驚を受けた作業者において簡単状態のばく驚を受けた作業者に対いて簡単状態のはる第では高度は高くは、140mg/L/4h)で運動失調や成る(18%)を140mg/L/4h)で運動失調や病を140mg/L/4h)で運動失調や病を140mg/L/4h)で運動失調や病が140mg/L/4h)で運動失調や病が140mg/L/4h)で運動失調や病が140mg/L/4h)で運動失調や病が150mg/L/4h)で運動失調や病が150mg/L/4h)で運動、正向反349mg/L/4h)で活動・運動の低下を呈し、マウスでは28000pm を20分間吸入は(第11mg/L/4h)により姿勢異常、覚醒低下、強害性/開代性運動、正向反対の運れなどが観察されている(ACGIH(2001))。上配作業者の神軽症状は回復が遅やかで必ずしも重重ではないが、動物における語症状がガイダンス値と分2に相当する濃度で認められているので、区分2(中枢神経系)とした。なお、ヒト被験者に300ppmを2・5分吸入ばる別とは変したは数には、150mg/L/4h)には150mg/L/4h)には150mg/L/4h)では150mg/L/4h)では150mg/L/4h)では150mg/L/4h)では150mg/L/4h)では150mg/L/4h)では150mg/L/4h)では150mg/L/4h)では150mg/L/4h)では150mg/L/4h)が1	区分2(呼吸器, 中枢神 器, 中枢神 軽系)	健康有害性	警告	臓器(呼吸器、中枢 神経系)の障害の おそれ		ラットのエアゾールによる吸入暗露試験において、540pm/4h(257mg/L/4h)で肺のうっ血、肺胞の出血、気管支粘膜の形落、肺形と短細胞で無死、肺水腫たどが観察されている(ACGIH (2001))ため区分2(28%)、エテレングリコールアセテート(28%)から成る溶漿のはく薬を受けた作業者において暗眠状態のはる深が配合され(ACGIH (2001))、極めて高濃度のはく薬では悪海に大に変をしている(ACGIH (2001))、極めて高濃度のはく薬では電源消失に至るとの記述産業医学の13を(1867年)は13を19年の14年の14年の14年の14年の14年の14年の14年の14年の14年の14	2014.10修正
21B3032	サチライシン	9014-01-1 1395-21-7	水生環境有害性 (急性)	分類できない	-	-	-		データがなく分類できない。	区分外	_	-	-		魚類(ゼブラフィッシュ)での96時間LC50 = 200- 400mg/L(NICNAS, 1993)であることから、区分外とした。	2012.3修正
21B3032	サチライシン[ズブチ リシン(枯草歯の生産 するブロテアーゼ)]	9014-01-1、 1395-21-7	特定標的臓器毒性 (単回暴露)	区分1(呼吸器系)	健康有害性	危険	臓器(呼吸器系)の障害		モルモットの試験で12%溶液の吸入暴露(1 mg/m3/6h、(4時間換算値・0.0058 mg/L)において、 誘変があられんGCHH(2001)。ラット5世にズブチリシン酵素類の1つのAlcalaseを吸入暴露(0.1 to 0.4 mg aep/L/4h)した試験(0.0ECD TG403)では、肺のうっ血と出血を样子運動で認められた(HERA (2007)こと、また、ヒトでは「ズブチリシンは既知の気道刺激性物質である」との記述(ACGH(2001))、以上を総合して区分1(呼吸器)とした。	区分1(呼吸器系)	健康有害性	危険	臓器(呼吸器系)の 障害		モルモットの試験で12%溶液の吸入暴露(1 mg/m3/6h, (4時間換算値: 0.0058 mg/m3/6h, (4時間換算値: 0.0058 mg/m3/1)にはいて、 請水量がからなれ(ACGIH(2001))、ラット医吐こズブチリシン酵素類の1つのAlcalaseを吸入暴露(0.1 to 0.4 mg aspt//4h)した試験(0ECD TG403)では、肺のう血と出血を伴う浮腫が認められた[HERA (2007))こと。また、ヒトでは「ズブチリシンは既知の気道刺激性物質である」との記述(ACGIH(2001))、以上を総合して区分1(呼吸器)とした。	2014.10修正
21B3033	酸化亜鉛	1314-13-2	水生環境有害性 (長期間)	区分1	-	-	-		急性毒性区分1であり、金属化合物であり水中での挙動が不明であるため、区分1とした。	区分1	環境	警告	長期継続的影響に より水生生物に非 常に強い毒性		急性毒性区分1であり、金属化合物であり水中での挙動が不明であるため、区分1とした。	2011.6修正
21B3034	酸化チタン(IV)	13463-67-7	生殖細胞変異原性	区分外	-	-	-		マウスの腹腔内投与による骨髄細胞小核試験および 染色体異常試験(いずれも体細胞in vivo 変異原性試 影、?陰性(FTPBE (2005))の記載より区分补とした。 なお、チャイニーズハムスターを用いるin vivo SCI試 域(体細胞in vivo遺伝毒性性(象) およびAmes試験、培 養細胞を用いる染色体異常試験、マウスリンフォーマ アッセイ(いずれもin vitro 変異原性試験)で陰性の結 果が得られている。	区分外	-	-	-		マウスの腹腔内投与による骨髄細胞小核試験および 染色体異常試験(いずれも体細胞in vivo変異原性試 験)で陰性(NP DB (2005)の記載より区分外と比た。 なお、チャイニーズハムスターを用いるin vivo SCは試 験(体細胞in vivo遺伝毒性試験) およびAmes試験、培 養細腔を用いる染色体異常試験、マウスリンフォーマ アッセイ(いずれもin vitoを実際性域)で陰性(NTP DB (2005))の結果が得られている。	2014.10修正
21B3037	シクロヘキサノン	108-94-1	生殖細胞変異原性	区分2	健康有害性	警告	遺伝性疾患のおそれの 疑い		ラットの皮下投与による骨髄細胞を用いた染色体異常試験(体細胞in vivo変異原性試験)の陽性結果 (SIDS(access on Apr. 2009)) に基づき、区分2とした。なお、その他のin vivo就験として、マウスの吸入投与による優性致死試験(経世代変異原性試験)において使性(SIDS(access on Apr. 2009))、ラットの吸入投与による骨髄細胞を用いた染色体異常試験(休細胞がvo変異原性試験)で降性の粉告がある。また。in vitro試験ではAme試験(IARC 47 (1989)、SIDS(access on Apr. 2009) では酸性ならびに騰性、CHO細胞またはドリン/球を用いた染色体異常試のHOME 47 (1989)、SIDS(access on Apr. 2009))ではそれぞれ降性または勝性、マウスリン/延見1784を用いた卵色性または勝性、マウスリン/延見1784を用いた前進突然変異試験で降性の報告がある。	区分2	健康有害性	警告	遺伝性疾患のおそ れの疑い		ラットの皮下投与による骨髄細胞を用いた染色体異常試験(体細胞n vivo変異原性試験)の陽性結果(SIDS(access on Apr. 2009)に基づき、及うとした。なお、その他のin vivo試験として、マウスの吸入投与による骨性数形式試験(終世代変異原性試験)において強性(SIDS(access on Apr. 2009))、ラットの吸入投与による骨性熱間を用いた染色体異常試験(体細胞n vivo変異原性試験)で陰性(SIDS(access on Apr. 2009)の報告がある。また、in vitro試験ではAmes試験(IARC 47 (1989)、SIDS(access on Apr. 2009)では大いまを用いた染色体異常試験(IARC 47 (1989)、SIDS(access on Apr. 2009)では大い光速や用く2009)ではそれぞれ除性または陽性、マウスリンパ運上51748年用、ド節速突然変異試験で陰性(SIDS(access on Apr. 2009))の報告がある。	2014.10修正
21B3043	塩化鉄(III)	7705-08-0	水生環境有害性 (急性)	区分2	-	-	水生生物に毒性		甲殻類(オオミジンコ)での48時間LC50 = 7600 µg/L (AQUIRE, 2010)であることから、区分2とした。	区分3	-	-	水生生物に有害		甲殻類(オオミジンコ)での48時間EC50 = 9.6mg/L (SIDS, 2007) (塩化第二鉄換算濃度: 27.8 mg/L)で あることから、区分3とした。	2012.3修正
21B3043	塩化鉄(III)	7705-08-0	水生環境有害性 (長期間)	区分3	-	-	長期継続的影響によっ て水生生物に非常に強 い毒性		急性毒性区分3であり、金属化合物であり水中での挙動およびが不明であるため、区分3とした。	区分3	-	-	長期継続的影響に よって水生生物に 有害		急性毒性区分3であり、金属化合物であり水中での挙動およびが不明であるため、区分3とした。	2014.10修正

物質ID	物質名	CAS番号	項目					修正前						修正後		備考
				分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠・問題点	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠・問題点	
21B3046	ナフタレン	91-20-3	特定標的臟器毒性 (単回暴露)	区分1(血液、眼、気道)	健康有害性	危険	臓器(血液、眼、気道) の障害		ヒトへの影響で溶血性食血が認められたとの複数の 報告(ACGIH (付か、2001)、EU-RAR (2003)、NTP TR500 (2000)、ATSDR (2003))があることから、区分 (1血液)とした。また、上下を経口摂取により日内障条 症の報告例(DFGOT vol.11 (1998))があり、かつ動物 試験でウサギに経口投与(1000~2000 mg/kg)によ る所見として、白内障(ACGIH (7th、2001))がよび角膜 混濁(DFGOT vol.11 (1998))が記載があることから、 区分1(限)とした。さらに、マウスを用いた経口投与 験において、区分2のガイゲンス値内(400mg/kg)で、 気管支上皮に肥厚、空砲化、刺離、壊死などの傷害 が見られ、特にクララ細胞で特果的であった。気道に 対する同様な影響はマウスに (1-0 20 5 mg/4 5 特開 吸入ばく露した場合に (2002)、EHC 202 (1998))こと により、区分1(気道)とした。	区分1(血液、眼、気道)	健康有害性	危険	臓器(血液、眼、気 道)の障害		にトへの影響で溶血性貧血が認められたとの複数の 報告 (ACGHI (竹木) 201)、EU-FAR (2003)、NTP TR500 (2000)、ATSDR (2003) があることから、区グ (1血減とした。また、上下経日排取により日内障発 卓の報告例 (DFGOT vol.11 (1998)) があり、かつ動物 試験でウサギに経口投与(1000~3000 mg/kg)によ る所見として、白内障(ACGHI (7th、2001))および角膜 混濁(DFGOT vol.11 (1998)) か記載があることから、 区分((限)とした。さらに、気道に対する同様な影響 はマウスに0.1~0.35mg/Lを4時間吸入ばく驚した場 でした退められている(DFGOT vol.11 (1998)、JARC 82 (2002)、EHC 202 (1998) ことにより、区分(気道) とした。なお、マウスを用いた毎日投与試験におい て、区分2のガイダンス値内(400mg/kg)で、気道支上 反に肥厚、定態化、割態、は死などの傷害が見られ、 特にクララ細胞で特異的であった。	2014.10修正
21B3047	乳酸ノルマル-ブチル	138-22-7	水生環境有害性 (急性)	区分外	-	-	_		藻類(Pseudokirchneriella subcapitata)での72時間 ErC50 = 929mg/L(ECETOC TR91, 2003)であること から、区分外とした。	区分3	_	-	水生生物に有害		魚類(ゼブラフィッシュ)での96時間LC50 = 75mg/L (AQUIRE, 2011)であることから、区分3とした。	2014.2修正
21B3049	フェノチアジン	92-84-2	標的職器/全身毒性(単回暴露)	区分1(肝臓、 腎臓、血液、 神経系、循環 器系) 区分3(気道刺 激性)	感嘆符	警告	臓器(肝臓、腎臓、血液、神経系、循環器系) の障害 呼吸器への刺激のおそ れ		ヒトへの影響として、事故によるばく露で、溶血性貧血、肝毒性を起こしたとの記述があり(HSDB (2005))、発口ばく薬により回じ、肝毒性と溶血性貧血、その他に腹部痙攣・頻脈、腎臓への障害を起こす部位がある(ACGH (2001))を記述がある。また心停止を起こし、死に至ったとの報告があり、低血圧、不整脈特に心室頻拍を起こし、中枢神経抑制、昏睡も起こすおそれがある(HSDB (2005))との記述により区分(旧解、腎臓、血液、循環器末、神経系)とした。定方(以降)の関連に対り(HSBB (2005))、気道を刺激する(ICSSC(M(1998))との記述があるため区分3(気道刺激性)とした。	区分1(肝臓、腎臓、系腎臓、系、循環系)区分3(気道刺激性)	健康有害性 感嘆符	危険警告	臓器(肝臓、腎臓、 血液、神経系、循環 器系)の障害 呼吸器への刺激の おそれ		ヒトへの影響として、事故によるばく需で、溶血性貧血、肝毒性を起こしたとの記述があり(HSDB (2005))、終日はばく第により回じ、肝毒性と溶血性貧血、その他に酸部痙攣、頻脈、腎臓への障害を起こす可能性がある(ACGIH (2001)との記述がある。またの停止を起こし死に至ったとの報告があり、低血圧、不整脈特に心室頻拍を起こし、中枢神経抑制、昏睡も起こすおそれがある(HSDB (2005))との記述により区分(HF臓、腎臓、血液、循環器系、神経系)とした。また、皮膚の刺激に加え呼吸器への刺激性が示唆されており(HSDB (2005))、気道を刺激する(ICSC(G/(1998))との記述があるため区分3(気道刺激性)とした。	2011.6修正
21B3051	プロピオン酸	79-09-4	水生環境有害性 (急性)	区分3	-		水生生物に有害		甲殻類(オオミジンコ)での48時間EC50=22.7ppm (AQUIRE,2010.他)であることから、区分3とした。	区分3	-	-	水生生物に有害		甲殻類(オオミジンコ)での48時間EC50=22.7ppm (SIDS, 2007)であることから、区分3とした。	2014.2修正
21B3062	レソルシノール	108-46-3	急性(吸入:粉塵、 ミスト)	区分外	-	-	-		ラットでの1時間暴露によるLC50値:21.3~78mg/L(4 時間接襲:5.3~19.5mg/L)(IUCLD2000))に基づき JIS分類基準の区分外(国連分類基準の区分5)とした。飽和蒸気圧は0029mg/Lで、触点10℃であることより制能での試験とみなせる)	区分外	-	-	-		ラットでの1時間暴露によるLC50値: 21.3~78mg/L(4 時間映算: 5.3~19.5mg/L)(IUCLD2000))に基づき 以15分類基準の区分外(国連分類基準の区分りとし た。(なお、毒性値(5.3~19.5mg/L)が飽和蒸気圧遷 度(0.0022mg/L)より高く、当該物質は融点110°Cの固 体のため粉塵での試験と判断した。)	2014.10修正
21B3063	ロジン	8050-09-7	急性(吸入:粉塵、 ミスト)	区分4	感嘆符	警告	吸入すると有害		ラットLC50(6時間)値約1.5mg/L(4時間換算値:約 2.3mg/L)(IUCLID,2000)に基づき、区分4とした。な お、蒸気圧データは無いが、固体であり蒸気圧が く0.1hpa(IUCLID(2000))と記載されていることから り 塵と判断した。	区分4	感嘆符	警告	吸入すると有害		ラットLC50(6時間)値約1.5mg/L(4時間換算値:約 2.3mg/L)(IUCLID2000)に基づき、区分4とした。な お、当該物質の蒸気圧データは無いが、固体であり 蒸気圧が0.1hPa未満(IUCLID(2000))と記載されてい ることから <mark>粉塵での試験</mark> と判断した。	2014.10修正
21B3063	ロジン	8050-09-7	水生環境有害性 (長期間)	区分2	環境	-	長期継続的影響によっ て水生生物に非常に強 い毒性		急性毒性区分2であり、急速分解性がない(BODによる分解度:36-46%(IUCLID、2000)ことから、区分2とした。	区分2	環境	-	長期継続的影響に よって水生生物に 毒性		急性毒性区分2であり、急速分解性がない(BODによる分解度:36-46%(IUCLID、2000)ことから、区分2とした。	2014.10修正
21B3065	硝酸アンモニウム	6484-52-2	皮膚刺激性	区分外	-	-	-		ウサギを用いた試験(OECDTG404)で刺激性なし (netirritating)の結果(IUCLID(2000))に基づき、区分 かとした。また、ウサギ1c5回反復適用した別の試験 で1回適用後のドレイズの平均スコアが紅斑と昇煙で それぞれの1と0であり、適用後ゆまだは72時間には 全ての動物で拡助は見られなかった(IUCLID(2000)) ことからも刺激性のないことが示唆される。	区分外	-	-	-		ウサギを用いた試験(OECDTG404)で刺激性なし (notirritating)の結果(IUCLID(2000))に基づき、区分 外とした。また、ウサギに適用して4時間後のドレイズ 試験の平均スコアが虹域上浮塵でそれぞれの1とので あり、適用後48または372時間には全ての動物で紅斑 は現られなかった(IUCLID(2000))ことからも刺激性 のないことが示唆される。	2014.10修正
21B3065	硝酸アンモニウム	6484-52-2	眼に対する重篤な 損傷性/眼刺激性	区分2B	-	警告	眼刺激		ウサギを用いた眼刺激性試験において、 <mark>適用24時間 後に症状が最も強く現れ</mark> 、角膜混濁と虹彩炎は24時 間まで、結膜浮腫は4日目まで、発赤は7日目まで 回復し、 MMAS(ModifiedMaximumAverageScore)(23+19+12)/3 =18.3であった(ECETOCTR48(1998))ことに基づき、区 分2Bとした。	区分2B	-	警告	眼刺激		ウサギを用いた眼刺激性試験において、適用24時間 後 <u>に変</u> 状が最も強く翼れた。また、角膜混濁と虹影炎 は24時間まで、結膜浮塵は4日日まで、発赤は7日日 までに回復し、 MMAS(ModifiedMaximumAverageScore)(23+19+12)/3 =18.3であった(EOETOCTR48(1998))ことに基づき、区 分28とした。	2014.10修正
21B3070	アジ化ナトリウム	26628-22-8	標的臟器/全身毒性(反復暴露)	区分1(中枢神経系、心血管系、肺)	健康有害性	危険	長期にわたる。又は反復暴露による誤器中枢 神経系、心血管系、肺) の障害		ラットの13週間反復経口ばく露試験の最高用量 (20mg/kg/day)で臨床症状として暗眠、努力呼吸、死 、 相離学的病変として大型と視床に壊死が観察さ れた(NTPTR389(1991))。さらに、2年間反復経口ばく 意試験では最高用量(10mg/kg/day)で生存率の低 下が男られ、この低下は試験物質は (NTPTR389(1991))ことから、区分1(中枢神経系、の 試験の20mg表と心血管連脱が原因である述べられている (NTPTR389(1991))ことから、区分1(中枢神経系、の 試験の20mg/kg/dayでは、あから73週間経口は交通 観験されているので区分2(制)とした。なお、イヌの反 復経日は(家話鉄)(10mg/kg/day)でも、遊失 が見られ、大脳の親継形態学的変化が報告されている (NEDB(2009))が、とトのが、3鷹に関しては重大な有 言影響の発生を伝える報告は特に見当たらない。	区分1(中枢 神経系、心 血管系) 区分2(肺)	健康有害性	危険警告	長期にわたる。又は 長板の最高による臓 を発露による職の職者の 長期にわたる。又は 長期にわたる。又は 長板を発露による職 緩(肺)の障害のお それ		ラットの13週間反復経口ばく露試験の最高用量 (20mg/kg/day) で臨床症状として暗眠、努力呼吸、死 、組織学的病変として知念と視床に壊死が観察された (NTPTR389(1991))。さらに、2年間反復経口ばく 議試験では最高用量(10mg/kg/day)で生み率の低下が見られ、この低下は試験物質は〈電に起因する (NTPTR389(1991))ことから、区分1(中枢神経系・心血管系)とした。また、上起のラット3回間経口は、動域の20mg/kg/day)でも、一起の大腫も観察をよれているので医分2節)とした。なお、イヌの反復経口はく底試験(14mg/kg/day)でも、造験失調が見られ、大脳の組織形態学的変化が報告されているので医分2節)とした。なお、イヌの反復経口はく底調験(14mg/kg/day)でも適動失調が見られ、大脳の組織形態学的変化が報告されている(HSDB(2009)が、上や加く環に関しては重大な有害影響の発生を伝える報告は特に見当たらない。	2011.6修正

物質ID	物質名	CAS番号	項目		I	T		修正前						修正後	1	備考
1,750-	1,2,4		^-	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠・問題点 ヒトで数mLを誤飲の約20分後に嘔吐し、胸部逼迫、	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠・問題点 ヒトで数mLを誤飲の約20分後に嘔吐し、胸部逼迫、	MO - 3
21B3071	アジポニトリル	111-69-3	特定標的嚴器毒性(単回暴露)	区分1(神経系)	健康有害性	危険	臓器(神経系)の障害		に下い致いたを開かなの方は、「地上し、今回の登里、 様力、眩暈、デアノーゼを起こし、さらに頻繁、瞬呼吸、 傾血圧、散瞳、強重、間代性の四肢及び積面筋肉の 収縮、錯乱がみられた12種の特報告されている(環境 省リスク評価第3巻(2004)、PATTY(5bt,2001))。さら に、大抵の中毒患者は急性的リア起するか完全に回 復するかのいずれかであるが、種に人格変化、記憶 で損。媒体外路性脳性麻痺のような神経学的後遺症 を起こすと配法されている(HSDS(2009))ととから区分 1 (神経系)とした。なお、動物の吸入は(雷紅熱の) 見として、マウスで呼吸促進、運動化下、発度チア ノーゼ(ACGH(2001))、ラットで痙攣、嗜眠などの症状 (CGER)、ザードデータ集2001-17(2002))が記載されている。	区分1(神経系)	健康有害性	危険	臓器(神経系)の障 害		これで致加にを誘致のからの方法に増生した。前の途重は、 脱力、眩暈、方子ンイをを記こし、さらに頻繁、鎮呼吸、 低血圧、散瞳、強値、間代性の四肢及び積面筋肉の 収縮、鏡乱がみられた12種のが報告されている(環境 省リスク評価第3巻(2004)、PATTY(5th,2001))。さら に、大抵の中毒患者は急性的厂死亡するか完全に回 復するかのいずれかであるが、稀に人格変化、記憶 で共績、健体外路性脳性麻痺のような神経学的後遺症 を起こすと記述されている(HSDB(2009))ととから区分 1(神経系)とした。なお、動物の吸入は(需試験の所 見として、マウスで呼吸促進、遭動化下、後度チア ノーゼ (ACGH(2001))、ラットで痙攣・槽眼などの症状 (CERI、サードデータ集2001-17(2002))が記載されている。	2014.10修正
21B3073	アセトアルデヒド	75-07-0	水生環境有害性 (急性)	区分2	_	_	水生生物に毒性		魚類(ブルーギル)での96時間LC50=2.1mg/L(NITE 初期リスク評価書,2008)であることから、区分2とした。	区分3	_	-	水生生物に有害		甲殻類(ミシッドシュリンプ)での96時間LC50 = 27.4mg/L(NITE初期リスク評価書, 2007) であることから、区分3とした。	2014.2修正
21B3075	3-アミノ-1H-1,2,4-ト リアゾール、(別名アミ トロール)	61-82-5	生殖毒性	区分2	健康有害性	警告	生殖能又は胎児への悪 影響のおそれの疑い		ラットの1世代ばく濡により離乳後に児の死亡率増加 (DFGGTvel.18(2002)、2世代ばく驚により交配や生 風の指標の変化 (JMPR92G(1997)、また、器官形成 期のはて驚によりマウスで吸収胚の増加 (DFGGTvel.18(2002)、胎児死亡の増加 (JMPR92G(1997)、ウサギで流産の増加、胎児の無 眼球症や小眼球症など形態的変化 (JMP 926(1997)) が観察されている。これらの用量では親動 物にも体軍増加抑制や臓器重量の変化などの一般 毒性が認められるので医グ2とした。	区分2	健康有害性	警告	生殖能又は胎児へ の悪影響のおそれ の疑い		ラットの1世代ばく靄により離乳後に児の死亡事増加 (DFGOTvol.18(2002))、2世代はく靄により交配や生 一般の持線の変化 (JMPP826(1997))、また、第官形成 期のばく靄によりマウスで吸収胚の増加 (DFGOTvol.18(2002))、胎児死亡の増加 (JMPR 926(1997))、ウサギで流産の増加 胎児の無眼球症 小眼球症と形態的変化 (JMPR 856(1997))、行戦 マルリア (JMPR 856(1997))、行戦 深れている。これらの用量では観動地にも体重増加 加制や臓器重量の変化などの一般毒性が認められるので医分2とした。	2014.10修正
21B3075	3-アミノ-1H-1,2,4-ト リアゾール、(別名アミ トロール)	61-82-5	水生環境有害性 (長期間)	区分2	環境	-	長期継続的影響によっ て水生生物に非常に強 い毒性		急性毒性区分2であり、急速分解性がない(BODによる分解度:0%(既存点検、1989))ことから、区分2とした。	区分2	環境	-	長期継続的影響に よって水生生物に 毒性		急性毒性区分2であり、急速分解性がない(BODによる分解度:0%(既存点検、1989))ことから、区分2とした。	2014.10修正
21B3076	2-アミノピリジン	504-29-0	水生環境有害性 (急性)	分類できない	-	-	_		データ不足のため分類できない。	区分3	-	-	水生生物に有害		魚類(ヒメダカ)での96時間LC50 =11mg/L(環境省生態影響試験, 2008)であることから、区分3とした。	2012.3修正
21B3076	2-アミノピリジン	504-29-0	水生環境有害性 (長期間)	区分3	-	-	長期継続的影響によっ て水生生物に非常に強 い毒性		急性毒性区分3であり、急速分解性がない(BODによる分解度:0%(既存点検、1981))ことから、区分3とした。	区分3	-	=	長期継続的影響に よって水生生物に 有害		急性毒性区分3であり、急速分解性がない(BODによる分解度:0%(既存点検,1981))ことから、区分3とした。	2014.10修正
21B3077	アリルアルコール	107–18–6	特定標的臟器毒性 (反復暴露)	区分1(腎臓、肝臓)	健康有害性	危険	長期にわたる。又は反 復暴器による臓器(腎臓、肝臓)の障害		ラットに13~14週間幾日投与により、1000pm(6)14~ 72m/kx/day/TET議の再生件13歳7 (SIDS(2005))、25mg/kx/day/TET議師周囲の肝細胞地 形成(NTPTO/48(2006))、45元k-42目間の対ちでは 40mg/kg/day(90日換算18.7mg/kg/day)で肝臓の壊 死、線解性、脂管性を(SIDS(2005))、マウス14週間 を日投与により、25mg/kg/day以上で門藤剛體質室 施化(NTPTO/48(2006))、ラットに5週間的吸入は〈露 により16.6mg/m3(90日換算 0.007mg/L)で肝臓の肺 脈海抵太、混濁腫脹、果状境死(環境省)スク評価等 3巻(2004)がそれぞ和報告れている。吸入ば〈露で は区分1に相当する円量でも影響が見られることから 受外(肝臓)とした。また。ラットに14週間飲水投与就 核の転集、100pm(6)9~8.3mg/kg/day)以上で腎臓 は一般で15元を15元を15元を15元を15元を15元を15元を15元を15元を15元を	区分1(腎臓、肝臓)	健康有害性	危険	長期にわたる、又は 反復暴露による臓 器(腎臓、肝臓)の障 害		ラットに13~14週間報ビ口接与により、1000pm(671~ 72mg/kg/day)で肝臓の再生を伴う境死 (SIDS(2005))、25mg/kg/dayで門脈周囲の肝臓地配 大いTPTOX48(2006))、また、42目間の投与では 40mg/kg/day(90日接第18.7mg/kg/day)で肝臓の壊 死、線維化、胆管場合と(SIDS(2005))、マウス14週間 を担て投与により、25mg/kg/day以上で門脈側監費空 胞化(NTPTOX48(2006))、ラットに5週間内吸入はく露 により16.6mg/m3(90日投算、0007mg/L)で肝臓の静 脈洞拡大、混濁腫脹、果状境死(環境省リスク評価第 3巻(2004)がそれぞれ報告れている。吸入ばく露で は区分1に相当する円重でも影響が見られることから の汁(肝臓)とした。また、ラットに14週間飲水投与試 線の結果、100pm(69~83mg/kg/day)以上で腎臓 線の結果、100pm(69~83mg/kg/day)以上で腎臓 相臓に悪影響があるとの記述(SIDS(2005))、おより デーリの7mg/L)で腎臓における間質組織の増殖。尿 細管上皮の速水、赤球体腎炎体の変化(環境 41)ス フ評価第3巻(2004))の所見に基づき、区分1(腎臓)と した。	2014.10修正
21B3077	アリルアルコール	107–18–6	特定標的臓器(単	区分1(中枢神経系、肺、肝臓、腎臓)、区分3(気道刺激性)	健康有害性 感嘆符	危険警告	臓器(中枢神経系、肺、 肝臓、腎臓)の障害 呼吸器への刺激のおそ れ		ラットに経口投与後75~130mg/kgの用量で鈍麻、不 安、昏睡(SIDS(2005))が見られ、吸入ばく驚後0.095 た458mg/Lで簡極、振戦、塵壁(SIDS(2005))がそれ ぞれ観察され、主な症状の一つとして中枢神経への 医労が単行られている(DFG07voil5(2001))ことから 区分1(中枢神経系)とした。また、上記の同じ試験の 原理学的所見として、諸の戸壁およびうっの記載に より区分1(節)、腎臓の退色と壊死の記載により区分 1(所確)、腎臓の形皮と退色、血炎円井と湿濁腫脹の 財験の所見には30mg/kgで門脈周囲の遺骸化学(予期 最少で変形の形成で門脈周囲の遺骸化学(予期 形成の変形に505(2005))が記載され、肝臓を標的顕器 とする証拠を下している。一方、上中のボランよる 表気ばく魔式は実において、30mg/m3で鼻粘膜却 かの報告(SIDS(2005))があり、マウスに吸入ばく露 にお試験で感覚刺激による一過性の呼吸数減少が観 気が観告(SIDS(2005))があり、マウスに吸入ばく露 にお試験で感覚刺激による一過性の呼吸数減少が観 療されている(SIDS(2005))とから、区分3(気道刺激 使)とした。	区分1(中枢 神経系、肺、肝臓、 腎臓、区分 3(気(重刺激 性)	健康有害性 感嘆符	危険警告	臓器(中枢神経系、肺、肝臓、腎臓)の 障害 呼吸器への刺激の おそれ		ラットに経口投与後75~130mg/kgの用量で鈍麻、不 安、香煙(SIDS(2005))が見られ、吸入ばく驚後0.095 た4540mg/Lで管帳、援戦、策峰(ACGH/2007))がそ れぞれ観察され、主な症状の一つとして中枢神経へ の影響が挙げられている(DFGOTVer)15(2007))ことか ら区分1(中枢神経系)とした。また、上記の同じ試験 の病理学的所見として、肺の浮腫およびう血の記載 により区分1(節)、肝臓の退色と壊死の記載により區 分1(肝臓)、腎臓の形大と退色、血液甲柱と混濁腫瘍 が1(肝臓)、腎臓の形大と退色、血液甲柱と混濁腫瘍 が1(肝臓)、腎臓の形とした。別のラットを口投与 試験の所見には30mg/kgで門脈周囲の著しい壊死。 554mg/kgでは私Tの上昇と抗菌質の過酸性を伴う肝細 胞の壊死(SIDS(2005))が記載され、肝臓を標的臓器 とする証拠を不している。一方、上中のボランは大寒 よる蒸気ばく露試験において、30mg/m3で鼻粘膜刺 変の軽低(SIDS(2005))があり、マウスに吸入ばく驚した試験で感覚刺激による一過性の呼吸数減少が観 策されている(SIDS(2005))とから、区分3(気道刺激 使)とした。	2014.10修正
21B3078	1-アリルオキシ-2,3- エポキシプロパン	106-92-3	水生環境有害性 (長期間)	区分3	-	-	長期継続的影響によっ て水生生物に非常に強 い毒性		急性毒性区分3であり、急速分解性がない(BODIこよる分解度:37%(既存点検、1995))ことから、区分3とした。	区分3	-	-	長期継続的影響に よって水生生物に 有害		急性毒性区分3であり、急速分解性がない(BODによる分解度:37%(既存点検、1995))ことから、区分3とした。	2014.10修正
21B3080	アルファ-メチルスチ レン	98-83-9	水生環境有害性 (長期間)	区分2	環境	-	長期継続的影響によっ て水生生物に非常に強 い毒性		急性毒性区分2であり、急速分解性がない(BODによる分解度:0%(既存点検、1979))ことから、区分2とした。	区分2	環境	-	長期継続的影響に よって水生生物に 毒性		急性毒性区分2であり、急速分解性がない(BODによる分解度:0%(既存点検、1979))ことから、区分2とした。	2014.10修正

物質ID	物質名	CAS番号	項目					修正前						修正後		備考
177 9€ 10	טיאַער	3/10 H 13	74.0	分類結果	絵表示	注意喚起語		注意書き	分類根拠·問題点	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠•問題点	DH1.C2
21B3081	イソプレン	78-79-5	水生環境有害性 (長期間)	区分2	環境	-	長期継続的影響によっ て水生生物に非常に強 い毒性		急性毒性区分2であり、急速分解性がない(BODによる分解度:2%(既存点検,1988))ことから、区分2とした。	区分2	環境	-	長期継続的影響に よって水生生物に 毒性		急性毒性区分2であり、急速分解性がない(BODによる分解度:2%(既存点検,1988))ことから、区分2とした。	2014.10修正
21B3082	N-イソプロビルアミノ ホスホン酸O-エチル- O-(3-メチル-4-メチ ルチオフェニル)、(別 名フェナミホス)	22224-92-6	生殖細胞変異原性	区分外	-	-	-		マウスを用いた優性致死試験(生殖細胞invivo経世 代変異原性試験)の際性結果(JMPR300(1974), PATTY(5th.201))に基う医グ外とした。なお、 invitro変異原性試験として、エームス試験で陰性 (MTPDB(Accesson5.2009)、CHO培養細胞を用いた前 連突然変異試験で陰性(PATTY(5th.2001))、とトリンパ 球を用いた染色体異常試験で陽性 (PATTY(5th.2001)、結妹染色性異常試験で陰性 (PATTY(5th.2001)などの結果が得られている。	区分外	-	-	ı		マウスを用いた優性致死試験(生殖細胞invivo経世代変異原性試験)の陰性結果(JMPR300(1974), PATTY(5th_2001))に基づき区分析とした。なお、invitro変異原性試験として、エーム入試験で陰性(MTPDB(Accesson5,2009)、CHO培養細胞を用いた前進突然変異試験で陰性(PATTY(5th2001))、ヒトリンパ球を用いた染色体異常試験で陽性(MPR929(1997)、染色体異常試験で陽性(PATTY(5th2001)などの結果が得られている。	2014.10修正
21B3082	N-イソプロピルアミノ ホスホン酸O-エチル- O-(3-メチル-4-メチ ルチオフェニル)、(別 名フェナミホス)	22224-92-6	特定標的臓器(単回)	区分1(神経 系)	健康有害性	危険	臓器(神経系)の障害		ラットに経口投与により、1.5mg/kgbwの用量でコリン エステラーセ活性の阻害に伴い、筋の収縮・痙攣、協 順運動障害、労作呼吸などのコリン作動性症状が報 告されている(JMPR929(1997))。ガイダンス値を参照 して区分1(神経系)とした。	区分1(神経 系)	健康有害性	危険	臓器(神経系)の障 害		ラットに経口投与により、1.5mg/kgbwの用量で <mark>赤血球 アセチルコリンエステラーゼ活性</mark> の阻害に伴じ、筋の 収略、痙攣、結調運動障害、労作呼吸などのコリン作 動性症状が報告されている(JMPR929(1997))。ガイ ダンス値を参照して区分1(神経系)とした。	2014.10修正
21B3083	2-イミダゾリジンチオ ン	96-45-7	水生環境有害性 (長期間)	区分3	-	-	長期継続的影響によっ て水生生物に非常に強 い毒性		急性毒性区分3であり、急速分解性がない(難分解性、BODによる分解度:0%(既存点検,1982))ことから、区分3とした。	区分3	-	-	長期継続的影響に よって水生生物に 有害		急性毒性区分3であり、急速分解性がない(難分解性、BODによる分解度:0%(既存点検,1982))ことから、区分3とした。	2014.10修正
21B3084	エチリデンノルボルネ ン	16219-75-3	水生環境有害性 (長期間)	区分2	環境	-	長期継続的影響によっ て水生生物に非常に強 い毒性		急性毒性区分2であり、急速分解性がない(BODによる分解度:0%(既存点検、1985))ことから、区分2とした。	区分2	環境	-	長期継続的影響に よって水生生物に 毒性		急性毒性区分2であり、急速分解性がない(BODによる分解度:0%(既存点検,1985))ことから、区分2とした。	2014.10修正
21B3085	エピクロロヒドリン	106–89–8	特定標的臟器(単回)	区分1(呼吸器 系、肝臓、腎 臓)	健康有害性	危険	臓器(呼吸器系、肝臓、 腎臓)の障害		マウスおよびラットの吸入ばく露試験において、マウスの場合697pm (蒸気)を6時間(純時間精正度: 3657mg/L)で気迫および頃上皮の境死、潰瘍形成など(CERI-NITE有害性評価書ver.11Mo.74(2008))、お にグラットでは283~445pmで (基気)を6時間(純時間確正度: 1608~1684mg/L)で肺の浮腫や出血 (IRIS'2008)) の所見に基づき。反外(「呼鳴器系)とした。経口投与では、ラットの場合7~350mg/kgでは約80%の動物に胃不全が起きた(CERI-NITE有害性評価書ver.1.1Mo.74(2008))にと。また、ラットおよびマウス255~550mg/kgで登勘が広を伴うた「脊膜障害(CERI-NITE有害性評価書ver.1.1Mo.74(2008))が記され、吸入および経口の両整を伴うた「脊膜障害ないなどがウスの姿態を分の発生がガイゲンス(縦筋関区分11代相当する用量でも認められたことか。反分1(腎臓)とした。上記のラットおよびマウスの325~500mg/kgを経口投与した試験では、とらに肝臓の動態変性が見られ(CERI-NITE有害性評価書ver.1.1Mo.74(2008))、かつ、事故により大量を自ば気寒を受けたといる程の所列をして、養塩を伴うた肝肥大が記載され、ばく靄2年後も機能障害を伴う下脈の脂肪変性が見られている(EHG33(1984))ことに基づき、区分1(肝臓)とした。	区分1(呼吸器系、肝臓、腎臓)	健康有害性	危険	藤器 (呼吸器系、肝 臓、腎臓)の障害		マウスおよびラットの吸入はく需試験において、マウスの場合の9ppm(蒸気)を8時間(4時間補圧性) 3957mg/し7気造および場上皮の壊死、潰瘍形成などにCERI・NITE有害性評価書verl.1No.74(2008) などラットでは283~445pm(煮気)を6時間(4時間補圧性 1.608-1.684mg/し7時の浮躍や出血(IRIS(2008))の所見に基立を、区分1(呼吸器系)とした。経口投与では、ラットの場合7~350mg/kgで多いの動物に腎不全が起きた(CERI・NITE有害性評価書verl.1No.74(2008))が記載されて近25~50mg/kgでは防波と手に下が1740の83)が記載され、吸入は315を手に対した。上記のラットおよびマウスは1No.74(2008)とと、また、ラットおよびマウスは25~50mg/kgで空間が近く伸下の1740の83)が記載され、吸入は315を4円の第2とした。上記のラットおよびマウスの325~500mg/kgを掘り歩りたれたとから、反外1管膜とした。上記のラットおよびマウスの325~500mg/kgを掘り歩りたれたとから、反外1管膜とした。上記のラットおよびマウスの325~500mg/kgを掘り歩りたれま物ではまり大量を増り出来が111No.74(2008))かつ、事故により大量を増り計画をwer.11No.74(2008))かつ、事故により大量を伴り手間悪wer.11No.74(2008))かり、かつ、事故により大量を伴り手間悪いまりが記載され、Lば(郷2年後も機能障害を伴う肝肥大が記載され、Lば(郷2年後も機能障害を伴う肝肥大が記載され、Lば(郷2年後も機能障害を伴う肝肥大が記載され、Lば(郷2年後も機能障害を伴う肝肥大が記載され、Lば(郷2年後も機能障害を伴う肝肥大が記載され、Lば(郷2年後も機能障害を伴う肝臓の脂肪変性が持続してしる(ACGIH (2001))	2014.10修正
21B3085	エピクロロヒドリン	106-89-8	特定標的臟器(反復)	区分1(呼吸器 系、腎臓)	健康有害性	危険	長期にわたる。又は反復義語による臓器(呼吸器系、腎臓)の障害		ラットにおいて、13週間吸入ばく驚により50ppm(蒸 気:0.189mg/L)で臂尿細管の拡張(CERI・NITE 有害 世評価書物で1.1No 74(2008)、1の週間吸入ばく露により50ppm(0.189mg/L)で限局性尿細管変性(CERI・NITE 有害 リ50ppm(0.189mg/L)で限局性尿細管変性(CERI・NITE 有害性層価書やエ1.1No 74(2008))が、1が1本もガイダンス値範囲区分1・1位 ・ はまする速度で認められていることから、医分(肾臓) とした。また、ラットおよびマウスに13週間吸入はぐ露 により、25ppm(0.095mg/L)以上で鼻中穴造上皮に 炎症、限局性びらん、過形成、扁平上皮化生(CERI・NITE 有害性がらん、過形成、扁平上皮化生(CERI・NITE 有害性がらん、過形成、扁平上皮化生(CERI・1世上の125mg/L)で前の浮星、出血および誘急上皮に り、25ppm(0.095mg/L)以上で鼻中穴が1と(30日補 正・0.126mg/L)で前の浮星、出血および誘き、 り、25ppm(0.095mg/L)以上で鼻炎、副鼻腔炎、肺炎が、ガイダンス値範囲区分1に相当する速度で認められることから、区分1(呼吸器系)とした。なお、心臓と中枢神経系への影響の記載(CERI・バデーケデー今集 96-48(1998))もあるが、その情報の由来は1960年の で程ばく端末は終を含めその他の試験においては心臓と中枢神経系へに対する事性が記載あるいは言及されていて、標的臓器をとがでいては心臓と中枢神経系に対する事性が記載あるいは言及されていないので、標的臓器として心臓と中枢神経系を採 用しなかった。	区分1(呼吸 器系、臂 腱)	健康有害性	危険	長期にわたる。又は 反復暴露による臓 器(呼吸器系、腎 臓)の障害		ラットにおいて、13週間吸入はζ富により50ppm(無 気・0189mg/L)で腎保細管の拡張(CERI-NITE有害 性評価書やr.1.1No.74(2008)、10週間吸入はζ富によ り50ppm(0.189mg/L)で限局性尿細管変性(CERI- NITE有害性肝価量やr.1.1No.74(2008)、生速吸入は 〈富により30ppm(0.114mg/L)で尿細管の変性や拡張 (信別5(2008)がいずれもガイシス価値即区分1に相 当する速度で認められていることから、区分1(腎臓) と比た。また、ラットおよびマウスに13週間吸入はζ露 により、25ppm(0.095mg/L)以上で食甲介気造上皮に を定、限局性がらん、過形成、属平上皮化生(CERI- NITE有害性評価量やr.1.1No.74(2008))、ラットに30日 間吸入はζ臨により、100ppm(0.378mg/L/(5018年) リ、25ppm(0.995mg/L)以上で6、両ア上欠化生(CERI- NITE有害性評価量やr.1.1No.74(2008))、ラットに30日 間吸入はζ臨により、100ppm(0.378mg/L/(5018年) リ、25ppm(0.995mg/L)以上で必能性多、過解と 後、肺炎が、ガイダンス値範囲区分に日間吸入はζ臨により、125pm(0.995mg/L)以下化配性最多、 神経系への影響の記載(CERI-NITE有性情事もの人径2008) ことから、区分1(呼吸器系)とした。なお、心臓と中枢 神経系への影響の記載(CERI-NITE有性情事はの十分(2008) ことから、区分1(呼吸器系)とした。なお、心臓と中枢 神経系への影響の記載(CERI-NITE有性情事との十分(2008) にがあ、500円では、111円に記載された一つ の試験に基づく。しかし、その後行われた複数の反復 はζ臨試験を含めその他の試験においては心臓と中 程神経系に対する毒性が記載されいては心臓と と中枢神経系に対する毒性が記載されいては心臓と とれ神経系に対する毒性が記載されいては心臓と とれ神経系に対する毒性が記載されいては心臓と となかった。	2014.10修正

物質ID	物質名	CAS番号	項目	八年4十四	4A + -	V-20-20-17-51	4.00+由业4+n	修正前	ATTOMS BEING	7. kg d+ B	4A + -	V-25-6-118T	5 W++++	修正後	CANTAGAN BEINE	備考
				分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類複拠・問題点 ラットおよびマウスの13週間経口投与試験 (NTPTR374(1990))、マウスの16日間投与試験 (NTPTR374(1990))の各所見において、脳の脱髄、小脳の壊死(ラット)の記載があり、マウスの16日間投与では300mg/kg/dy(90日指定:53.3mg/kg/dy)の日間電子発現している。また、ラットおよびマウスの13週間を口投与試験(NTPTR374(1990)、マウスの40週間	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠・問題点 ラットおよびマウスの13週間経口投与試験 (NTPTR374(1990))、マウスの16日間投与試験 (NTPTR374(1990)) を音形見しまむて、脳の脱髄、小脳の速死(ラット)の記載があり、マウスの16日間投与では300mg/kg/day(90日補正・53.3mg/kgday)の用を発現している。また、ラットおよびマウスの13週間経口投与試験(NTPTR374(1990))、マウスの40週間	
21B3086	2.3-エポキシ-1-プロ バノール	556-52-5	特定標的臟器(反復)	区分2(中枢神 経系、脾臓、 精巣)	健康有害性	警告	長期にわたる。又は反 復義露による臓器中枢 神経系、脾臓、精巣)の 障害のおそれ		整口投与試験(NTPGMM-13(2007))、ラットの16日間投与試験(NTPTAY(1990))に各所見おいて、精巣上体支質の変性、精巣萎縮、精巣上体の肉芽性炎、精子数や運動性の低下など精巣への影響が記され、ラットの13週間投与で100mg/kg/day以上、マレカスの13週間投与で100mg/kg/day以上で認められてしる。さらこうかの2年間投与試験(37分で15mg/kg/day)では健雄ともに映識の総籍化が見られてと報告されている。以上の結果より、有害影響はいずれもガイダンス価範囲区分2に相当する用量以上で発生していることから、区分2で相等棒系、精巣、脾臓とした。資料の優先度の変更及び新たなデータの追加により、肝臓は削除し、精巣を追加した。	区分2(中枢 神経系、脾 臓、精巣)	健康有害性	警告	長期にわたる. 又は 反復暴露による職 器(中枢神経系. 牌 職、精巣)の障害の おそれ		経口投与試験(NTPGMM-13(2007)、ラットの16日 間投与試験(NTPGM3(1990))(2各所見おいて、精 巣上体支質の変性、精巣萎縮、精巣上体の肉芽性 炎、精子砂で運動性の低下がご有難やの形態が記 截され、ラットの13週間投与で100mg/kg/day以上、マ ウスの13週間投与で19mg/kg/day以上で認められて いる。さらにラットの2年間経口投与試験(37/5)られ たを報告されている(NTP TR3/41990)。以上の結果 より、有害影響はいずれもガイダンス値範囲区分に 相当する用量以上で発生していることから、位分2(中 相当する用量以上で発生していることから、反分2(中 枢神経系、精巣、辨臓)とした。資料の優先度の変更 及び新たなデータの追加により、肝臓は削除し、精巣 を追加した。	2014.10修正
21B3090	塩化ベンジル	100-44-7	標的臟器/全身毒性(反復暴露)	区分1(肝臓、神経系、呼吸器系)、区分2(心臓)	健康有害性	危険警告	長期にわたる、又は反 復業部による臓器(心 臓器による)を 長期にわたる。又は反 促基端による、配線 の 開着のおそれ		10mg/m3以上の濃度を定期的ばく露された労働者が 脱力感、疲労感、頭痛、食欲不振、不聴を訴え、健康 診断で血清ビリルビンの高値を伴う所機能で書が明 らかになり、さらに震襲のような神経症状も観察され ていた、(DFGOVD+16(1994))、また、肝臓についてはマ ウスの26週間(週3回) 軽口投与試験で重度~中等度 の過形成が認められたとの報告(環境省リスク評価 等4巻(2005) もある。以上の主に上での情報に基づ き基づき区分((肝臓、神経系)とした。一方、マウスに 3週間吸入はな露により240mg/m3(90日相張)を 3週間吸入はな露により240mg/m3(90日相張)を 40mg/m3(96) で重度の呼吸上皮及び嗅上皮傷苦(環 第2イング門面準等(2005))がそれぞいので呼吸 即置前環境は「20人の間が開発の場合の情報、 20分割の過程が表していること 20分割の過程が表していること 20分割の過程が表していること 20分割の過程が表していること 20分割の過程が表していること 20分割の過程が表していることが 20分割の過程が表していることが 20分割の過程が表していることで 20分割の過程が表している。 20分割の過程が表している。 20分割の過程が表している。 20分割の過程が表している。 20分割の過程が表している。 20分割の過程が表している。 20分割の過程が表している。 20分割の過程が表している。 20分割の過程が表している。 20分割の過程が表している。 20分割の過程が表している。 20分割の過程が表している。 20分割の過程が表している。 20分割の過程が表している。 20分割の過程が表している。 20分割の過程が表している。 20分割の過程が表している。 20分割の過程が表している。 20分割の過程が表している。 20分割の 20分割の 20分割の 20分割の 20分割の 20分割の 20分割の 20分割の 20分割の 20分割の 20分割の 20分割の 20分割の 20分割の 20分割の 20分割の 20分割の 20分割を 20分割の 20分割の 20分割を 20分割の 20分割を	区分1(肝 臓、神経 系、呼吸器 系)、区分2 (心臓)	健康有害性	危警告	長期にわたる。又は長度復暴露による臓器、神経系・神経系・の障害、の障害、の障害を見まった。とは反復し、一般を強い、のでは、一般を表して、それて、一般を表して、		10mg/m3以上の温度を定期的ばく露された労働者が 脱力感、疲労感、頭痛、食欲不振、不眠を訴え、健康 診断で血清ビリルビンの高値を伴う肝機能で書が明 らかになり、さらに震戦のような神経症状も観察なれ ていた(DFGOTVa 6(1994))、また、野猫についてはマ ウスの26週間(週3回)経口投与試験で重度~中等度 労本巷(205)もある。以上の主に上での情報に基づ き基づき区分1(肝臓、神経系)とした。一方、マウスに 3週間吸入ば気により/40mg/m3(90日相転) (第12世界所)、ラットにご翻り吸入ばく 露により530mg/m3/00日相正、206mg/m3/6h)で呼吸 境省リスク評価等4巻(2005)、ラットにご翻り吸入ばく 露により530mg/m3/00日相正、206mg/m3/6h)で呼吸 順常で、現代ので、100円で、100円で呼吸 通間吸入はな高により180mg/m3/90日相正、 20月間ので、100円で、100円で呼吸 100円で、100円で、100円で呼吸 100円で、100円で、100円で呼吸 100円で、100円で、100円で呼吸 100円で、100円で、100円で呼吸 100円で、100円で、100円で呼吸 100円で、100円で、100円で、100円で呼吸 100円で、100円で、100円で呼吸 100円で、100円で、100円で、100円で 100円で、100円で、100円で、100円で 100円で、100円で、100円で 100円で、100円で、100円で 100円で、100円で、100円で 100円で、100円で、100円で 100円で、100円で、100円で 100円で、100円で、100円で 100円で、100円で、100円で 100円で、100円で、100円で、100円で 100円で、100円で、100円で、100円で、100円で 100円で、100円で、100円で、100円で 100円で、100円で、100円で、100円で 100円で、100円で、100円で、100円で 100円で、100円で、100円で、100円で 100円で、100円で、100円で、100円で 100円で、100円で、100円で 100円で、100円で、100円で、100円で 100円で、100円で、100円で、100円で 100円で、100円で、100円で、100円で、100円で、100円で、100円で 100円で、100円で	2011.6修正
21B3093	オクタクロロナフタレ ン	2234-13-1	水生環境有害性 (長期間)	区分4	-	-	長期継続的影響によっ て水生生物に非常に強 い毒性		難水溶性で水溶解度までの濃度で急性毒性が報告されていないが、急速分解性がないと推定され (BIOWIN)、かつ生物蓄積性があると推定される(log Kow=85(PHYSPROP Database、2009))ことから、区分4とした。	区分4	-	-	長期継続的影響に よって水生生物に 有害のおそれ		難水溶性で水溶解度までの濃度で急性毒性が報告されていないが、急速分解性がないと推定され (BIOWIN)、かつ生物蓄積性があると推定される(log Kow-8.5(PHYSPROP Database、2009))ことから、区 分4とした。	2014.10修正
21B3094	オルト-アニシジン	90-04-0	発がん性	区分2	健康有害性	警告	発がんのおそれの疑い		IARCで2B (IARC73(1999))に分類されていることに基づき区分2とした。ACGHではA3 (ACGH(2001))に分類されている。なお、ラットおよびマウスに全年間混餌した試験において、ラットでは膀胱と腎盂の移行上皮癌の有意な発生増加、マウスでは膀胱の移行上皮癌と移行上皮用調腫の有意な発生増加がそれぞれ報告されている(IARC73(1999))。	区分2	健康有害性	警告	発がんのおそれの 疑い		IARCで2B(IARC73(1999))に分類されていることに基 づき医分之した。ACGIHではA3(ACGIH(2001))に分 類されている。なお、ラットなよびマウスに2年間混餌 した試験において、ラットでは誘隊と腎盂の移行上皮 癌の有意な発生増加、マウスでは膀胱の移行上皮癌 と移行上皮乳即腫の有意な発生増加がそれぞれ報 告されている(IARC27(1990))。	2014.10修正
21B3097	オルト-セカンダリ-ブ チルフェノール	89-72-5	生殖細胞変異原性	分類できない	-	-	-		invivoの試験報告がなく分類できない。なお、invitroの 試験では、Ames試験で陰性(NTB DB(Access on May 2009)、厚労省報告(Access on May 2009))、及び チャイニーズハムスター肺の培養細胞用いた染色体 異常試験で陽性の報告がある。	分類できない	-	-	-		invivoの試験報告がなく分類できない。なお、invitroの 試験では、Ames試験で陰性(NTP DB(Access on May 2009)、厚が省報告(Access on May 2009)、及び チャイニーズハムスター腕の音差細胞用いた染色体 異常試験で陽性の報告(厚労省報告(Access on May 2009)がある。	2014.10修正
21B3097	オルト-セカンダリ-ブ チルフェノール	89-72-5	水生環境有害性 (長期間)	区分2	環境	-	長期継続的影響によっ て水生生物に非常に強 い毒性		急性毒性区分2であり、急速分解性がない(BODによる分解度:0%(既存点検、2001))ことから、区分2とした。	区分2	環境	-	長期継続的影響に よって水生生物に 毒性		急性毒性区分2であり、急速分解性がない(BODによる分解度:0%(既存点検,2001))ことから、区分2とした。	2014.10修正
21B3133	シクロヘキセン	110-83-8	水生環境有害性 (長期間)	区分2	環境	-	長期継続的影響によっ て水生生物に非常に強 い毒性		急性毒性区分2であり、急速分解性がない(BODIこよ る分解度:0%(既存点検,2003))ことから、区分2とし た。	区分2	環境	=	長期継続的影響に よって水生生物に 毒性		急性毒性区分2であり、急速分解性がない(BODによる分解度:0%(既存点検:2003))ことから、区分2とした。	2014.10修正
21B3134	1,2-ジクロロエタン	107-06-2	眼に対する重篤な 損傷性/眼刺激性	区分2B	-	警告	眼刺激		ヒトでは「本物質が眼に接触した場合、痛み、刺激 流涙などの症状がみられるが、重篤な障害が現れる のは洗顔によって直ちに本物質を除去しなかった場 合のみ。」(CERI・NITE有害性評価書No.3(2004))との 記述があり、ウサギを用いた2つの眼刺激性試験では 怪態度の刺激性」、「刺激性無し」(いずれもCERI・NITE 有害性評価書No.3(2004))との記載がある。以上よ り、区分28とした。	区分2B	-	警告	眼刺激		ヒトでは「本物質が眼に接触した場合、痛み、刺激、流涙などの症状がみられるが、重篤な障害が現れるのは洗眼によって直ちに本物質を除去しなかった場合のみ。」(CERI・NITE有音性評価書No.3(2004))との記述があり、ウサギを用いた2つの眼刺激性試験では「軽度の刺激性」、「刺激性無し」(いずれもCERI・NITE有害性評価書No.3(2004))との記載がある。以上より、区分28とした。	2014.10修正

物質ID	物質名	CAS番号	項目	A STALE		1 12 m - 6 + 1 = 1		修正前	A ST IO IS HERT L	0 tr 6+ m		12 W -0 105T		修正後	A STIPLE BUTT	備考
				分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠・問題点	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠・問題点	
21B3134	1,2-ジクロロエタン	107-06-2	水生環境有害性 (急性)	区分2	-	-	水生生物に有害		甲殻類(アルテミア属)での72時間LC50 = 6900 μg/L (環境省リスク評価第2巻, 2003)であることから、区分 2とした。	区分2	=	-	水生生物に毒性		甲殻類(アルテミア属)での72時間LC50 = 6900 μg/L (環境省リスク評価第2巻, 2003)であることから、区分 2とした。	2014.10修正
21B3134	1,2-ジクロロエタン	107-06-2	水生環境有害性 (長期間)	区分2	環境	=	長期継続的影響によっ て水生生物に非常に強 い毒性		急性毒性区分2であり、急速分解性がない(難分解性、BODによる分解度:0%(既存点検,1978))ことから、区分2とした。	区分2	環境	-	長期継続的影響に よって水生生物に 毒性		急性毒性区分2であり、急速分解性がない(難分解性、BODによる分解度:0%(既存点検,1978))ことから、区分2とした。	2014.10修正
21B3141	臭化メチル	74-83-9	特定標的臟器(単 回)	区分1(神経系、呼吸器、肝臓、腎臓、消化器系)	健康有害性	危険	臓器 (神経系、呼吸器、 肝臓、腎臓、消化器系) の障害		ヒドにおいて、意識錯乱、けいれん、昏睡、視力、吐き 気、嘔吐、腎不全、胃腸障害、肝毒性がみられたとの 報告(NTE初期)スク評価書や。126(2003)に基づき 区分1(神軽系、腎臓、消化器系、肝臓とした。動物 においてはラットおよびマウスの経口投与において呼 吸困難、運動失期、胃の異常懲殊、紅潮、他の臓器 との癒着、液瘍等)、肝臓の迷死の報告 (EHCN.186(195))があり、さらにラットおよびマウス の吸入ばく露において、区分(のガイダンス値 (2500pm//4時間以下)に思する用量で自発運動 の低下、呼吸数の減少、肺炎核変化が見られたとの 報告(無薬登録申請資料(1980))があることから区分 (1呼吸器)とした。なお、腎臓と副腎うっ血が見られた との報告がある(無薬登録申請資料(1980))が詳細 は不明である。	区分1(神経系、呼吸器、肝臓、腎臓、消化器系)	健康有害性	危険	臓器(神経系、呼吸 器、肝臓、腎臓、消 化器系)の障害		ヒドにおいて、意識錯乱、けいれん、香種、視力、吐き 気、嘔吐、腎不全、胃腸障害、肝毒性がみられたとの 報告(NITE初期リスク評価書No.126(2008))に基づき 区分1(神軽系、腎臓、消化器系、肝臓)とした。動物 においてはラットおよびマウスの経口投与において呼 吸困避、運動失調、胃の異常(膨張、紅潮、他の臓器 との着着、流線等)、肝臓の性死の執告(505) (access on 6, 2009))があり、さらにラットおよびマウス の吸入ばく露において、区分・10カイダンス値 (2500pm/4時間以下)に影当する用量で自発運動 の低下、呼吸数の減少、肺炎抹変化が見られたとの 報告(無薬登録申請資料(1890))があるこたから区分 1(呼吸器)とした。なお、腎臓と副腎うっ血が見られた との報告がある(農薬登録申請資料(1980))が詳細 は不明である。	2014.10修正
21B3144	テトラクロロエチレン	127-18-4	特定標的臟器毒性 (反復暴露)	区分1(神経系、肝臓、呼吸器)、区分2(腎臓)	健康有害性	危険警告	長期にわたる、又は反 復場高による誤器(等 機)の障害のおそれ 長があったる。又は反 復議論による誤器(神 経系、肝臓・呼吸器)の 障害		本物質のばく需を受けた101人のドライクリーニング工 特従業員の調査において、感覚運動反応、配徳、集 中といった神経心理学的機能の重大な障害、刺針感 覚の障害、手足のしびれ、リウマ子性の痛み、体のふ たつき、悪心といった自律神経博音の微性、情緒不安 定のようなパーツナリティ構造の変化が観察されている (6CERI-NITE有害性評価書(2005))ことから、区分1 (神経系)とした。また、疫学調査において3週間〜6年 間の本物質は(露による所見として、肝障害、肝硬 変、肝腫大の記載、および呼吸困難、咳、肺水腫の記 拡がある(CERI-NITE有害性評価書(2005))ので区分 1 (肝臓、呼吸器とした。肝臓の場合は、ラットに 1 355mg/L / 4hを3週間吸入 (蒸気 は/露により肝臓 の場形(空) (101年) (1914)、マウス「2009mg/hの)集中心 性脂肪変性 (MITE初期)ノスウア局(画2006))かまか 性筋がある。一方、マウスに100ppm/6h に890mg/L/6h)以上を2年間吸入 (蒸気 は/露により 野難の尿細管上皮細胞の核肥大、尿円柱、ネフ ローゼが報告(CERI-NITE有害性肝血素)で205)さ れ、用量がガイダンス値区分2に相当することから、区 分2(腎臓)とした。以上より、分類は区分1(神経系、肝肝 が14年、アナル・アナル・アナル・アナル・アナル・アナル・アナル・アナル・アナル・アナル・	区分1(神経系、肝臓、呼吸器)、腎臓炎(腎)、腎臓)	健康有害性	危険	長期にわたる。又は 反復暴露による臓 器で腎臓の障害 がまそれ 長期にかたる、又は 反復暴露による臓 器・神経系、肝臓 呼吸器)の障害		本物質のばく露を受けた101人のドライクリーニング工 場体業員の調査において、悪気運動反応、記憶、集 中といった神経心理学的協能の重大な障害、割針感 覚の障害、手足のしひれ、リウマ子はの痛み、体のみ。 たつき、悪心といった自律神経障害の微核、特絡不安 定のようなパーツナリティ構造の変化が観察されている。区分1 (付神経系)とした。また、疫学調査において3週間~6年 間の本物質は公寓による所見として、肝障害、肝硬 変、肝腫大の記載、および呼吸困難、咳、請水腫の記 載がある(OERI・NITE有害性評価書(2005))とかので区分 1 (肝臓、呼吸器)とした。肝臓の場合は、ラットに 1 335mg/L/4hを8週間吸入(蒸気)はく露により肝臓 が助る(OERI・NITE有害性評価書(2005))かで区分 1 (肝臓、呼吸器)とした。肝臓の場合は、ラットに 1 335mg/L/4hを8週間吸入(蒸気)はく露により肝臓 使脂肪変性(NITE初明)ノクマウスに2009の「かどの報 告がある。一方、マウスに100pm/6h に950mg/L/6h)以上を2年日間吸入(蒸気)はく露によ リ腎臓の尿細管上皮細胞の核肥大、尿円柱、ネフ ローゼが発き(OERI・NITE有害性肝細定205)」され、用量がガイダンス値区分2に相当することから、区 72 (簡単)とした。以上より、分類はほ分)(神経系 肝臓、アリスに10分に、日間吸入に表気)は (第二以上で、以上に、以上より、分類はは分)(神経系 肝臓の、足ので、日間、日間、日間、日間、日間、日間、日間、日間、日間、日間、日間、日間、日間、	2014.10修正
21B3162	パラ-ニトロクロロベン ゼン	100-00-5	水生環境有害性 (長期間)	区分2	環境	-	長期継続的影響によっ て水生生物に非常に強 い毒性		急性毒性区分2であり、急速分解性がない(BODによる分解度:0%(既存点検、1976))ことから、区分2とした。	区分2	環境	-	長期継続的影響に よって水生生物に 毒性		急性毒性区分2であり、急速分解性がない(BODによる分解度:0%(既存点検, 1976))ことから、区分2とした。	2014.10修正
21B3165	メタ-フェニレンジアミ ン	108-45-2	標的臟器/全身毒性(反復暴露)	区分1(神経系、肝臓、腎胱)、区分2(血液)	健康有害性	危険警告	長期にわたる。又は反 復基露による編纂(神経 系、肝臓、腎臓、膀胱) の障害 長期にわたる 又は反 復暴露による臓器(血 液)の障害		ヒトについては、本物質に長期間暴露された労働者に「反射異常、皮膚の対態過敏、腎臓及び肝臓の病理を化1環境省リスク評価第3巻(2004)、「排尿障害 的語の抗臓浮腫、ポリーブ状腫腫、膀胱骨下部に両 帝と頚部への細胞浸潤(好酸球)」(ACGIH(2001))等の記述、動物試験については、ラットを用いた13週間経口投与試験において用量18mg/kgで1枚基齢を起こした細胞をとを公子肝臓の変性的位増加」(ACGIH(2001)、ラットを用いた4週間経口投与試験において用量100mg/kg/910月線度・311mg/kg/0で/メトモグロビン血症」、ラットを用いた4週間経口投与試験において用量56mg/kg以でずが、大モグロビン血症」、ラットを用いた4週間経口投与試験において用量56mg/kg以で手が開業したり、神経験において用量56mg/kg以で手所能と中枢神経系の損傷「(IUCLID(2000)等の記載があるとから、神経系・肝臓、腎臓、膀胱、血液が緩的臓器と考えられた。なお、果験動物に対する影響は、皮に関していたり、力質は医分1に根当するがずの大風の範囲でみられた。以上より、分類は区分1位神経系、肝臓、腎臓、膀胱・位ブック、強用症、引力に対した。以上はり、分類は区分1位神経系、肝臓、腎臓、膀胱・0ブック、強用症、指の終末血管は低速、原序膜、徐脈、心ブック、強用症、指の終末血管は低速、肺線維化、食道化学の表質、上類の暴露データに基づいておりがにでありまりを発しているが、大切に対しておりが、大切に対しておりが、大切に対しているが、大切に対したが、大切に対しているが、大切に対しているが、大切に対しているが、大切に対しているが、大切に対しているが、大切に対しているが、大切に対しているが、大切に対しているが、大切に対し、大切に対しているが、大切に対しているが、大切に対しが、大切に対しているが、大切に対しているが、大切に対しているが、大切に対しが、大切に対しないが、大切に対しないが、大切に対しが、大切に対しないが、大切に対しが、対しが、対しが、大切に対しが、大切に対しが、対しが、大切に対しが、大りに対しが、大切に対しが、大切に対しが、大切に対しが、大りに対しが、大切に対しが、大切に対しが、大切に対しが、大切に対しが、大切に対しが、大りに対しが、大りに対しが、大切に対しが、大切に対しが、大り	区分1(神経、系肝臓、腎臓、)、区分2(血液)	健康有害性	危険告	長期にわたる、又は 反復暴露による識 器(練、肝)の際は 長期にわたる。又職 長期におたる。又職 を 最初には のの で お を お を お た の に の に の に の に の に る で 長 期 に の に る で 長 期 に の に る で は る に る に る に る に る に る に る に る に る に る		ヒトについては、本物質に長期間暴露された労働者に「反射異常、皮膚の知覚過敏、腎臓及び肝臓の病理を上に度対象はフク末層で3を2004)、「料保障害 誘熱的私態浮腫、パリーブ状腫腫、膀胱長下部に当 帝と茲部への細胞浸潤(好酸球)(ACGIH(2001)等の記述、動物試験については、ラットを用いた13週間経口投与試験において用量18mg/kgで1枚基盤を投入に4GGIH(2001)、ラットを用いた14週間経口投与試験において用量10mg/kg/901投算値・311mg/kg/0下人を行口ピン血症」、ラットを用いた14週間経口投与試験において用量100mg/kg/901投算値・311mg/kg/0下/外へモグロピン血症」、ラットを用いた14週間経口投与試験に対いて用量5.6mg/kg以しずれも環境を1人と呼降を発展して行機を存成が表別を1人と呼吸が表別を1人と呼吸が表別を1人とでは一般である。1人とは一般である。1人は「単独ないる」1人は、1人は、1人は、1人は、1人は、1人は、1人は、1人は、1人は、1人は、	2011.6修正
21B3165	メタ-フェニレンジアミ ン	108-45-2	水生環境有害性 (長期間)	区分2	環境	-	長期継続的影響によっ て水生生物に非常に強 い毒性		急性毒性が区分2、急速分解性がない(BODによる分解度:2%(既存点検,1985))ことから、区分2とした。	区分2	環境	-	長期継続的影響に よって水生生物に 毒性		急性毒性が区分2、急速分解性がない(BODIによる分解度:2%(既存点検,1985))ことから、区分2とした。	2014.10修正

物質	D 物質名	CAS番号	項目					修正前						修正後		備考
11139	1//95 11	-,10 = 1	-7.1	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠・問題点 ラットを用いた13週の吸入慢性毒性試験で、動物は	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠・問題点 ラットを用いた13週の吸入慢性毒性試験で、動物は	, J.
21B32	00 オルト-ニトロクロロ ンゼン	≺ 88-73-3	生殖毒性	分類できない	-	-	-		死亡しない高用量(18ppm)で、途の背具重量、精子細胞数の減少が観合されている。度では有意な影響が ある減少が観合されている。度では有意な影響が からかった(NIPTO KNo.33(1993))。同様のマウス を用いた13週の吸入慢性毒性試験で、動物の死亡 (10匹中2匹)を含む最高用量(18ppm)及び多用量 (4.5、9、18ppm)で、途の精子運動性の減少が報告 れている。健では有意な影響がみられなかった (NIPTO KNo.33(1993))。以上の報告より、分類で含か いとした。なお、マウスを用いた連続繁殖試験 健雄 マウスに交配前7日間及び交配中99日間、3用量を始 制経口投与7「仟体車は低いものの、受診能への 影響は早られなかった(NIPTO KNo.33(1993))、ほかに 、妊娠中種ラットの必修口移ら試験で、投与異と対 開発との奇形仔数の違いはなく、発生事性は確認さ れていないが、SIDSでは生殖毒性の可能性があると している(SIDS(2011))。	分類できない	-	-	-		死亡したい高用量(16ppm)で、雄の精巣上体の重量 精子網胞製の減少物能合されている。雌では有意な 影響が与れなかった(NTPTONAo.33(1993))。同様の マウスを用いた13週の吸入侵性電性試験で、動物の 死亡(10匝で足)を含む意象用量(18ppm)返り金用 量(4.5、9、18ppm)で、雄の精子運動性の減少が報告 されている。雄では再意な影響があられなかった (NTPTOXNo.33(1993))、以上の報告より、分類を はいとした。なお、マウスを用いた連続繁殖はより、分類を りがした。 が展生の場合で、任体重は低いものの、受動能への 影響は見られなかった(NTPTOXNo.33(1993))、ほかに 上紙海中電ラットへの経口投与試験で、投与罪と対 照群との奇形行数の違いはなく、発生毒性は確認さ れているにが、SIDSでは生殖毒性の可能性があると している(SIDS(2001))。	2014.10修正
21B32	00 オルト-ニトロクロロ ンゼン	88-73-3	水生環境有害性 (長期間)	区分3	-	-	長期継続的影響によっ て水生生物に非常に強 い毒性		急性毒性区分3であり、急速分解性がない(BODによる分解度:0%(既存点検、1977))ことから、区分3とした。	区分3	-	-	長期継続的影響に よって水生生物に 有害		急性毒性区分3であり、急速分解性がない(BODによる分解度:0%(既存点検,1977))ことから、区分3とした。	2014.10修正
21000	エチレングリコール 07 ノブチルエーテルア テート		,特定標的膜器毒f (単回暴露)	区分1(中枢神 差 経系、血液、 全身毒性、 区分2(腎臓)	健康有害性	危険警告	臓器(中枢神経系、血 液、全身毒性)の障害 臓器(腎臓)の障害のお それ			区分1(中枢血神経、血神経、全身分2(腎臓)	健康有害性	危険告	臓器(中枢神経系、 血液、障害 障害 臓器 腎臓)の障害 のおそれ		つサギを用いた経皮急性毒性試験(LD50 = 1500 mg/ks:区分に相当)の所見としてヘモグロビン原、	2014.10修正
21000	エチレングリコール 07 /ブチルエーテルア テート		,特定標的臟器毒t (反復暴露)	E 区分2(血液、 腎臓)	健康有害性	警告	長期にわたる。又は反 復暴露による臓器(血 液、腎臓)の障害のお それ		ラットを用いた30日間吸入試験(4時間暴露)でガイダンスの区分2に相当する400 ppm/4h[90日6時間構正:約0.71 mg/U6h]の用量で死亡、ヘモグロビン原、血尿、赤血球数とヘモグロビンの減少、腎臓肥大とネフローゼが記述され、さらにラット、ウサギおよびネコを用いた4個間の吸入は(玄誠族(6時間最終)の区分2に相当する23 mg/L[90日換算:約0.71 mg/L]の用など背血が特徴的な所見として報告されている(SID)8 (access on June 2008)、いずもガイダンス値範囲区分2に放棄、腎臓とした。なお、エチレングリコールモノブチルエーテルのラットおよびマウスには4回間吸入は(玄談接を見ると、西部物種とも825~125 ppm(区分2に該当)以上で溶血性貧血を表した。150 mg/Mg/L mg/Mg/Mg/L mg/Mg/Mg/L mg/Mg/Mg/L mg/Mg/Mg/Mg/L mg/Mg/Mg/Mg/Mg/Mg/Mg/Mg/Mg/Mg/Mg/Mg/Mg/Mg	区分2(血液、腎臓)	健康有害性	警告	長期にわたる。又は 反復暴露による臓 器(血液、腎臓)の 障害のおそれ		ラットを用いた30日間吸入試験(4時間暴露)でガイダンスの区分2に相当する400 ppm/4h[90日時時間構正 約9.17 mg/Veilの用電で死亡、へそプロビン尿、血尿、赤血球数とヘモグロビンの減少、腎臓肥大とネフローゼが記述され、さらにラット、ウサギおよびネコを用いた4週間の吸入(ば蒸試験(6時間暴露)の区分2に相当する2.3 mg/L[90日検算・約0.71 mg/L]の用量でへモグロビン、ヘマトツ)・の減少など貧血が特徴的な所見として報告されている(SIDS (access on June 2009)、レ・オネもガイタンス値範囲区分2に該当する用量で観察されていることから区分2位施次、腎臓とした。なお、エチレングリコールモノブチルエーテルアセデート体内での加水分解物であるエキレングリコールモノブチルエーテルのラットおよびマウスに14 週間吸入は(蒸試験を見るた。同動物種と625~125 ppm(区分2に該当)以上で溶血性貧血を示し、肝臓、腎臓、骨髄、骨髄、脾臓の各組織に貧血所見と符号が表している(SIDS (access on June 2008))。	2014.10修正
21C00	12 ニッケル	7440-02-	0 可燃性固体	分類できない	-	-	-	-	物態、ダストはUN1436に該当し、IMDGIこ「easily ignited、causing explosion」と記載されている。粒子サイズ、形状等が結果に影響するので、国連文書2724注記に従い、所定の試験をして区分判定すべきである。プロック状態の亜鉛は区分外と考えられる。	分類できない	-	-	-	-	形状が特定されておらず、またデータがないので分類できない。また、1CSC(2004)では粉塵は引火性であるとしており、Sax (11th、2004)では適常では金属は微粉末になるほど火災や爆発の危険度が大きいとしている。なお、国連危険物輸送動きでは、金属粉末何燃性のものが他に易名が明まれれているものを除くはクラス・区分 4.1容器:等級別、即(国連番号3089)で、「区分1」または「区分2」に該当している。	2018.3修正
21000	15 硝酸ニッケル	13138-45	水生環境有害性 (急性)	区分1	環境	警告	水生生物に非常に強い 毒性		甲殻類(タマミジンコ)の48時間LC50=0.461mg/L (CERI·NITE有害性評価書(暫定版)、2006)(硝酸 ニッケル(II)濃度換算値:0.587mg/L)から、区分1と した。	区分2	-	_	水生生物に毒性		甲殻類(タマミジンコ)の48時間LC50=0.461mg/L (CERI-NITE有害性評価書(暫定版)、2006)(硝酸 ニッケル(II)濃度換算値:1.435mg/L)から、区分2と した。	2012.3修正

物質ID	物質名	CAS番号	項目					修正前						修正後		備考
物臭ロ	彻县石	UNS留写	項目	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠·問題点	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠・問題点	1
21C001	う 硝酸ニッケル	13138-45-9	水生環境有害性 (長期間)	区分1	環境	警告	長期継続的影響により 水生生物に非常に強い 毒性		急性毒性が区分1、金属化合物であり水中での挙動 および生物蓄積性が不明であるため、区分1とした。	区分2	環境	-	長期継続的影響に より水生生物に毒 性		急性毒性が区分2、金属化合物であり水中での挙動 および生物蓄積性が不明であるため、区分2とした。	2012.3修正
21C001	7 酸化ニッケル	1313-99-1	生殖毒性	分類できない	-	-	-		ラットの器官形成期に吸入ばく驚した試験において、 観動物の体重減少の認められる用量で仔の体重減 少以外に影響は見られていないが、親動物の性機 能、生種能に関するデータがないことからデータ不足 のため分類できない。	分類できない	-	-	-		ラットの器官形成期に吸入ばく霧した試験において、 親動物の体重減少の認められる用量で行の体重減 少以外に影響は見られていないが、親動物の性機 能、生殖能に関するデータがない(ATSDR (2005))こ とからデータ不足のため分類できない。	2014.10修正
210001	酸化ニッケル	1313-99-1	特定標的臓器毒性 (反復暴露)	区分1(呼吸器)	健康有害性	危険	長期にわたる、又は反 復奏簿による臓器・呼 吸器)の障害		厚生労働省報告では、職業的にニッケル酸化物や金属ニッケルの0.04m/m3以上の濃度にばく驚している動き、呼吸器疾患で死亡する確率が高いとされ、また、ニッケル特殊とニッケルシャナ作業者に鼻炎、副鼻酸炎、鼻中隔穿孔、鼻粘膜異形成の報告がある「厚生労働、省齢をニッケルシャナ作業者に臭き、上た。動物試験では、ラットを用いた13週間の吸入試験において、肺の肉芽性炎症、気管支および縦関ン、が節の過形成がガイダンスの区分1に相当する0.004mgk/l/で認められくば客間が続いまいて、羊原の編平上皮化生、肺胞の過形成、線維化がガイダンスの区分1に相当する0.000mg/Lであったた(NTPT に相当する0.000mg/Lであったた(NTPT 451(1996))。また、マウスを用いた104週間の吸入ば、電試験において、羊原の過平上451(1996))。また、マウスを用いた104週間の吸入ば、電試験においても肺の変と気管を見いが高におけるリンパ球過形成がガイダンスの区分10円置で認められている(NTPTR-451(1996))ことから区分1(呼吸器)とた。	区分1(呼吸器)	健康有害性	危険	長期にわたる、又は 反復暴露による臓器 器(呼吸器)の障害		厚生労働省報告では、職業的にニッケル酸化物や金属ニッケルの004m/m3以上の濃度にばく驚してり物働者は、呼吸器疾患で死亡る確率が高いとされ、また、ニッケル特殊とニッケルメッキ作業者に鼻、上間線を送り、鼻を破り、鼻粘膜異形成の報告がある(厚生労働省報告・ニッケルおよびその化合物有書性評価を2009)。これしたり図うに何吸した。動物試験では、ラットを用いた13週間の吸入試験にあいて、肺の肉等性炎症、気管支および縦関)、小部の過形成がガイダンスの区分1に相当する0004mgk/i/-で窓められくばる無対ないて、肺のの番形成がガイダンスの区分1に相当する0000mg/にクラムたに(NTPに相当する0000mg/にクラムたに(NTPに相当する0000mg/にクラムた(NTPに相当する)では、線維化がガイダンスの区分1に相当する0000mg/にクラムた(NTPに相当する0000mg/にクラムた(NTPに相当する)でいまでは、は一般では一般である。	2014.10修正